

令和8年度 入学生

理学療法学科

履 修 の 手 引 (シラバス)



学校法人 南学園

鹿児島医療福祉専門学校

目 次

【カリキュラム概要】

建学の理念	(1)
鹿児島医療福祉専門学校・3つのポリシー	(2)
理学療法学科、各学年別学習到達目標	(3)
理学療法学科の教育方針と教育目的、3つのポリシー	(4)
理学療法学科教育課程表	(6)
理学療法学科、カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・・・	(8)
履修の手引	(1 0)
国家試験出題内容一覧（第56回～第60回）	(1 2)

【科目別学習内容】

基礎分野	(1 7)
専門基礎分野	(2 6)
専門分野	(4 7)
選択科目	(8 4)
シラバス索引	(8 5)

真愛

建学の理念

「真愛」

愛はすべての根源、常に心にまことの愛を問い、さがし求めながら、自分を磨き、高め、実践して行く姿である。

まことの愛の本質は自己を愛するように他者を愛する自他一如の境地に達することからはじまる。

その中から真の思いやりが生まれ、代償を求めない価値ある愛が芽生える。

教職員も学生も真愛を求めて研鑽することに意味がある。

わたくしの誓い

- 一、わたくしはいのちを大切にします
- 二、わたくしは夢に向かって進みます
- 三、わたくしは品位を尊重します
- 四、わたくしは規律を守ります
- 五、わたくしは心身を鍛練します

(平成 12 年 4 月 1 日制定)

鹿児島医療福祉専門学校・3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

本校建学の理念「真愛」の精神、すなわち「まことの愛は自己を愛するように他者も愛することからはじまる」を十分に理解するとともに、専門職業人として生命の尊重と人間愛を基盤に、感性豊かな人間性を培い、全人的な医療・福祉を尊重し実践できる人材を受け入れる。

- 1 人を愛し、感謝の気持ちを持てる人
- 2 チームワークに必要な協調性を持てる人
- 3 医療・福祉の専門職に関心を持ち、知識・技術・態度の習得に積極的に取り組める人
- 4 社会貢献、地域貢献に関心を持つとともに、多様性の理解に取り組める人

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・運営の方針）

医療・福祉の基本的な知識・技術・技能を幅広く理解するとともに、主体的な学びを通してプロフェッショナルな人材の育成を目指し、人間教育の推進と健康な心と体の育成を行う科目を設定する。

- 1 基本的な知識・技術・技能を幅広く理解するとともに、主体的な学びを通して専門的能力を育成する。
- 2 人としての尊厳と自立を支える医療・福祉業務に必要とされる豊かな人間性を育成する。
- 3 医療・福祉の専門職業人を目指し、知識と技術および技能を身につけ、社会や地域に貢献できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（称号授与の方針、卒業時に必ず身に付けている能力）

本校教育課程編成の基本的な考え方に沿って設定した授業科目を履修し、医療・福祉の専門職業人として必要な倫理観と知識・技術・技能を有するとともに、自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる次の能力を備えた者に専門士を授与する。

- 1 医療・福祉の専門職業人として必要な知識・技術・技能・態度を身に付けている。
- 2 豊かな人間性を身に付け、なにごとにも主体的に取り組むことができる能力を有している。
- 3 組織やグループの中でリーダーシップやフォロワーシップを発揮できる。
- 4 チーム医療に必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働して遂行できる能力を有している。
- 5 医療・福祉のニーズに柔軟に対応し、社会・地域に貢献できる能力を有している。

理学療法学科、学年別到達目標

【理学療法学科、卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）】

豊かな人間性を備え、自立した理学療法士として人々が抱える健康問題に適切、かつ柔軟に対応し、将来、臨床・教育及び研究の分野において、リーダーシップを発揮しうる人材の育成を目指すことを教育方針とする。

学年別 到達目標 理学療法学科 ディプロマ・ポリシー 細項目		1年次目標	2年次目標	3年次目標
		学習に向かう習慣と態度を身につけ、理学療法士としての態度・知識・技術の基礎を学ぶ。	1学年で学んだ理学療法の知識・技術を基礎としてリハビリテーションの現場で必要な臨床医学や理学療法治療学と臨床理学療法を学ぶ。	1学年、2学年の2年間で学んだ理学療法の知識・技術や医療人としての心構えを実際の臨床現場において臨床実習という形で定着させる。
教育目標 1	理学療法士に必要な基本的知識、基本的技術・技能、基本的態度を身に付けている。	理学療法士としての基礎となる知識・評価技術を理解し、安全に実施できる能力を修得するとともに、医療者としての基本的態度と主体的な学習姿勢を確立する。	1年次の基礎を踏まえ、代表的疾患の病態と治療を理解し、疾患別の理学療法評価・介入を論理的に行えるようになる。 さらに、模擬症例や評価実習を通して治療計画を立案し、医療倫理に基づいた態度を習得する。	1・2年次の学びを統合し、実習に必要な臨床推論・治療計画・記録作成を含む理学療法過程を遂行できる。 併せて、医療者としての責任ある態度と協働性を備え、主体的な学びを継続し将来の職業選択に必要な判断力を養う。
教育目標 2	理学療法士として、科学的・論理的思考に基づく観察力・判断力・問題解決能力を有している。	人体の構造・機能と基本動作を理解し、健常者の動作を観察・説明するとともに、評価結果を基に正常と異常の違いに気づき、問題点を整理する基礎的思考力を身につける。	症例演習を通して、動作観察から問題点を抽出し、病態生理を踏まえて原因を推測し、評価項目の選択と治療計画の方向性を論理的に示す臨床推論の基礎を身につける。	実習において、対象者の情報を統合して問題点を明確化し、ニーズに基づく目標設定と優先順位を踏まえた理学療法計画を立案し、再評価を通じて改善策を検討する臨床的問題解決能力を身につける。
教育目標 3	組織やグループの中でリーダーシップやフォロワーシップを発揮できる。	授業やグループワーク、クラス運営を通して役割分担の重要性を理解し、責任ある役割遂行と基本的なフォロワーシップを発揮しながら、協力して課題に取り組む態度を身につける。	グループワークやクラス運営において、計画・進行管理・役割依頼によるリーダーシップの基礎と、他者理解に基づくフォロワーシップを発揮し、協働して目標達成に主体的に取り組む力を身につける。	臨床実習や学内活動において、状況に応じたリーダーシップとフォロワーシップを発揮し、チームと協働して課題解決に取り組むとともに、組織の一員として責任ある行動を身につける。
教育目標 4	チーム医療に必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働して遂行できる。	授業や演習を通して、傾聴と分かりやすい自己表現を基盤としたコミュニケーション能力を身につけ、他職種の役割を理解しながら、協力的に他者と関わる姿勢を養う。	症例検討やグループワークにおいて意見の違いを尊重し、建設的な提案と情報共有を行いながら、他職種の専門性と協働の意義を理解し、チーム機能の向上に貢献する姿勢を身につける。	臨床実習において、対象者のニーズを踏まえた情報共有と相談を通じて他職種と協働し、チーム医療における理学療法士の役割を理解しながら、自らの判断を適切に伝える力を身につける。
教育目標 5	医療・福祉のニーズに柔軟に対応し、社会・地域に貢献できる能力を有している。	医療・福祉に関わる制度や社会的背景を理解し、地域社会における理学療法士の役割を学び、地域活動への参加を通して医療職としての社会貢献意識を身につける。	実習や授業を通して医療・福祉領域の社会的ニーズと背景を理解し、地域活動を通じて柔軟に行動しながら、利用者の生活背景を踏まえた支援を考える力を身につける。	実習経験を通して、地域・社会の医療・福祉課題を理解し、地域包括ケアや多職種連携の視点から理学療法士としての貢献のあり方を考え、自身の能力と社会ニーズを踏まえた進路選択に生かす。

理学療法学科の教育方針と教育目的、3つのポリシー

1) 理学療法学科の教育方針

豊かな人間性を備え、自立した理学療法士として人々が抱える健康問題に適切かつ柔軟に対応し、将来、臨床・教育及び研究の分野において、リーダーシップを発揮しうる人材の育成を目指すことを教育方針とします。

2) 理学療法学科の教育目的

- (1) 一般的な知識と教育を身につけ、社会人として良識ある行動が行える能力を養います。
- (2) 理学療法士に必要な専門的知識・技術を身につけ、対象者に適した施行ができる能力を養います。
- (3) 他職種と連携をとり、総合的な視点からアプローチができる能力を養います。
- (4) 対象者を総合的にとらえ、より多角的に評価・治療できる能力を養います。
- (5) 理学療法士としての使命を自覚し、人の心の痛みや喜びがわかる豊かな人間性を養い、全ての人間を人間として尊重する態度を養います。

3) 理学療法学科の3つの方針

【称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

理学療法学科は、「豊かな人間性を備え、自立した理学療法士として人々が抱える健康問題に適切かつ柔軟に対応し、将来、臨床・教育及び研究の分野において、リーダーシップを発揮しうる人材の育成」を教育方針に掲げています。

そのため、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、理学療法士として必要な倫理観と基本的知識、基本的技術・技能を有するとともに、自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えた者に称号を授与します。

具体的には、定められた単位を修得し、以下のことを身につけた学生に卒業を認定し、専門士の称号を授与します。

- (1) 理学療法士に必要な基本的知識、基本的技術・技能、基本的態度を身に付けている。
- (2) 理学療法士として、科学的・論理的思考に基づく観察力・判断力・問題解決能力を有している。
- (3) 組織やグループの中でリーダーシップやフォロワーシップを発揮できる。
- (4) チーム医療に必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働して遂行できる。
- (5) 医療・福祉のニーズに柔軟に対応し、社会・地域に貢献できる能力を有している。

【教育課程の編成・運営の方針（カリキュラム・ポリシー）】

理学療法学科のカリキュラムは、前述した教育目的・教育目標に則り、ディプロマ・ポリシー達成のために1年次から2年次までは理学療法士として必要な基礎科目、専門基礎科目、専門科目を講義や演習・実習で学びます。3年次は臨床実習にて臨床の現場において、実践的な学習を行います。なお、実践的な学習として、入学後早期（7月）に1週間の実習（見学実習）、2年次後期（11月）に4週間の実習（評価実習）を行い、実践現場における理学療法の基礎的な知識・技術・態度を習得します。

人材育成の方針は以下の通りです。

- (1) 理学療法士国家試験受験資格取得を目的とする理学療法士課程を基本とする。
- (2) 理学療法士に必要な基本的知識、基本的技術・技能を幅広く理解するとともに、主体的な学びを

通して専門的能力を育成する。

(3) 人としての尊厳と自立を支える医療・福祉業務に必要とされる豊かな人間性を育成する。

(4) 医療・福祉の専門職業人を目指し、知識と技術および技能を身につけ、社会や地域に貢献できる人材を育成する。

＜学習方法＞

授業は、講義、演習、学外実習のいずれかでを行います。ペア学習・グループ学習などのアクティブラーニングやシミュレーション教育、ICT 技術、ペーパーペイシェントを取り入れ、実践に即した学習を行います。

＜学習内容＞

- (1) 1 年次には基礎分野と専門基礎分野を中心に学びます。1 年次早期の見学実習では臨床現場で理学療法士の働きを実際に見学し、リハビリテーションにおける理学療法士の役割への理解の向上を図ります。
- (2) 教育課程は基礎分野で科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解、専門基礎分野では人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念を学びます。その上で専門分野では、理学療法士に必要な高い専門性を得るための科目を学び、運動器障害、神経障害、内部障害、発達障害、老年期などで理学療法を必要とする対象者を理解する視点を獲得します。また、対象者の基本動作能力の改善・維持を図るための手段として、運動療法や物理療法を講義・演習を通して習得します。また、2 年終了時には理学療法共用試験機構の CBT (Computer Based Testing) を実施し、これまでの学習の到達度を図ります。
- (3) 3 年次には客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を総合実習の前後に実施し、評価を受けることでスキルアップを図ります。

＜学習成果の評価＞

各授業科目の単位認定は定期試験、レポート、実技試験等によって、学習成果の到達度を厳格に評価します。3 年間の学習成果は、講義・演習科目および臨床実習を多様な学習評価方法を用いて厳格に認定し、修得単位数から成績評定値 (GPA) を算出し、専門士の質保証を担保します。

決められた卒業要件を満たした学生は、理学療法士の国家試験受験資格が与えられます。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

本校建学の理念「真愛」の精神、すなわち「まことの愛は自己を愛するように他者也愛することからはじまる」を十分に理解するとともに、理学療法士として生命の尊重と人間愛を基盤に、感性豊かな人間性を培い、全人的な医療・福祉を尊重し実践できる人材育成を目指し、次のような学生を求めます。

- (1) 人を愛し、感謝の気持ちを持てる人
- (2) チームワークに必要な協調性を持てる人
- (3) 医療・福祉の専門職に関心を持ち、知識・技術・態度の習得に積極的に取り組める人
- (4) 社会貢献、地域貢献に関心を持つとともに、多様性の理解に取り組める人

上記、4 つの要件を満たすために、規則正しく健康的な生活習慣を身に付け、積極的、かつ協調的に学習でき、ボランティア活動や地域諸活動へ積極的な関心と社会貢献への意欲を持つ者を求めます。

理学療法学科 教育課程表

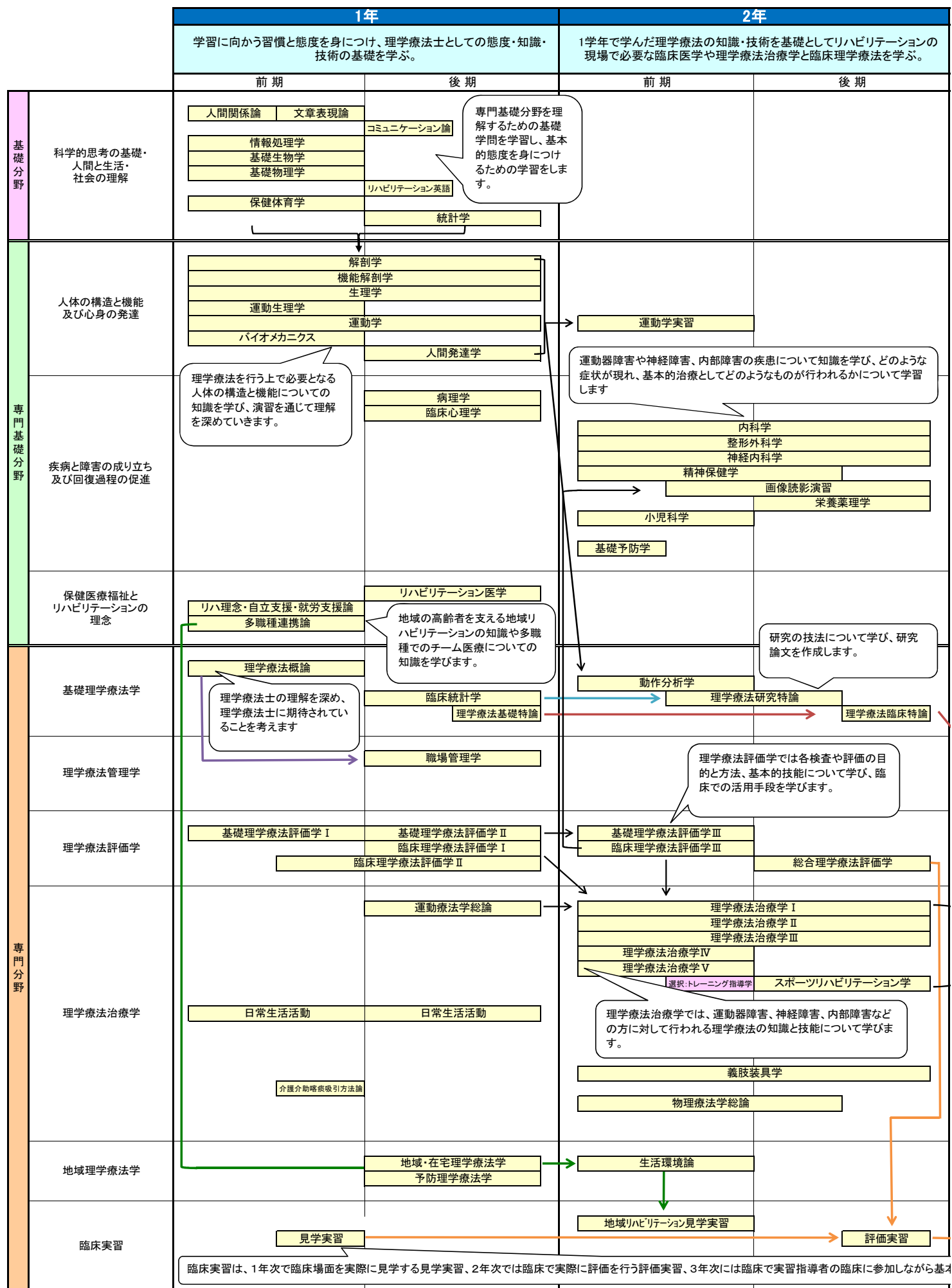
2025年4月1日より施行

区分	教育内容	科目名	担当講師名	単位	時間数				1年		2年		3年		頁
					講義	演習	実習	計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	間科と学的思考・社会基盤の理解・解人	人間関係論	中森恵美子、河野忍、田中潤	1	15			15	15						17
		コミュニケーション論	田中潤、角幸治	1	7	8		15	15						18
		情報処理学	草宮めぐみ	2		30		30	30						19
		基礎生物学	上水樽豊己	2	30			30	30						20
		基礎物理学	持留岑生	2	30			30	30						21
		文章表現論	白尾麻美、池田由佳子	1	15			15	15						22
		リハビリテーション英語	オウエン・ロバート・プリンス、白尾麻美	2		30		30		30					23
		保健体育学	平川洋介	2	10	20		30	30						24
		統計学	藤崎恒晏	2	30			30		30					25
	小 計			15	137	88		225	165	60					

区分	教育内容	科目名	担当講師名	単位	時間数				1年		2年		3年		頁
					講義	演習	実習	計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	赤坂恵理	2	60			60	30	30					26
		機能解剖学	白尾麻美	2	30			30	30						27
		生理学	赤坂恵理	2	60			60	30	30					28
		運動生理学	野方敏行	1	15			15		15					29
		運動学	寺師順一	2	60			60	30	30					30
		運動学演習	寺師順一、吉田治正	1		30		30			30				31
		人間発達学	竹田孝幸	1	30			30		30					32
		バイオメカニクス論	津村裕光	1	30			30	30						33
	小 計			12	285	30		315	150	135	30				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	高崎隆志	1	30			30		30					34
		臨床心理学	大島英世	1	30			30		30					35
		内科学	徳留京子	2	60			60			30	30			36
		整形外科学	白尾麻美、用皆正文	2	60			60			30	30			37
		神経内科学	堂園浩一朗、松崎敏男	2	60			60			30	30			38
		精神保健学	築瀬誠	1	45			45			30	15			39
		小児科学	要千草	1	20			20			20				40
		栄養薬理学	山田勝士、有村恵美	1	30			30				30			41
		画像読影学演習	徳留京子、用皆正文、吉田治正	1		45		45			15	30			42
		基礎予防学	安藤哲夫	1	15			15			15				43
		多職種連携論	森川千江美、堂園浩一朗、中野麻美、兒島邦幸、徳永弘樹、中森美恵子、早坂滋樹、金谷親好	1	30			30	30						44
	小 計			14	380	45		425	30	60	170	165			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	堂園浩一朗	2	30			30		30					45
		リハビリテーション理念・自立支援・就労支援論	津村裕光	2	30			30	30						46
	小 計			4	60			60	30	30					

区分	教育内容	科目名	担当講師名	単位	時間数				1年		2年		3年		頁
					講義	演習	実習	計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	基礎 理学療法学	理学療法概論	津村裕光、野方敏行	1	30			30	30						47
		動作分析学	寺師順一	1	30			30			30				48
		理学療法研究特論	吉田治正	2	10	20		30			15	15			49
		理学療法基礎特論	理学療法学科教員	1	15			15		15					50
		理学療法臨床特論	理学療法学科教員	1	15			15				15			51
	小 計			6	100	20		120	30	15	45	30			
	理学療法 管理学	理学療法管理学	津村裕光、田中潤	2	30			30		30					52
	小 計			2	30			30		30					
	理学療法 評価学	基礎理学療法評価学Ⅰ	坂元美幸	1		30		30	30						53
		基礎理学療法評価学Ⅱ	田中潤	1		30		30		30					54
		基礎理学療法評価学Ⅲ	田中潤	1		30		30			30				55
		臨床理学療法評価学Ⅰ	寺師順一、用皆正文、吉田治正	1		30		30		30					56
		臨床理学療法評価学Ⅱ	津村裕光	1		30		30		30					57
		臨床理学療法評価学Ⅲ	大重勝裕	1		30		30			30				58
		総合理学療法評価学	角幸治、寺師順一、野方敏行	1		30		30				30			59
	小 計			7		210		210	30	90	60	30			
	理学療法 治療学	運動療法学総論	野方敏行	1	30			30		30					60
		理学療法治療学Ⅰ	石堂晃洋、白尾麻美、用皆正文	2	60			60			30	30			61
		理学療法治療学Ⅱ	遠藤翔、坂元美幸、新保千尋、 福田晋	2	75			75			45	30			62
		理学療法治療学Ⅲ	野方敏行、吉田治正	2	60			60			30	30			63
		理学療法治療学Ⅳ	津村裕光、寺師順一、吉田治正	1	30			30			30				64
		理学療法治療学Ⅴ	磯脇まゆみ、白尾麻美、富岡一俊 用皆正文	1	30			30			30				65
		スポーツリハビリテーション学	古田仁	1	10	20		30				30			66
		日常生活活動学	角幸治	2	60			60	30	30					67
		運動器障害系運動療法特論	白尾泰宏、牛ノ濱政喜、用皆正文	1	20	10		30					30		68
		神経障害系運動療法特論	石堂晃洋、白尾麻美、田中潤、福田晋	1	20	10		30					30		69
		内部障害系運動療法特論	吉田治正	1	20	10		30					30		70
		義肢装具学	榎田和則、大渡昭彦、北義也	2	40	20		60			30	30			71
		介護介助喀痰吸引方法論	上水樽敏子、谷口立子、寺師順一	1	10	5		15	15						72
		物理療法学総論	鉦崎誠二	1	15	30		45			15	30			73
		総合実習演習	理学療法学科教員	1		45		45					45		74
		理学療法総合特論	理学療法学科教員	5	150			150						150	75
	小 計			25	630	150		780	45	60	210	180	135	150	
	地域 理学療法学	生活環境論	金谷親好、上妻龍一	1	15			15			15				77
		地域・在宅理学療法学	坂元美幸、迫田亜弥香	2	30			30		30					78
		予防理学療法学	金谷親好、福元愛	2	30			30		30					79
	小 計			5	75			75		60	15				
	臨床実習	見学実習	実習調整者、臨床実習指導者	1			45	45	45						80
		地域リハビリテーション見学実習	実習調整者、臨床実習指導者	1			45	45			45				81
		評価実習	実習調整者、臨床実習指導者	4			180	180				180			82
		総合実習	実習調整者、臨床実習指導者	14			630	630					630		83
	小 計			20			900	900	45		45	180	630		
合 計 （卒業要件総単位数・総時間数）				110	1697	543	900	3140	525	540	575	585	765	150	

選択科目	トレーニング指導学	新納幸喜・藤田勉	1	22	12		34			34					84
------	-----------	----------	---	----	----	--	----	--	--	----	--	--	--	--	----

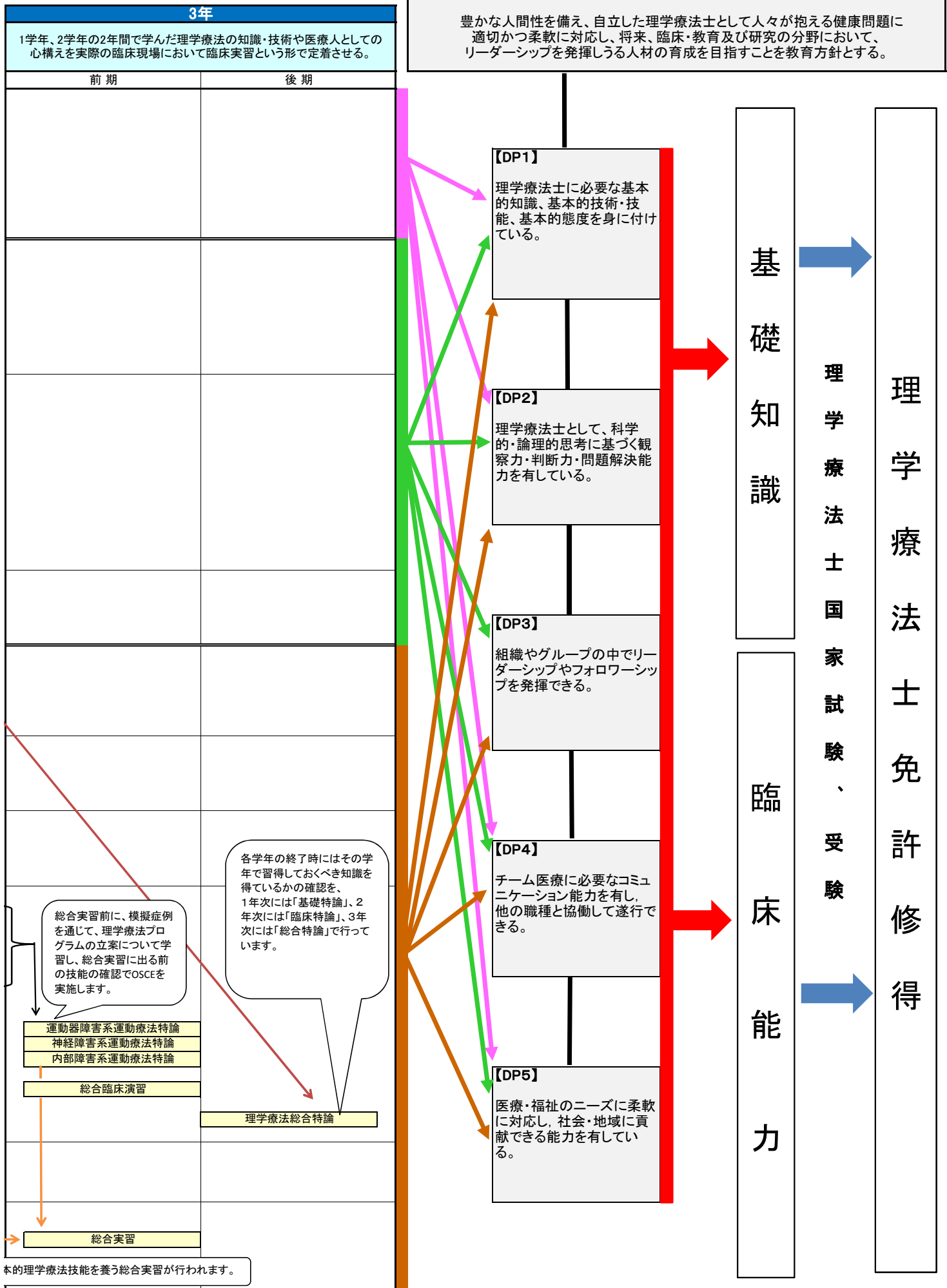


【理学療法学科 ディプロマ・ポリシー(DP)】

豊かな人間性を備え、自立した理学療法士として人々が抱える健康問題に適切かつ柔軟に対応し、将来、臨床・教育及び研究の分野において、リーダーシップを発揮しうる人材の育成を目指すことを教育方針とする。

【理学療法学科 ディプロマ・ポリシー(DP)】

豊かな人間性を備え、自立した理学療法士として人々が抱える健康問題に適切かつ柔軟に対応し、将来、臨床・教育及び研究の分野において、リーダーシップを発揮しうる人材の育成を目指すことを教育方針とする。



履修の手引

1. 授業について

理学療法学科ではいずれの授業も授業時間数の3分の2以上の出席が必要です。出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない者は、その科目についての評価を受ける資格を失うことになります。ただし、必要な補習授業を行うことにより 評価を受ける資格を得ることができます。

90分間の講義の中で授業開始16分未満での入室は遅刻、16分以上～61分未満での入室は欠課1、61分以上経過してからの入室は欠課2として扱います。

2. 出・欠席管理について

欠席・欠課・遅刻・早退をする場合には、必ず届出用紙に記入し、事前に提出してください。病気で1週間以上引き続き欠席する場合は、医師の診断書又は理由書が必要です。また、突発的な場合は教員に適宜連絡してください。

(1)実習施設での事前オリエンテーションに参加する場合、(2)裁判員制度による裁判員の任務を果たす場合、(3)感染症による出席停止を命じられた場合、(4)天災・事故等による公共機関の運休、遅延によるもの、(5)警報により出席できない場合、(6)忌引の場合などは公欠として取り扱われます。

忌引による欠席は、次のとおりです。

- ・第一親等（父・母・配偶者・子）————7日以内（土、日、祝日を含む）
- ・第二親等（祖父母・兄弟姉妹）————3日以内（ " ）
- ・第三親等（伯父・伯母・叔父・叔母）——1日 （ " ）

3. 補習について

出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない学生は、担当講師等の許可を得たのち、補習願を提出し、学校長が正当な理由と認めた場合は、補習（授業・実習）を受講することができます。

補習料は、補習時間に関係なく1科目 2,000円とし、学生の自己負担とし、実習にて実習謝金が必要な場合も学生の自己負担を原則としています。

4. アルバイトについて

アルバイトについては、アルバイト許可願を提出し、学校長に許可を得る。

5. 試験・評価について

終講試験は、科目毎に講義終了後に行い、学期末毎に試験期間（前期・後期）を決めて行います。ただし、学科目によっては講義終了後に適宜行うことがあります。授業科目については、試験に合格した場合にその科目についての単位を修得したことを認めます。

試験を受ける際、試験開始後20分以内に入室した場合は受験を認めますが、試験時間は延長しません。原則として試験開始後30分以内は退出できません。なお、退出した際には再入場できません。

試験中に不正行為のあった場合には、即時受験停止とし原則としてその科目の受験資格を失い、厳重な懲戒を行うことがあります。

各科目の評価の表示は点数で行い、1科目について100点を満点とし、60点以上を合格とします。試験の成績は、秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）で評価します。

学科試験において、都合により受験できなかった者は追試験、不合格となった者は再試験を行うことができます。

6. 受験資格喪失科目及び試験放棄科目について

受験資格喪失科目及び試験放棄科目は、評価の対象にならなくなります。

試験放棄とは、試験時に不在であり、次のいずれかに該当する場合をいいます。

- （１）事前に連絡がない。
- （２）事前に連絡があっても、次のア、イ及びウのいずれかの理由を伴わない場合
 - （ア）病気による場合
 - （イ）近親者（第三親等以内）の忌引による場合
 - （ウ）その他、学校長が認めた場合

7. 追試験について

追試験は、原則として正当な理由を証明する書類を添えて追試験願を提出し、学校長の承認を得て、追試験を受けることができます。追試験手続きは、試験前日までに完了しておかなければならず、受験料は、1科目につき1,000円となります。公欠の場合は、受験料は免除されます。

なお、追試験の評点は取得点の80%となります。

1科目を複数教員が担当した場合の受験料の徴収は、次のとおりです。

- i) 各教員の担当分野を独立した科目としてシラバスに明記してある場合は、各教員の担当分野をそれぞれ1科目と見なし受験料を徴収します。
- ii) シラバスに1科目として表記された科目を複数教員が担当分野ごとに追試験を行う場合は、人数に関係なく1回のみ受験料を徴収します。

8. 再試験について

再試験は、受験した結果が、不合格（60点未満）となった科目については、再試験願を提出し、受験することができます。再試験は1科目につき1回とし、再試験手続きは、試験の前日までに完了しておかなければならず、再試験受験料は、1科目につき3,000円となります。

なお、再試験は60点以上を合格点とし、評点はすべて60点となります。

1科目を複数教員が担当した場合の受験料の徴収は、次のとおりです。

- i) 各教員の担当分野を独立した科目としてシラバスに明記してある場合は、各教員の担当分野をそれぞれ1科目と見なし受験料を徴収します。
- ii) シラバスに1科目として表記された科目を複数教員が担当分野ごとにそれぞれ再試験を行う場合は、担当教員の人数に関係なく1回のみ受験料を徴収します。

9. 進級及び卒業の認定について

進級及び卒業については、進級・卒業認定会議の審議を基に学校長が認定し、進級及び卒業ができなかった者に対して、原級留置、卒業延期等の処置を決定します。

理学療法士国家試験問題 出題項目一覧(1)第56回国家試験(2021年)

問題 番号	午前問題		午後問題	
	科目	問題内容	科目	問題内容
1	理学療法概論	標準予防策	小児疾患	正常な小児の立ち上がり
2	循環器疾患	心電図の読み取り	脳血管障害	脳血管障害の離床
3	理学療法評価学	関節可動域測定法	理学療法評価学	関節可動域測定法
4	理学療法評価学	徒手筋力テスト(股関節)	理学療法評価学	体幹前屈と筋力低下
5	装具学	猿手の装具	神経筋疾患	眼球運動障害
6	理学療法評価学	全身持久性の評価	装具学	下肢装具の適合判定
7	整形外科疾患	骨盤部X線の読み取り	整形外科疾患	下腿骨折術後の理学療法
8	整形外科疾患	Sharrard分類	物理療法学	極超短波強度の計算
9	神経筋疾患	抗Parkinson病薬投与による症状	物理療法学	超音波療法
10	脳血管障害	バランス練習	物理療法学	物理療法の適応
11	循環器疾患	心肺運動負荷試験	循環器疾患	METsの計算
12	臨床運動学	トルクの計算	神経筋疾患	運動失調の運動療法
13	臨床運動学	異常歩行と原因	ADL	FIM
14	整形外科疾患	変形性膝関節症の理学療法	整形外科疾患	人工骨頭置換術後の理学療法
15	整形外科疾患	腰椎椎間板ヘルニアの画像と所見	神経筋疾患	筋直性ジストロフィーの理学療法
16	整形外科疾患	腰痛の理学療法	小児疾患	痙直型四肢麻痺の車椅子
17	脳血管障害	前頭葉障害の症状	呼吸器疾患	フローボリューム曲線の読み取り
18	装具学	下肢装具の適応	脳血管障害	認知症患者への対応
19	呼吸器疾患	動脈血ガス分析	脳血管障害	観念失行
20	代謝疾患、各種疾患	糖尿病の理学療法	理学療法評価学	転倒リスクの評価
21	理学療法概論	理学療法士及び作業療法士法	理学療法評価学	ICF
22	理学療法概論	介護が必要になった原因	理学療法概論	検定法
23	理学療法概論	一次予防	臨床運動学	随意運動
24	脳血管障害	感覚の伝導路	臨床運動学	正常な歩行周期
25	臨床運動学	運動学習	脳血管障害	CRPS(複合性局所疼痛症候群)
26	運動療法学総論	加齢に伴う生理的変化	ADL	QOLの評価法
27	脳血管障害	片麻痺の歩行	理学療法評価学	四肢長の測定法
28	理学療法評価学	四肢の周径測定法	整形外科疾患	関節可動域測定法
29	理学療法評価学	関節可動域測定法	神経筋疾患	反復拮抗運動障害の理学療法
30	神経筋疾患	脳神経の検査	整形外科疾患	歩行障害とその原因の組み合わせ
31	小児疾患	GMFM	ADL	IADL
32	義肢学	大腿義足異常歩行の原因	ADL	杖歩行の動作と筋
33	整形外科疾患	trendelenburg徴候	理学療法評価学	片麻痺の回復段階
34	脳血管障害	痙攣と症状	神経筋疾患	脊髄性運動失調
35	脊髄損傷	ASIAの評価法	神経筋疾患	Guillain-Barré症候群
36	脳血管障害	失語症	循環器疾患	心不全の症状
37	代謝疾患、各種疾患	高血糖症状	整形外科疾患	関節可動域改善の治療体操
38	臨床運動学	動作異常の原因	物理療法学	温熱療法
39	義肢学	下腿義足装着時の不具合とその原因	運動療法学総論	栄養管理
40	脳血管障害	Wallenberg症候群の摂食嚥下障害	運動療法学総論	全身持久カトレーニングの効果
41	整形外科疾患	関節リウマチの運動療法	脊髄損傷	機能残存レベルと可能な動作
42	脳血管障害	前頭葉障害の症状	整形外科疾患	前十字靭帯再建術後の理学療法
43	整形外科疾患	高齢者転倒による骨折	神経筋疾患	易転倒性がみられる疾患
44	呼吸器疾患	非侵襲的陽圧換気療法	神経筋疾患	種々の症候と説明の組み合わせ
45	神経筋疾患	皮膚筋炎の合併症	呼吸器疾患	呼吸理学療法と疾患
46	代謝疾患、各種疾患	糖尿病の運動療法	運動療法学総論	廃用症候群
47	代謝疾患、各種疾患	緩和ケアのリハビリテーション	脳血管障害	摂食嚥下障害のリハビリテーション
48	理学療法概論	法律とその規程内容	理学療法概論	地域包括ケアシステム
49	理学療法概論	訪問理学療法	ADL	杖歩行
50	理学療法概論	介護保険制度の対象	理学療法概論	標準予防策
51	解剖学:骨	手根骨の解剖	解剖学:循環系	脳動脈系の解剖
52	解剖学:筋	橈骨粗面に付着する筋	解剖学:神経	脳の解剖
53	解剖学:筋	大転子に付着する筋	解剖学:骨	骨の解剖
54	解剖学:神経	脊髄の解剖	解剖学:筋	回旋筋腱板を構成する筋
55	解剖学:循環系	頸動脈小体の支配神経	解剖学:筋	下腿の筋とその走行
56	解剖学:循環系	心臓の解剖	解剖学:神経	感覚神経が存在する部位
57	解剖学:循環系	奇上脈	解剖学:神経	橈骨神経が支配する筋
58	解剖学:感覚	外眼筋の支配神経	解剖学:循環系	動脈の触知部位
59	解剖学:感覚	平衡・聴覚器の解剖	解剖学:泌尿器生殖器	尿路
60	解剖学:筋	ヒラメ筋の触知部位	解剖学:発生と組織	DNAの構造
61	生理学:発生と組織	細胞小器官の生理	生理学:神経	反射と脳神経
62	生理学:筋	骨格筋の生理	生理学:神経	交感神経と副交感神経の作用
63	生理学:循環系	微小循環	生理学:神経	伸張反射の生理
64	生理学:感覚	平衡・聴覚器の解剖生理	生理学:循環系	心筋の生理
65	生理学:循環系	心臓の生理	生理学:泌尿器生殖器	排便機構
66	生理学:消化吸収	唾液	生理学:代謝栄養体温	体温
67	生理学:泌尿器生殖器	善尿の神経支配	生理学:泌尿器生殖器	卵巣の解剖生理
68	生理学:ホルモン	副腎皮質ホルモン	生理学:ホルモン	水溶性ホルモン
69	生理学:代謝栄養体温	エネルギー代謝率の計算式	生理学:代謝栄養体温	エネルギー代謝
70	運動学:顔面・体幹	顔面筋の作用	運動学:上肢の運動学	肩関節の作用と角度
71	生理学:消化吸収	嚥下反射に作用する筋	運動学:下肢の運動学	足関節の運動と筋
72	理学療法評価学	関節可動域測定法	運動学:下肢の運動学	股関節の運動と筋
73	運動学:上肢の運動学	上肢の筋と作用	運動学:顔面・体幹	脊椎の運動
74	運動学:運動学習	運動学習におけるパフォーマンスの知識	解剖学:神経	腕神経叢損傷
75	内科学	房室ブロックの心電図	病理学	病原体と腫瘍
76	整形外科科学	腱板断裂の検査	病理学	慢性炎症の特徴
77	内科学	機能的イレウスの原因	神経内科学	ボツリヌス菌毒素製剤の作用部位
78	臨床心理学	記憶過程の要素	内科学	抗コリン薬の作用
79	臨床心理学	心理検査	臨床心理学	障害受容に至る心理状態
80	臨床心理学	治療法と提唱者	臨床心理学	防衛機制
81	臨床心理学	老年期の課題	臨床心理学	行動療法
82	整形外科科学	Tinel徴候	神経内科学	小脳梗塞の症状
83	整形外科科学	頸髄損傷	整形外科科学	ASIAの評価法
84	整形外科科学	下肢切断による障害	リハ概論/リハ医学	筋量減少が診断基準となる疾患
85	病理学	悪性リンパ腫	人間発達学・小児科学	反射と中枢
86	整形外科科学	骨折の名称と部位	整形外科科学	変形性関節症
87	神経内科学	視床痛	病理学	炎症と原因
88	神経内科学	脳塞栓の原因	リハ概論/リハ医学	HIV(ヒト免疫不全ウイルス)
89	神経内科学	進行性核上性麻痺	神経内科学	多発性硬化症
90	病理学	疾患と遺伝形式	神経内科学	頭部CTの出血部位
91	内科学	急性心筋梗塞の血液検査所見	内科学	特発性肺結核症
92	人間発達学・小児科学	円城寺式乳幼児分析の発達検査	内科学	狭心症
93	内科学	慢性閉塞性肺疾患	生理学:循環系	移植片対宿主病(GVHD)
94	リハ概論/リハ医学	介護保険制度	内科学	透析療法の疫学
95	整形外科科学	de Quervain(ドケルバン)病	リハ概論/リハ医学	理学療法士及び作業療法士法
96	精神医学	軽度認知症(MCT)の有病率	精神医学	バーソナリティー障害の疫学
97	人間発達学・小児科学	知的障害を伴う疾患	精神医学	てんかん発作の対応
98	臨床心理学	心理療法:曝露反応妨害法	神経内科学	疾患と症状の組み合わせ
99	精神医学	ナルコレプシーの症状	精神医学	アルコール依存症患者の断酒
100	精神医学	てんかん	精神医学	うつ病

理学療法士国家試験問題 出題項目一覧(2) 第57回国家試験(2022年)

問題	科目	午前問題 問題内容	科目	午後問題 問題内容
1	循環器疾患	血液検査結果から判断する疾患	臨床運動学	ブラットホームが後方へ動いたときの姿勢変化
2	理学療法概論	問題指向型診療記録	小児疾患	乳児の反射の出現順序
3	循環器疾患	心電図の読み取り(心房粗動)	理学療法評価学	関節可動域測定法(上肢の測定)
4	理学療法評価学	関節可動域測定法(頸部・胸腰部・上肢の測定)	理学療法評価学	徒手筋力テスト(手指筋のテスト)
5	理学療法評価学	徒手筋力テスト(頸部・体幹筋のテスト)	小児疾患	Down症候群の乳幼児期の特徴的な座位姿勢
6	脳血管障害	頭部MRIの画像診断	神経筋疾患	Guillain-Barré症候群で障害される運動
7	脊髄損傷	脊髄損傷者の歩行パターンと機能残存レベル	装具学	上記症例に適応となる装具
8	整形外科疾患	踵足骨折術後の運動療法	神経筋疾患	過回内テストで認められる症状
9	物理療法学	超音波療法(症例問題)	運動療法学総論	ストレッチング
10	装具学	靴型装具の補正と効果の組合せ	ADL	標準型車椅子の適合判定規程
11	義肢学	下肢義足異常歩行の原因	循環器疾患	心電図の読み取り(心室筋の活動電位持続時間の延長)
12	臨床運動学	肘関節屈筋の力Fの計算	呼吸器疾患	胸部CT画像診断
13	整形外科疾患	脛骨高原骨折術後の理学療法	整形外科疾患	変形性股関節症のx線写真読み取りと理学療法
14	整形外科疾患	野球肘、外反ストレートテスト陽性の原因動作	神経筋疾患	多系統萎縮症の画像診断(MRI)と症状
15	脊髄損傷	頸髄損傷の機能残存レベル	小児疾患	二分脊椎の歩行練習の実施方法
16	小児疾患	脳性麻痺痙直型両麻痺の治療方針	物理療法学	経皮的電気刺激法(TENS)の電気刺激部位
17	呼吸器疾患	間質性肺炎患者の胸部CT	脳血管障害	症例問題 Broca失語症への対応
18	呼吸器疾患	上記患者のトレーニング中止基準	循環器疾患	NYHA分類class Iの患者の生活指導
19	代謝疾患、各種疾患	糖尿病の運動療法(症例問題)	脳血管障害	症例問題 左半側無視への理学療法
20	ADL	Parkinson病患者の住環境整備	整形外科疾患	関節リウマチの生活指導
21	理学療法概論	インフォームド・コンセント	理学療法概論	死因の第2位の疾患
22	臨床運動学	歩行導入初期における運動学習の方法	理学療法概論	インシデントレポート
23	臨床運動学	運動に関する中枢神経について	神経筋疾患	Gowers徴候を生じやすい疾患
24	運動療法学総論	加齢により増加するもの	脳血管障害	バランス練習の難度を高める方法
25	循環器疾患	閉塞性動脈硬化症の運動療法に必要な医学情報	臨床運動学	開放性運動連鎖による運動
26	理学療法評価学	関節可動域測定法による参考可動域角度	理学療法評価学	関節可動域測定法(運動方向と代償運動)
27	神経筋疾患	律動的な不随意運動	理学療法評価学	徒手筋力テスト
28	理学療法評価学	注意障害の検査	整形外科疾患	環指の感覚支配(正中神経と尺骨神経)
29	ADL	FIM	ADL	PEDI(pediatric evaluation of disability inventory)
30	装具学	短下肢装具の背屈補助足継手が適応となる病態	整形外科疾患	Freiberg病で傷害される骨
31	整形外科疾患	大腿骨頭すべり症	整形外科疾患	変形性膝関節症の症状・特徴
32	整形外科疾患	上腕骨骨幹部骨折で生じやすい神経障害	理学療法評価学	SIAS
33	理学療法評価学	NIHSS	神経筋疾患	Parkinson病の評価
34	神経筋疾患	脊髄小脳変性症の症状・特徴	整形外科疾患	熱傷の深度の説明
35	理学療法評価学	認知症のスクリーニング検査	理学療法評価学	疼痛検査の方法
36	理学療法評価学	高齢者の健康状態の指標結果の解釈	運動療法学総論	全身持久カトレーニングの効果
37	理学療法概論	標準予防策	脳血管障害	嚥下反射で食物の流れを観察できる検査法
38	装具学	装具と疾患の組合せ	呼吸器疾患	新型コロナウイルス患者の%1秒量の計算
39	整形外科疾患	環椎骨折(Jefferson骨折)に対する運動療法	神経筋疾患	視覚の代償を利用する運動療法
40	脳血管障害	脳卒中後のpusher現象	整形外科疾患	関節と生じやすい脱臼の組合せ
41	整形外科疾患	スワンネック変形で過伸展となるもの	整形外科疾患	腰椎椎間板ヘルニアの保存療法後の理学療法
42	脳血管障害	急性期の肩手症候群への理学療法	脳血管障害	脳卒中片麻痺の理学療法
43	神経筋疾患	ポストポリオ症候群の症状・特徴	神経筋疾患	温熱療法を避けるべき疾患
44	脊髄損傷	C7損傷患者で自立困難な動作	神経筋疾患	重症筋無力症の症状
45	神経筋疾患	Duchenne型筋ジストロフィーの呼吸管理	ADL	ICF core set
46	循環器疾患	運動療法を中止する状態	循環器疾患	心臓リハビリで有酸素運動が使用される理由
47	代謝疾患、各種疾患	慢性腎臓病患者の症状・特徴	代謝疾患、各種疾患	乳癌術後、上肢リンパ浮腫の日常生活活動指導
48	代謝疾患、各種疾患	認知症患者の運動療法を行うときの対応	理学療法概論	労働衛生環境に起因する疾患
49	理学療法概論	介護保険制度	理学療法概論	地域リハビリテーション
50	ADL	疾患と支援機器の組合せ	理学療法概論	通所リハビリテーション
51	解剖学:関節	関節円板を有する関節	解剖学:関節	運動軸が2つの関節
52	解剖学:関節	膝関節半月板	解剖学:筋	筋滑車がみられる筋
53	解剖学:神経	深部反射と反射中枢の組合せ	解剖学:神経	神経核が嚢にある脳神経
54	解剖学:神経	自律神経作用と節前ニューロンの起始の組合せ	解剖学:神経	運動神経線維のみの脳神経
55	解剖学:神経	反回神経支配の内喉頭筋	解剖学:神経	脊髄の構造と機能
56	解剖学:循環系	心臓の解剖	解剖学:循環系	一側のみにある動脈
57	解剖学:消化器	胃の解剖	解剖学:泌尿器	腎臓の解剖
58	生理学:ホルモン	副腎髄質から分泌されるホルモン	解剖学:呼吸器	胸部の解剖
59	解剖学:感覚	光が角膜から網膜に達する経路	解剖学:筋	足部の骨に付着する筋(右足部の内側面の図)
60	解剖学:筋	腿の名前(手背部の写真から)	解剖学:発生と組織	ATPを合成する細胞小器官
61	生理学:筋	骨格筋の収縮	解剖学:発生と組織	遺伝情報伝達
62	生理学:神経	シナプス前膜の脱分極に続き軸索終末に流入する物質	生理学:神経	深部腱反射
63	生理学:筋	Type IIと比べたType Iの筋線維の特徴	生理学:神経	自律神経の二重支配を受ける器官
64	生理学:循環系	心音・心電図波形と現象との組合せ	生理学:呼吸系	酸塩基平衡
65	生理学:循環系	抗体産生する免疫細胞	生理学:消化吸収	唾液分泌
66	生理学:消化吸収	脂質の消化吸収	生理学:泌尿器生殖器	近位尿管に分泌されるもの
67	生理学:泌尿器生殖器	排便機構	生理学:ホルモン	下垂体前葉から分泌されるホルモン
68	生理学:生殖・女性の生理	月経	生理学:代謝栄養体温	体温の生理
69	生理学:代謝栄養体温	エネルギー代謝	生理学:呼吸系	強制吸気時に働く筋
70	運動学:下肢の運動学	下腿の外旋に働く筋(図)	運動学:顔面・体幹	顔面筋の作用
71	運動学:上肢の運動学	手関節屈曲に作用する筋	運動学:上肢の運動学	肩甲骨の上方回旋に作用する筋
72	運動学:下肢の運動学	膝関節屈曲運動の制限に関与する因子	運動学:下肢の運動学	膝関節屈曲と足関節底屈に作用する筋
73	解剖学:筋	遠心性収縮を生じる動作	理学療法評価学	関節可動域測定法
74	運動学:歩行	歩幅・歩行率を用いた歩行速度の計算	運動学:歩行	正常歩行
75	病理学	前癌病変にある進行性病変	病理学	再生能力が最も高い組織・器官
76	生理学:神経	脳波検査	病理学	骨転移を最も生じやすい癌
77	内科学	非ステロイド性抗炎症薬の副作用	内科学	呼吸機能検査
78	臨床心理学	記憶と関係部位の組合せ	内科学	下肢の深部静脈血栓症により塞栓をきたす臓器
79	リハ概論/リハ医学	成人期中期に発症しやすい疾患	臨床心理学	防衛機制:反動形成
80	リハ概論/リハ医学	医療スタッフのベッドサイドマナー	臨床心理学	自己暗示で催眠状態をつくる方法
81	臨床心理学	心理検査:質問紙法	臨床心理学	障害の受容過程
82	整形外科	ASIAの評価法(髄節とkey muscle)	リハ概論/リハ医学	訓練中に意識を失った患者への対応
83	人間発達学・小児科学	フレイリ、サルコペニアの評価項目	整形外科	脊髄損傷の自律神経過反射
84	整形外科	前骨間神経麻痺と後骨間神経麻痺の共通症状	内科学	多発性筋炎
85	人間発達学・小児科学	言語発達	人間発達学・小児科学	発達評価
86	ADL	機能的自立度評価法(FIM)	整形外科	高齢者の大腿骨近位部骨折
87	整形外科	アキレス腱断裂	整形外科	腰部脊柱管狭窄症
88	整形外科	骨形成不全症	整形外科	二分脊椎
89	整形外科	原発性骨粗鬆症	神経内科学	痛みとして灼熱感を生じる徴候
90	神経内科学	脳梗塞の発生部位と症状の組合せ	神経内科学	悪性脳腫瘍
91	神経内科学	脳電図検査	内科学	原発性自然気胸
92	内科学	食道癌	内科学	糖尿病性腎症
93	内科学	感染性心内膜炎の病態、合併症	病理学	多発性骨髄腫の病態・症状
94	内科学	心房細動に対する治療	内科学	症候と内分必異常との組合せ
95	病理学	がんの特徴・疫学	リハ概論/リハ医学	介護保険法の特定疾病
96	精神医学	意識障害を伴わないてんかん発作	精神医学	イネイブラーである家族と患者の共存が問題となる疾患
97	神経内科学	後頭葉の血流量低下が特徴的な認知症	精神医学	適応障害
98	精神医学	睡眠日誌の記載が有効な睡眠障害	精神医学	統合失調症
99	精神医学	精神疾患と治療の組合せ	精神医学	ステロイド薬による精神障害
100	精神医学	ベンゾジアゼピン系睡眠薬の副作用	精神医学	知的障害の原因となる疾患

理学療法士国家試験問題 出題項目一覧(3) 第58回国家試験(2023年)

問題	科目	午前問題 問題内容	科目	午後問題 問題内容
1	理学療法評価学	徒手筋力テスト(股外転3の代償動作を生じさせる筋)	理学療法評価学	徒手筋力テスト(肩甲下筋のテスト)
2	臨床運動学	前傾立位姿勢での床反力ベクトルの作用線	循環器疾患	心電図波形(心室期外収縮)
3	脳血管障害	頭部MRI画像所見(多発性脳梗塞)	呼吸器疾患	胸部CTの画像診断(COPD、1秒率の低下)
4	小児疾患	NICUに入院中の低出生体重児のポジショニング	小児疾患	Down症候群が示す特徴的な姿勢
5	補装具療法	下腿義足ソケットの種類	補装具療法	大腿義足の伸び上がり歩行の原因
6	物理療法学	極短短波の強度(逆2乗の法則、ランバートの余弦測)	神経筋疾患	亜急性性脊髄変性症の症状
7	神経筋疾患	顔面神経麻痺の症状(完目、口角の下降)	神経筋疾患	上記患者の靴の踵の補正
8	整形外科疾患	鎖骨骨幹部骨折の観血的整復固定術後翌日の理学療法	整形外科疾患	上腕骨頭上骨折術後の理学療法
9	整形外科疾患	変形性膝関節症に対する術後の理学療法	整形外科疾患	アリス徴候・股関節脱臼
10	整形外科疾患	手指の変形の名称(図):ボタン穴変形	神経筋疾患	Frenkel体操
11	脊髄損傷	起き上がり動作で推定するZancolliの機能残存レベル	脳血管障害	片麻痺患者のADL指導
12	小児疾患	脳性麻痺児のGMFCSレベル	補装具療法	松葉杖の調整
13	補装具療法	標準型車椅子の180度方向転換に必要な廊下幅	循環器疾患	ウォーキングで消費するカロリーの計算
14	神経筋疾患	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーの筋電図検査所見	神経筋疾患	Hoehn & Yahrの重症度分類ステージ
15	神経筋疾患	Parkinson病、Hoehn & YahrステージⅢの歩行障害への対応	理学療法評価学	片麻痺の位置覚検査での口頭指示の仕方
16	ADL	移乗動作のFIMの点数	理学療法評価学	関節可動域測定法:運動と測定肢位の組合せ
17	代謝疾患・各種疾患	腎臓・増殖前網膜症を合併している2型糖尿病の運動療法	神経筋疾患	全身型重症筋無力症の理学療法
18	呼吸器疾患	COPDによるⅡ型呼吸不全、在宅酸素療法患者への指導	呼吸器疾患	肺部分切除の理学療法
19	循環器疾患	NYHA classⅢ僧帽弁閉鎖不全症患者の退院時運動機能評価	物理療法学	足関節外側副帯損傷の理学療法
20	運動療法学総論	人工膝関節全置換術後に対するCPM装置の使用	理学療法概論	医療面接(臨床実習時の情報収集の方法)
21	ADL	ICFの評価点と内容	理学療法概論	第2号被保険者がサービス利用可能となる疾患
22	理学療法概論	インフォームドコンセント	理学療法概論	個人情報保護法における個人情報として扱われる項目
23	理学療法概論	観察的研究を研究デザインとする研究	臨床運動学	歩行周期の単脚支持期(立脚中期・立脚終期)
24	ADL	IADL	脳血管障害	頭痛を感じる痛覚受容器が存在しない器官(大脳皮質)
25	循環器疾患	「健康づくりのための身体活動基準」で4METs以上となる運動	理学療法概論	一次予防
26	運動療法学総論	筋収縮	理学療法概論	救急措置
27	神経筋疾患	感覚神経のみの脳神経(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	理学療法評価学	徒手筋力テスト:膝関節の伸展と屈曲が同じになる段階
28	理学療法評価学	関節可動域測定法(運動方向と移動軸の組合せ)	理学療法評価学	GCSの評定
29	神経筋疾患	錐体路徴候	脊髄損傷	脊髄損傷の残存レベルと移動能力
30	整形外科疾患	足関節内反捻挫後の再発予防に重要な筋	循環器疾患	健康成人の血圧
31	理学療法評価学	足関節可動域測定:参考可動域角度が30° 運動方向	補装具療法	PTB式下腿義足ソケットの荷重部位
32	神経筋疾患	脊髄小脳変性症の運動失調評価法	整形外科疾患	骨壊死を合併する骨折
33	整形外科疾患	膝関節の検査法	理学療法評価学	上肢・下肢のBrunnstrom法ステージとテスト動作の組合せ
34	補装具療法	義足のアイメント異常(下腿義足の外側の浮き上がりの原因)	神経筋疾患	Duchenne型筋ジストロフィーの症状・特徴
35	脊髄損傷	脊髄損傷の異所性仮骨の好発部位	整形外科疾患	広範囲Ⅲ度熱傷の受傷後12時間以内に生じやすい症状:浮腫
36	整形外科疾患	関節リウマチの分類基準	脳血管障害	高次機能障害と症候の組合せ
37	整形外科疾患	胸郭出口症候群の検査法	理学療法概論	がん検診の実施が規定されている法律
38	運動療法学総論	筋力増強運動	補装具療法	器具と疾患の組合せ
39	運動療法学総論	自転車エルゴメータ運動負荷による生理的変化	物理療法学	温熱の局所反応
40	整形外科疾患	手背に生じた慢性期の熱傷後瘢痕拘縮の理学療法	運動療法学総論	持久力に必要なエネルギー供給系
41	運動療法学総論	腹圧性尿失禁	ADL	Barthel Index:自立が5点となる動作
42	脳血管障害	摂食嚥下障害の病態と手技の組合せ	整形外科疾患	腰椎椎間板ヘルニアの治療・対応
43	整形外科疾患	アキレス腱周囲炎の特徴	整形外科疾患	変形性膝関節症の理学療法
44	呼吸器疾患	呼吸性アシドーシス(pH、PCO ₂ 、HCO ₃ ⁻ の値)	神経筋疾患	脊髄小脳変性症のバランス練習で高難度の動作
45	神経筋疾患	Guillain-Barré症候群の治療	ADL	SF-36の下位尺度
46	理学療法概論	CBRマトリックスの5つの主要領域にふくまれるもの	理学療法概論	ノーマライゼーション
47	補装具療法	普通型電動車椅子の装置	理学療法概論	臨床実習中の守秘義務
48	理学療法概論	介護保険制度の福祉用具貸与品目	ADL	介護予防事業の基本チェックリスト
49	理学療法概論	Heinrichの法則	理学療法概論	院内感染対策
50	理学療法概論	SOAP	理学療法評価学	検査と身体状況の組合せ
51	解剖学:筋	手の外来筋	解剖学:骨	骨の構造と機能
52	解剖学:神経	下行神経路はどれか?	解剖学:筋	前骨間神経に支配される筋
53	解剖学:神経	閉鎖神経の解剖・機能	解剖学:神経	眼球運動に関わる脳神経
54	解剖学:循環系	大動脈弓から直接分枝する動脈	解剖学:神経	脊髄の解剖と機能
55	解剖学:消化器	小腸でつながる臓器:胃・肝臓・十二指腸	解剖学:循環系	心臓の構造
56	解剖学:呼吸器	肺の構造	解剖学:呼吸系	左肺の内側面に接する臓器
57	解剖学:ホルモン	腎臓から分泌されるホルモン	解剖学:泌尿器	腎臓の構造と機能
58	解剖学:感覚	眼球の解剖・機能	解剖学:感覚	平衡感覚器の構造と機能
59	解剖学:筋	皮下組織の直下に筋腹を触知できる筋:深指屈筋	解剖学:循環系	動脈の触知部位(図)
60	解剖学:筋	腸骨稜に付着する筋	解剖学:骨	距骨と関節を構成する骨
61	生理学:発生・組織	細胞内小器官の働き	生理学:筋	骨格筋の生理
62	生理学:神経	深部腱反射	生理学:ホルモン	下垂体前葉から分泌されるホルモン
63	生理学:消化吸収	消化酵素の働き	生理学:感覚	視覚の生理
64	生理学:循環系	心臓の刺激電動系	生理学:循環系	有酸素運動の効果
65	生理学:循環系	I型アレルギーに関与する抗体	生理学:神経	副交感神経の作用
66	生理学:泌尿器生殖器	排尿に関与する神経	生理学:循環系	血球の種類とその働きの組合せ
67	生理学:ホルモン	血糖を上昇させる作用のあるホルモン	生理学:消化吸収	胃の分泌
68	生理学:生殖・女性の生理	女性生殖器の解剖・機能	生理学:泌尿生殖器	排便機構
69	生理学:呼吸系	肺活量算出に最低限必要な排気量分画:全排気量、残気量	運動学:下肢の運動学	下肢の筋とその作用の組合せ
70	運動学:下肢の運動学	足部内側縦アーチの維持に最も関与する筋:後脛骨筋	運動学:上肢の運動学	肩甲骨の運動に作用する筋
71	運動学:下肢の運動学	伸張運動:大腿筋膜張筋	運動学:上肢の運動学	肘関節屈曲のみに作用する筋
72	運動学:上肢の運動学	手指の筋と作用の組合せ	生理学:呼吸系	安静呼吸における吸気時の特徴
73	運動学:上肢の運動学	鉄棒から体を下降させるときに遠心性収縮をする筋	運動学:姿勢	基本的立位姿勢で重心線が通る部位
74	運動学:歩行	正常歩行で遠心性収縮をする筋	運動学:運動学習	運動学習の効率を高める条件
75	病理学	退行性病変:萎縮	病理学	炎症と原因(化学的要因)
76	内科学	胃全摘手術後の巨赤芽球性貧血で欠乏する栄養素	神経内科学	疾患と病因の組合せ
77	神経内科学	末梢神経の脱髄がみられる疾患	神経内科学	頭部単純CTで低吸収域として描出される病態
78	臨床心理学	防御機制:知性化	病理学	良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴
79	臨床心理学	Freudの発達論:1~3歳:肛門期	臨床心理学	即時記憶
80	臨床心理学	障害受容の過程	臨床心理学	我が国の自殺死亡率が最も高い年代
81	臨床心理学	思考記録表(コラム表)を用いた認知行動療法	臨床心理学	Eriksonの発達段階で成人前期に獲得すべき課題
82	神経内科学	脳卒中の評価法とそれに含まれる項目との組合せ	神経内科学	脳卒中患者の歩行自立との関連が最も少ないもの
83	内科学	全身持久力トレーニングを開始しやすい条件	整形外科	脊髄損傷(第6頸髄節まで機能残存)の上肢機能
84	整形外科	ASIAの評価対象	神経内科学	痙攣が生じる疾患
85	内科学	ワルファリンの作用を減弱させるビタミン	内科学	Ⅱ型呼吸不全では正常で、Ⅰ型呼吸不全で増加するもの
86	人間発達学・小児科学	原始反射と誘発される運動の組合せ	人間発達学・小児科学	遠城寺式乳幼児分析の発達検査:12か月以前に獲得されるもの
87	病理学	リンパ浮腫の症状・特徴	リハビリ概論	ICFにおける「参加」の評価に最も関連する情報
88	整形外科	Perthes病の症状・特徴	整形外科	関節リウマチの変形
89	整形外科	Colles骨折の症状・特徴	神経内科学	CRPS typeⅠに分類される症状
90	神経内科学	発症後2時間の脳梗塞における典型的な画像所見	神経内科学	脳梗塞の症状と特徴
91	内科学	糖尿病性神経障害に特徴的な所見	整形外科	手根管症候群の典型的な所見
92	内科学	肝不全の症状	内科学	血管疾患と関連因子の組合せ
93	内科学	ビタミン欠乏時の症候との組合せ	内科学	腎疾患と原因の組合せ
94	内科学	肺塞栓症の特徴	内科学	気管支喘息の治療薬
95	リハビリ概論	介護保険制度	内科学	大動脈解離の続発症
96	精神医学	アルコール依存症の特徴	内科学	全身性エリテマトーデスの症状
97	精神医学	興奮や混迷が主体となる統合失調症の病型	精神医学	精神遅滞の発症と関連がない疾患
98	精神医学	欠伸発作の特徴	精神医学	バーンアウト・障害
99	精神医学	統合失調症患者の健康関連QOL測定法	精神医学	鉄欠乏性貧血患者にみられやすい睡眠・覚醒障害
100	精神医学	強迫性障害の特徴	精神医学	神経性無食欲症で生じやすい症状

理学療法士国家試験問題 出題項目一覧(4) 第59回国家試験(2024年)

番号	午前問題		午後問題	
	科目	問題内容	科目	問題内容
1	運動療法	前十字靱帯損傷のトレーニング	評価	関節可動域測定
2	運動療法	深部静脈血栓症	評価	MMT
3	臨床神経	脳血管障害の画像評価	評価	整形外科的テスト
4	整形外科	半月板損傷の検査	画像診断	頭部CT
5	内科	糖尿病の運動強度	画像診断	頭部CT
6	評価	病的反射	運動療法	筋力増強
7	評価	関節可動域測定	整形外科	足関節外側靱帯損傷の運動療法
8	評価	MMT	補装具	クレンザック継手
9	評価	脳挫傷の評価	運動学	歩幅の計算
10	ADL	FIM	補装具	装具療法
11	補装具	切断の異常歩行	整形外科	術後の理学療法
12	整形外科	腰痛症	神経筋疾患	ALSの現時点での対応
13	整形外科	末梢神経障害	脊髄損傷	脊髄損傷の機能残存レベル
14	整形外科	二分脊椎	神経筋疾患	ギランバレー症候群
15	物理療法	超音波療法	小児	脳性麻痺
16	小児	脳性麻痺の補装具	循環	心電図
17	整形外科	術後の理学療法	臨床神経	脳梗塞患者の離床
18	臨床神経	片麻痺の理学療法	高齢者	サルコペニアの評価
19	呼吸・循環	呼吸疾患の画像	評価	高次脳機能障害の評価
20	内科	乳がんの活動能力評価	物理療法	水深における荷重負荷
21	PT概論	研究法	PT概論	健康増進法
22	PT概論	介護予防	PT概論	予防医学
23	生理学	筋収縮	運動学	運動制御
24	臨床心理学	記憶の分類	ADL	車椅子から床への移乗手順
25	リハ概論	インフォームドコンセント	ADL	LawtonのIADL
26	PT概論	標準予防策	リハ概論	ICF
27	評価	関節可動域測定	PT概論	個人情報
28	臨床神経	認知症	生理学	H反射
29	リハ概論	ICF	評価	動的バランス能力
30	補装具	リウマチの装具	生理学	脳神経
31	整形外科	変形性股関節症	運動学	運動学習
32	整形外科	股関節の整形外科的テスト	運動学	OAの歩行の特徴
33	評価	SIAS	臨床神経	Brunnstromの判定基準
34	神経筋疾患	パーキンソン病	臨床神経	MAS
35	神経筋疾患	筋萎縮性側索硬化症	運動学	歩行時の筋活動
36	整形外科	熱傷	循環	二重積
37	呼吸・循環	気管吸引	小児	脳性麻痺
38	補装具	切断	切断	幻肢痛
39	補装具	短下肢装具の足継手	神経筋疾患	多発性硬化症
40	PT概論	救命措置	神経筋疾患	運動失調の治療法
41	PT概論	福祉用具	呼吸・循環	間質性肺炎
42	整形外科	アキレス腱炎	評価	MRCsum score
43	神経筋疾患	パーキンソン病	PT概論	低栄養判断基準となるBMI
44	神経筋疾患	重症筋無力症	PT概論	介護保険制度
45	神経筋疾患	フレイル	PT概論	特別支援学校
46	リハ概論	IL運動	小児	NICU
47	ADL	QOL評価尺度	PT概論	予防接種法
48	神経筋疾患	脊髄小脳変性症	PT概論	リスク管理
49	呼吸・循環	間質性肺炎	整形外科	骨折の種類
50	薬理学	薬の副作用	ADL	ADL評価
51	解剖学	外胚葉	解剖学	関節の種類
52	解剖学	ミオシンフィラメント	解剖学	ヤコビー線
53	解剖学	神経支配	解剖学	滑車神経
54	解剖学	脳神経	解剖学	感覚の伝導路
55	解剖学	神経伝達物質	解剖学	伝導路
56	解剖学	反射神経	解剖学	腋窩神経
57	解剖学	動脈	解剖学	後腹膜器官
58	解剖学	呼吸器	解剖学	ホルモン
59	解剖学	視覚器	解剖学	平衡聴覚器
60	解剖学	前腕の筋(図)	解剖学	細胞内小器官
61	生理学	伸張反射	生理学	末梢神経
62	生理学	運動単位	生理学	交感神経の節前繊維
63	生理学	副交感神経	生理学	呼吸生理
64	生理学	肺拡散能	生理学	各臓器の血流量
65	生理学	線粒体溶解系	生理学	ワルファリンの作用
66	生理学	免疫グロブリン	生理学	脂質の消化と吸収
67	生理学	肝臓	生理学	近位尿管
68	生理学	ホルモン	生理学	体温の調節機構
69	生理学	エネルギー代謝	運動学	筋力
70	運動学	下顎の筋	運動学	肩関節の内旋作用
71	運動学	手の運動	運動学	膝関節について
72	運動学	足関節	運動学	下腿筋の付着部
73	運動学	体幹の筋	運動学	成人の正常立位姿勢
74	運動学	健康成人の歩行	運動学	運動学習
75	病理学	病因	臨床神経	疾患と病因
76	呼吸・循環	ショックをきたす病態	臨床神経	高次脳機能障害
77	運動療法	尿失禁	病理学	アボトシス
78	臨床心理学	心理テスト	神経筋疾患	Duchenne型筋ジストロフィー
79	臨床心理学	陽性転移	臨床心理学	防衛機制
80	臨床心理学	行動療法	臨床心理学	Freudの発達論
81	臨床心理学	認知行動療法	臨床心理学	記憶障害の検査
82	ADL	ADL	高齢者	フレイル
83	人間発達学	デンバー式発達スクリーニング	高齢者	廃用症候群
84	臨床神経	脳卒中の栄養管理	薬理学	抗てんかん薬の副作用
85	小児	原始反射	神経筋疾患	ギランバレー症候群
86	画像診断	頭部MRI	薬理学	便秘を生じやすい薬剤
87	PT概論	AED	補装具	装具療法の目的
88	高齢者	褥瘡の好発部位	整形外科	変形性股関節症
89	脊損	外傷性脊髄損傷	整形外科	後縦靱帯骨化症
90	整形外科	骨粗鬆症	整形外科	骨粗鬆症
91	内科学	脳卒中の身体機能評価	神経筋疾患	ALSの筋電図検査
92	内科学	手根管症候群	循環	先天性心疾患
93	内科学	ケトアシドーシス	リハ概論	感染症
94	呼吸・循環	急性心筋梗塞の検査	内科学	転移性骨腫瘍
95	PT概論	Lewy小体型認知症	整形外科	熱傷
96	精神医学	統合失調症	精神医学	双極性障害
97	精神医学	全般性不安障害	精神医学	せん妄
98	精神医学	ミオクロニー発作	精神医学	統合失調症
99	精神医学	ノンレム睡眠	精神医学	自閉症スペクトラム
100	精神医学	うつ病患者に対する睡眠衛生指導	精神医学	振戦せん妄

理学療法士国家試験問題 出題項目一覧(5) 第60回国家試験(2025年)

問題	午前問題		午後問題	
	科目	問題内容	科目	問題内容
1	評価	MMT	評価	MMT
2	呼吸・循環	間質性肺炎の理学療法	整形	画像診断
3	呼吸・循環	画像所見と理学療法	整形	理学療法
4	呼吸・循環	METs	呼吸・循環	Karvonen法
5	評価	脳出血患者の関節可動域測定	評価	関節可動域測定
6	小児	筋ジストロフィー機能障害度のステージ	小児	痙直型四肢麻痺
7	整形	投球肩	運動療法	等張性筋力増強運動
8	補装具	義足作成	評価	切断側の身体測定
9	評価	筋力低下	評価	整形外科的テスト
10	評価	脳出血患者の検査	内科学	食道癌術後のリスク管理
11	PT概論	研究法	神経筋疾患	Parkinson病の歩行練習
12	評価	通所時の転倒リスク	運動療法	脊髄腫瘍摘出術後の理学療法
13	補装具	平滑筋肉腫術後の補装具	補装具	側彎症
14	呼吸・循環	癌性胸膜炎の理学療法	呼吸・循環	間質性肺炎の理学療法
15	脊髄損傷	頸髄損傷の目標設定	呼吸・循環	脳血管造影検査
16	呼吸・循環	肺炎後のPaCO2改善に影響した要因	内科学	運動耐用力検査
17	評価	歩行時の床反力と筋活動	リハ概論	介護予防事業のスクリーニングテスト
18	呼吸・循環	急性心筋梗塞後の在宅理学療法	物理療法	筋力低下に対する物理療法
19	評価	関節可動域測定	脊髄損傷	ASIA
20	ADL	FIM	呼吸・循環	慢性心不全の運動療法
21	PT概論	ノーマライゼーション	PT概論	CBRマトリクス
22	PT概論	介護保険における福祉用具貸与	PT概論	要介護者のケアプラン
23	PT概論	ICF	PT概論	国際疾病分類
24	PT概論	障害者総合支援法	PT概論	診療報酬改定
25	小児	GMFCS	小児	二分脊椎
26	リハ概論	軽度認知障害の有病率	高齢者	褥瘡
27	整形	スワンネック変形	評価	腰椎椎間板ヘルニアの疼痛誘発テスト
28	呼吸・循環	基礎代謝量	評価	関節可動域測定
29	評価	UPDRS	神経筋疾患	Parkinson病
30	評価	Fugl-Meyer Assessment	ADL	SF-36
31	小児	WeeFIM	小児	Down症候群
32	高齢者	認知症の中核症状	高齢者	アミロイド沈着
33	高齢者	フレイルの判定要件	整形	原発性骨粗鬆症
34	評価	Functional Reach Test	評価	運動軸が1つの関節
35	呼吸・循環	酸素療法機器	内科学	末梢動脈疾患
36	呼吸・循環	口すぼめ呼吸	内科学	糖尿病患者に対する運動療法
37	評価	神経筋疾患における評価	呼吸・循環	急性心筋梗塞
38	PT概論	理学療法評価における社会的情報	PT概論	面接時の質問
39	リハ概論	血液検査項目と疾患の組み合わせ	内科学	ステロイドの副作用
40	運動療法	筋力増強運動	評価	正常成人の立位姿勢
41	整形	前十字靭帯損傷	補装具	大腿義足歩行
42	PT概論	養成教育機関	PT概論	災害リハビリテーション支援
43	リハ概論	集中リハビリテーション転帰指標	神経筋疾患	神経伝導検査
44	小児	登はん性起立	神経筋疾患	理学療法
45	リハ概論	正常歩行周期	評価	髄膜刺激症状
46	神経筋疾患	錐体外路	臨床神経	脳の領域と機能
47	リハ概論	自律神経障害	臨床神経	顔面の皮膚感覚
48	臨床神経	小脳梗塞	臨床神経	Wernicke-Mann肢位
49	PT概論	無作為化比較試験	PT概論	診療記録
50	PT概論	三次予防	PT概論	感染症対策
51	解剖学	左大脳中央部の横断面	解剖学	骨代謝
52	解剖学	関節唇	解剖学	関節と構造の組み合わせ
53	解剖学	脳神経	解剖学	脳神経
54	解剖学	尺骨神経	解剖学	胃
55	解剖学	食道	解剖学	平衡感覚器
56	解剖学	ホルモン	解剖学	嗅ぎタバコ窩
57	解剖学	視覚器	解剖学	筋と停止部
58	解剖学	動脈と触診部位	解剖学	皮質脊髄路
59	解剖学	運動神経の細胞体	解剖学	内頸動脈
60	解剖学	被殻の支配動脈	解剖学	門脈
61	生理学	ATP産生に関わる細胞小器官	生理学	心筋
62	生理学	筋線維の特徴	生理学	筋紡錘
63	生理学	自律神経	生理学	体温
64	生理学	呼吸の調節中枢	生理学	嫌気性解糖
65	生理学	心臓の刺激伝導系	生理学	副交感神経
66	生理学	血球と機能	生理学	アルカローシス
67	生理学	胆汁	生理学	体液性免疫
68	生理学	月経	生理学	排便中枢
69	運動学	運動単位	運動学	肩甲骨の筋と運動
70	生理学	肺胞換気量	運動学	膝関節
71	運動学	頸頸部の屈曲と伸展	運動学	体幹伸展を制動する靱帯
72	運動学	健康者の股関節	運動学	努力性呼吸時に働く筋
73	運動学	立位姿勢	運動学	上肢の筋と運動の組み合わせ
74	運動学	正常歩行	運動学	運動学習
75	病理学	疫病発生の外因	病理学	免疫反応
76	病理学	慢性炎症の特徴	病理学	過形成
77	病理学	悪性腫瘍の特徴	内科学	リンパ浮腫
78	臨床心理学	行動療法	病理学	アボトーシス
79	臨床心理学	記憶	臨床心理学	精神療法
80	臨床心理学	Piagetの発達論	臨床心理学	記憶
81	臨床心理学	投影法	臨床心理学	Eriksonの心理・社会的発達論
82	PT概論	IL運動	評価	深部感覚障害
83	高齢者	長期間の安静臥床	臨床神経	小脳障害でみられる徴候
84	整形	関節リウマチ	臨床神経	反回神経麻痺
85	高齢者	加齢による低下	小児	原始反射
86	PT概論	末梢神経伝導検査	神経筋疾患	多発性硬化症
87	整形	股関節屈曲拘縮のテスト	リハ概論	AED
88	内科学	悪性貧血	内科学	神経ブロック
89	整形	肘離断性関節軟骨炎	内科学	女性に有病率の高い疾患
90	整形	肩関節周囲炎	整形	腰椎椎間板ヘルニア
91	神経筋疾患	Parkinson病	臨床神経	くも膜下出血
92	神経筋疾患	ギランバレー症候群	臨床神経	脳血管障害
93	高齢者	低栄養	小児	Duchenne型筋ジストロフィー
94	整形	熱傷	内科学	尿毒症
95	高齢者	歩行の特徴	呼吸・循環	周術期の肺塞栓症
96	精神医学	アルコール離脱症状	精神医学	うつ病患者の特徴
97	精神医学	統合失調症	精神医学	常染色体トリソミー
98	精神医学	てんかん	精神医学	統合失調症
99	精神医学	自閉スペクトラム症	精神医学	うつ病の症状
100	精神医学	注意欠如・他動症	精神医学	強迫症の症状

科 目 別 学 習 指 導 内 容

基礎分野

科目名	人間関係論	単位	1 単位（15時間）	時期	1 年次 前期	講師名	中森美恵子 河野忍 田中潤
到達目標							
働くために必要な「職業能力」のなかで、共通して求められる人間関係のあり方を理解し、社会人・医療従事者として、よりよい人間関係の構築方法を学ぶ。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	ビジネスマナー① 医療従事者として信頼されるために	河野	仕事への心構え 挨拶と言葉遣い				
第 2 回	ビジネスマナー② 医療従事者として信頼されるために	河野	ビジネスにおける身だしなみ				
第 3 回	対人関係における自分の性格傾向を知る	中森	対人援助職の自己覚知 エゴグラム、OK図表、				
第 4 回	対人関係における自分の性格傾向を知る	中森	交流分析 ・プロフィールチェックリスト ・ドライバーチェックリスト				
第 5 回	対人援助職のコミュニケーション	中森	価値観交流と自己覚知				
第 6 回	対人援助職のコミュニケーション	中森	尊厳と自立の概念理解				
第 7 回	対人援助職のストレスマネジメント	中森	ストレスの仕組みとストレスコーピング アンガーマネジメント				
第 8 回	人間関係を構築する	田中	まとめと総括				
評価方法							
レポート（100％）にて河野（25％），中森（50％），田中（25％）の合計100点満点として総合的に評価する。							
講義方法							
テキスト及び講師作成の資料を用いて講義する。グループワークにて意見を集約し発表する。 パワーポイントを使用する場合がある。							
教科書							
「PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」：医学書院							
実務経験							
中森 美恵子：介護福祉士として障害者支援施設での実務経験があり、臨床に繋がる人間関係の理論と実践を講義する。 田中 潤：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる人間関係の理論と実践を講義する。 河野 忍：医療系専門学校にて就職部署、医療福祉コンサルティングの事業の勤務経験があり、医療従事者として求められる心構えや態度面について教授する。							

科目名	コミュニケーション論	単位	1 単位（15時間）	時期	1 年次 前期	講師名	田中 潤 角 幸治
到達目標							
1. 社会人として必要な資質、医療専門職として医療現場で求められる資質を磨く努力をしコミュニケーション力を身につける。 2. 言語的、非言語的なコミュニケーションについて役割を学ぶ。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	医療者になるための準備	田中	コミュニケーションを学ぶ視点・社会で求められる理学療法士像とは				
第 2 回	自分を理解する	角	自分の性格と傾向を知る				
第 3 回	自律した自分になるために	田中	自己管理・自己実現				
第 4 回	臨床実習で求められるコミュニケーション	角	医療面接での対話のしかた				
第 5 回	コミュニケーション力をはぐくむ ①	角・田中	テーマを決めて、グループワークを行う。				
第 6 回	コミュニケーション力をはぐくむ ②	角・田中	テーマを決めて、グループワークを行い全体発表をする。				
第 7 回	社会で働くために必要な力とは	田中	社会人基礎力とは・就職面接の活かし方				
第 8 回	まとめ・総括	角・田中	第1回～7回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験(90%)、グループ発表(10%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 グループ発表の評価は第6回の発表内容をルーブリック評価で評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書							
「PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」：医学書院							
実務経験							
田中 潤：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がるコミュニケーションの理論と実践を講義する。 角 幸治：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がるコミュニケーションの理論と実践を講義する。							

科目名	情報処理学	単位	2単位 (30時間)	時期	1 年次 前期	講師名	草宮めぐみ
到達目標							
1. 実習や他の授業でパソコンを利用することができる。 2. パソコンの基礎知識を理解し、ファイル管理、タイピング等の基本操作ができる。 3. Microsoft Wordを使って、案内文書やレポートを作成できる。 4. Microsoft Excelを使って、表計算やグラフ作成、データ分析ができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	コンピュータの基礎知識	ハードウェアとソフトウェア、Windowsの概念					
第 2 回	Windowsの基本操作	ウィンドウ操作、ファイル管理					
第 3 回	キーボード入力	文字入力、日本語入力システム、タイピング練習					
第 4 回	Microsoft Word I	基本操作、文章入力					
第 5 回	Microsoft Word II	文字書式					
第 6 回	Microsoft Word III	段落書式					
第 7 回	Microsoft Word IV	グラフィックスの利用					
第 8 回	Microsoft Word V	表作成・印刷					
第 9 回	Microsoft Excel I	基本操作、データ入力					
第10回	Microsoft Excel II	書式設定					
第11回	Microsoft Excel III	数式と関数					
第12回	Microsoft Excel IV	グラフ					
第13回	Microsoft Excel V	データベース・印刷					
第14回	まとめ（1）	総合問題を利用した総復習					
第15回	まとめ（2）	第1回～14回の内容に関連した終講試験					
評価方法							
終講試験(100%)を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書・資料を利用した講義および実習							
教科書・参考書							
「Word 2024 基礎 セミナーテキスト」：日経BP社 「Excel 2024 基礎 セミナーテキスト」：日経BP社							
実務経験							
国立大学教育学部を卒業後、民間企業にて、パソコン教室インストラクター、業務システム開発、業務システム導入支援に携わる。業務に関わる資料やデータ作成の経験を基に、基本操作および効率的な作成手順や操作を教授する							

科目名	基礎生物学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	上水樽豊己
到達目標							
1. 生物学を学ぶことにより、生命とは何か、そして、人間とは何かを考える。 2. 医療に携わる者として必要とされる生物学の基礎的な内容を理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	生物学を学ぶにあたって	生命観とその変遷，生物学における構造と機能					
第 2 回	細胞の構造と機能	細胞とその構造，細胞の化学成分					
第 3 回	細胞膜の輸送	受動輸送，能動輸送，細菌とウィルス					
第 4 回	生体内の化学反応	酵素，ATPの生合成					
第 5 回	細胞の増殖とからだのなりたち	細胞分裂，細胞の分化と個体のなりたち					
第 6 回	遺伝の法則と染色体	遺伝の法則，染色体と遺伝子					
第 7 回	遺伝情報の伝達	DNAとタンパク質合成のしくみ					
第 8 回	生殖と発生	生殖，受精と発生					
第 9 回	個体の調節①	ホメオスタシス，各器官系のはたらき					
第10回	個体の調節②	免疫系，自律神経系，内分泌系					
第11回	刺激の受容と行動①	神経系の情報処理，刺激の種類と受容器					
第12回	刺激の受容と行動②	効果器のはたらき，行動					
第13回	生命の進化と多様性	生命の起源，分類と系統					
第14回	生物と環境のかかわり	生物の集団，生態系，物質循環					
第15回	まとめ・総括	基礎生物学全般のまとめ，終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（70%），小テスト（20%），授業態度（10%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 小テストは各授業の終わりに実施する。授業態度は、日頃の授業態度をチェックし、評定する。							
講義方法							
授業（教科書、プリント、プロジェクター） オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書							
「系統看護学講座 基礎分野 生物学」：医学書院							
実務経験							
高校教諭として生物学を講義してきた経験をもとに、生物学の基礎的な内容全般を講義する。							

科目名	基礎物理学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	持留 岑生
到達目標							
1. 物理量の単位や数値の記述および計算法について学習し、理解できる。 2. 基本的な運動の力と法則、熱と温度、音と光、電気と磁気、放射線について学習し、理解できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	物理学を学ぶ準備	原子、分子について学び、量の単位と数値の扱い方について学ぶ					
第 2 回	物体の運動、力と加速度	等速直線運動、等速速度運動、力と加速度運動、力・質量と加速度運動量、等速円運動、次元					
第 3 回	力のつり合い	力とベクトル、重力と抗力					
第 4 回	力のモーメント、仕事とエネルギー、圧力	力のモーメントとは、重心、仕事と仕事率、エネルギー、力の作用する免責と圧力、気圧、水圧、浮力、圧力の測定、サイフォンの原理					
第 5 回	熱と温度、水と三態	温度の測定と熱平衡、熱量、熱の伝わり方、固体、液体、気体					
第 6 回	熱と仕事	仕事を熱に変える、気体の法則、エネルギー保存の法則、熱機関の効率、自然は逆戻りしない					
第 7 回	音と光の正体は「波」	波の基本は正弦波である、波の重ね合わせ					
第 8 回	音	音の伝わり方と音速、共鳴、うなり、固有振動と音の発生、ドップラー効果、私たちが聞くことのできる音の範囲、超音波エコー					
第 9 回	光	光の基本的な性質、光の反射と屈折、レンズにしくみ、光の干渉、光源、光と色					
第 1 0 回	電気とは何か	電荷のふるまい、電気の世界					
第 1 1 回	電流と抵抗	電池と電流、電流の大きさ、電流と電圧、オームの法則、抵抗の合成、電流がする仕事、電力と電力量					
第 1 2 回	磁気	電流と磁場、電磁誘導					
第 1 3 回	原子の構造、原子核と放射線	放射線の発見、 α 線、 β 線、 γ 線、半減期、放射線の単位					
第 1 4 回	放射線の人体への影響 医療における放射線の利用	外部被爆と内部被爆、日常生活における被爆量、人体への影響					
第 1 5 回	まとめ・総括	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験(100%)で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
授業(プリント)、演習プリント							
教科書							
「系統看護学講座 基礎分野 物理学」：医学書院							
実務経験							
公立高校、私立高校等で、物理学の指導に携わった経験を持ち、基本的な物理法則について講義する。物理法則の数式については、最小限にとどめるように努力し、数式を扱う場合には、可能な限り、かみくだいて解説するように心がける。							

科目名	文章表現論	単位	1 単位 (15時間)	時期	1 年次 前期	講師名	池田由佳子 白尾麻美
到達目標							
1. 段落の構造と説明文の内容を理解し、要約することができる。 2. 基本的な文書の構成を理解し、書くことができる。 3. 診療録の構成を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	論文の基礎（１）	池田	文章記述の基礎，読解・要約トレーニング パラグラフ・ライティングの基本				
第 2 回	論文の基礎（２）	池田	文章記述の基礎，読解・要約トレーニング 論文の型【課題解決型】				
第 3 回	論文の基礎（３）	池田	文章記述の基礎，読解・要約トレーニング 論文の型【比較型】				
第 4 回	論文の基礎（４）	池田	比較討論 グループワーク				
第 5 回	手紙文の構成	池田	手紙文 敬語				
第 6 回	診療録の役割	白尾	意義・目的 ゴール設定の共有				
第 7 回	診療録の書き方	白尾	構成要素 SOAP 法				
第 8 回	まとめ	池田・ 白尾	レポート作成 総括				
評価方法							
課題（60％），レポート（40％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 課題は、授業中に配布する。レポートは授業中に作成した作成物を評定する。							
講義方法							
プリント，セルフワーク オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書・参考書							
なし							
実務経験							
池田由佳子：国語教員免許取得。文章を記述するために必要な基礎知識について、講義・課題を通じて専門的立場から教授する。 白尾麻美：国立大学大学院保健学研究科にて博士前期課程を修了。認定理学療法士（学校教育）取得。理学療法士に必要とされる文章表現（診療録の記載方法）について講義する。							

科目名	リハビリテーション英語	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	白尾麻美 オウエン・ロバート・プリンス
到達目標							
1. 基本的な英語医療用語を理解し、臨床現場で応用できるようになる。 2. 国際人として必要不可欠な英会話を習得し、グローバルな理学療法士を目指す。							
授業計画							
授業回数	担当	講義内容					
第 1 回	白尾	部位と臓器					
第 2 回	白尾	身体の部位の形容詞、骨・筋・神経					
第 3 回	白尾	その他の部位					
第 4 回	白尾	病気					
第 5 回	白尾	症状					
第 6 回	白尾	身体の状態					
第 7 回	白尾	まとめ・中間試験					
第 8 回	プリンス	INTRODUCTIONS AND QUESTIONS TO GET TO KNOW SOMEONE/ ENGLISH FOR WHEN YOU DO NOT UNDERSTAND/JOBS/ PERSONAL INFORMATION					
第 9 回	プリンス	WHAT IS IT? WHAT ARE THEY?/THIS, THAT, THESE, THOSE/THINGS PEOPLE HAVE					
第10回	プリンス	PREPOSITIONS OF PLACE/LIKES AND DISLIKES					
第11回	プリンス	SOME VOCABULARY RELATED TO HEALTH/TELLING THE TIME/HAVING FUN					
第12回	プリンス	BASIC INFORMATION ABOUT PHYSICAL THERAPY/OPPOSITES FOR ADJECTIVES/ THINGS PEOPLE CAN DO					
第13回	プリンス	LIFETIME EXPERIENCES RELATED TO HEALTH/PRICES/ WHAT PEOPLE ARE WEARING/WHAT PEOPLE ARE DOING					
第14回	プリンス	COMMON HEALTH COMPLAINTS/GOING TO (FUTURE) /THERE IS... THERE ARE...					
第15回	プリンス	EXAMINATION（終講試験）					
評価方法							
筆記による中間試験（50%）、筆記による終講試験（ヒアリング含む）（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義（教科書・プリント）							
教科書・参考書							
「音声と例文でおぼえる基本医療英語1000」：南雲堂 「Smart Choice, 4th Edition; Starter Student Book」：Oxford University Press							
実務経験							
白尾麻美：理学療法業務に携わった経験を活かし、臨床の観点からリハビリテーション英語について講義する。 オウエン・ロバート・プリンス：公立小・中学校で英語教育、専門学校で英会話教育の授業・講義を行っており、グローバルな生徒・学生の育成に寄与してきた。							

科目名	保健体育学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	平川洋介
到達目標							
1. 将来医療人をめざしている学生に教養豊かな幅広い社会に貢献できるような道徳的、社会的人柄の育成を目指す。 2. 理論と実技によって自己の身体練磨及び将来にわたる健康管理の方法を学ぶ。 3. トレーニング指導者の役割、内容を理解し、そのための知識を習得する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	バレーボール	試しのゲーム スパイクの習得、基本的ルールの確認					
第 2 回	バレーボール	試しのゲーム スパイク、3 段攻撃の習得					
第 3 回	バレーボール	リーグ戦①					
第 4 回	バレーボール	リーグ戦②					
第 5 回	トレーニング理論 1	トレーニングとは？トレーニング指導者の役割					
第 6 回	バドミントン	ダブルスのゲーム スマッシュの習得、基本的ルールの確認					
第 7 回	バドミントン	ダブルスのゲーム スマッシュ、ドライブ他の習得					
第 8 回	バドミントン	ダブルスリーグ戦①					
第 9 回	バドミントン	ダブルスリーグ戦②					
第10回	トレーニング理論 2	運動学学習理論、コーチング理論					
第11回	トレーニング理論 3	運動と栄養、競技力向上と栄養					
第12回	バスケットボール	ゲーム 基本的ルールの確認					
第13回	バスケットボール	ゲーム レイアップシュートの習得					
第14回	バスケットボール	リーグ戦					
第15回	まとめ	第5回、第10回、第11回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（80%）、実技（20%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 実技（20%）は、授業中の実技の取り組み等を評価する。							
講義方法							
講義、実技 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
なし							
実務経験							
スポーツクラブインストラクター3年、高校保健体育非常勤講師1年。本校保健体育科目担当歴19年、レクリエーション論科目担当10年。							

科目名	統計学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	藤崎恒晏
到達目標							
統計学の考え方と基礎知識を学び、データ処理と統計的推測ができる能力を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	序論		臨床統計学の概要				
第 2 回	データの整理（1 変数の場合）（1）		度数分布：度数分布表の作成				
第 3 回	データの整理（1 変数の場合）（2）		データの代表値：データの散布度				
第 4 回	データの整理（2 変数の場合）（1）		2 変数の解析：相関係数				
第 5 回	データの整理（2 変数の場合）（2）		回帰直線：最小 2 乗法				
第 6 回	確率と分布（1）		確率の基本性質：反復試行の確率				
第 7 回	確率と分布（2）		離散確率変数の平均値と分散：二項分布：ポアソン分布				
第 8 回	確率と分布（3）		連続確率変数の平均値と分散：正規分布：標準正規分布				
第 9 回	確率と分布（4）		標準正規分布の確率と正規分布の確率				
第10回	母集団と標本（1）		標本の抽出：標本平均の平均値と分散				
第11回	母集団と標本（2）		中心極限定理：標本比率の分布				
第12回	推定		点推定：正規分布の母平均の区間推定：t 分布				
第13回	推定と検定		母比率の区間推定：統計的検定の手順				
第14回	検定		平均値の検定：平均値の差の検定				
第15回	まとめ		第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（75%）、小テスト・レポート（25%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 小テストとレポートは、授業後に配布し、提出されたものを評価する。							
講義方法							
講義（教科書、プリント）、Excelによるデモンストレーション							
教科書・参考書							
教科書：「新 確率統計」：大日本図書 参考書：「医療系のための統計入門」：実務出版							
実務経験							
高専および大学で数学、統計学の講義を担当してきた。							

專門基礎分野

科目名	解剖学	単位	2 単位（60時間）	時期	1 年次 前後期	講師名	赤坂恵理
到達目標							
1. 人体の構造と機能について、理解する。 2. 人体の構造と機能について、説明できるようになる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	泌尿器系 ①	腎臓					
第 2 回	泌尿器系 ②	尿管、膀胱					
第 3 回	泌尿器系 ③	尿道					
第 4 回	泌尿器系 ④	生殖器					
第 5 回	神経系各論 ①	神経系の区分、神経系を構成する細胞					
第 6 回	神経系各論 ②	中枢神経系の構成					
第 7 回	神経系各論 ③	中枢神経系の構成					
第 8 回	神経系各論 ④	中枢神経系の構成					
第 9 回	神経系各論 ⑤	末梢神経系の構成					
第10回	神経系各論 ⑥	末梢神経系の構成					
第11回	神経系各論 ⑦	自律神経					
第12回	感覚器系 ①	皮膚					
第13回	感覚器系 ②	視覚器					
第14回	感覚器系 ③	聴覚、平衡覚					
第15回	前半のまとめ	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）					
第16回	循環器系総論	肺循環と体循環、血管の構造					
第17回	循環器系各論 ①	リンパ系					
第18回	循環器系各論 ②	心臓の構造					
第19回	循環器系各論 ③	心臓の構造					
第20回	循環器系各論 ④	全身の動脈					
第21回	循環器系各論 ⑤	全身の静脈					
第22回	呼吸器系 ①	鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭					
第23回	呼吸器系 ②	気管、気管支					
第24回	呼吸器系 ③	鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭					
第25回	消化器系 ①	口腔、口唇、頬、口蓋、舌、歯、唾液腺					
第26回	消化器系 ②	咽頭、食道、胃、小腸、大腸					
第27回	消化器系 ③	肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腹膜、嚥下					
第28回	内分泌系 ①	内分泌と外分泌、視床下部、下垂体					
第29回	内分泌系 ②	副腎、腎臓、性腺、消化管、心臓、脂肪細胞					
第30回	後半のまとめ	第16回～29回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
中間試験（50%）， 終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義 オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「PT・OTビジュアルテキスト解剖学」：羊土社 参考書：「解剖生理学人体の構造と機能」：医学書院、「理学療法士・作業療法士グリーンノート」：メジカルビュー							
実務経験							
歯科医師としての臨床の経験がある。分子生物学分野で研究し、博士（医学）を取得した。 専門学校では様々な基礎医学を講義した経験がある。							

科目名	機能解剖学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	白尾麻美
到達目標							
1. 頸部・上肢の各関節運動に関わる構造と機能について説明できる。 2. 脊柱・下肢の各関節運動に関わる構造と機能について説明できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	骨の構造	骨の分類、骨単位、再構築					
第 2 回	筋の構造	筋の種類、骨格筋の名称、収縮の種類、形状による分類					
第 3 回	関節の形態と可動域	連結の分類、関節の構造、関節の形状と動き、関節とてこ					
第 4 回	上肢の骨	肩甲骨～尺骨、橈骨～指骨					
第 5 回	上肢の関節	胸鎖～肩甲上腕関節、肘～前腕骨間膜、橈骨手根～指節間関節					
第 6 回	上肢の筋	胸部～背部浅層、肩甲骨周辺・上腕・前腕・手の筋					
第 7 回	上肢の筋膜・神経・脈管	胸部浅層～手の筋膜、神経根・幹・束、上肢の動脈・静脈					
第 8 回	下肢の骨	寛骨～脛骨、腓骨～趾骨					
第 9 回	下肢の関節	股関節～膝関節、脛腓関節～距腿関節、足～足趾関節					
第10回	下肢の筋	大腿前面～内側の筋、殿部～大腿後面の筋、下腿前面～後面の筋					
第11回	下肢の筋膜・神経・脈管	骨盤前面～下腿筋膜、腰神経叢～仙骨神経叢、下肢の動脈・静脈					
第12回	頭部の骨・椎骨・胸郭の骨	頭蓋の骨～内頭蓋底の構造物、形態と特徴、胸郭の骨格～胸骨					
第13回	頭頸部・体幹の関節と筋・筋膜	頭部・脊柱の関節、頸部～背部の筋・筋膜					
第14回	まとめ（1）	内容の復習					
第15回	まとめ（2）	第1回～13回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書・資料を用いた講義オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書							
「PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学」：羊土社 「PT・OT 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学」：医歯薬出版							
実務経験							
理学療法業務に携わった経験を活かし、臨床の観点から人体の構造・機能について講義する。							

科目名	生理学	単位	2 単位（60時間）	時期	1 年次 前後期	講師名	赤坂恵理
到達目標							
病理学・運動学・解剖学の基礎となる生体の器官・組織・細胞レベルでの働きについて学ぶことができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	生命現象と人体	細胞、組織、器官、エネルギー産生					
第 2 回	細胞の構造と機能 ①	細胞膜、核、細胞内小器官					
第 3 回	細胞の構造と機能 ②	静止電位と活動電位					
第 4 回	神経の興奮伝導と末梢神経 ①	神経細胞の構造					
第 5 回	神経の興奮伝導と末梢神経 ②	シナプスにおける興奮の伝達					
第 6 回	中枢神経系 ①	中枢神経系の構成					
第 7 回	中枢神経系 ②	学習、記憶、脳波、睡眠					
第 8 回	中枢神経系 ③	大脳基底核、辺縁系、脳室					
第 9 回	筋と骨 ①	筋の分類、骨格筋					
第10回	筋と骨 ②	平滑筋、心筋、骨					
第11回	血液 ①	血液の組成と機能、赤血球と白血球					
第12回	血液 ②	血小板、血漿、血液型					
第13回	感覚 ①	体性感覚、内臓感覚、特殊感覚					
第14回	感覚 ②	特殊感覚					
第15回	前半のまとめ	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）					
第16回	心臓と循環 ①	心筋の活動電位、心電図の概要					
第17回	心臓と循環 ②	前負荷、後負荷、収縮性、血圧					
第18回	心臓と循環 ③	心機能曲線、血圧の調節、静脈還流					
第19回	呼吸とガスの運搬	呼吸のしくみ、スパイログラム、呼吸運動					
第20回	尿の生成と排泄 ①	尿生成のしくみ					
第21回	尿の生成と排泄 ②	クリアランス、排尿、尿の性状と排尿異常					
第22回	酸塩基平衡	酸塩基平衡のしくみ					
第23回	消化と吸収 ①	口腔、咽頭、食道、胃					
第24回	消化と吸収 ②	小腸、大腸、肝臓					
第25回	内分泌	内分泌機能とホルモンの作用					
第26回	代謝と体温	3大栄養素、エネルギー代謝、体温					
第27回	生殖と発生 ①	男性・女性生殖機能					
第28回	生殖と発生 ②	受精、着床、胎児の発生					
第29回	運動生理	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化					
第30回	後半のまとめ	第16回～29回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」：医学書院							
実務経験							
歯科医師としての臨床の経験がある。また分子生物学分野で研究し、博士（医学）を取得した。専門学校で非常勤講師として様々な基礎医学を講義している。							

科目名	運動生理学	単位	1 単位（15時間）	時期	1 年次 後期	講師名	野方 敏行
到達目標							
人間の体のしくみを理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	筋収縮におけるATPについて	筋収縮時のATP利用の過程を学ぶ					
第 2 回	有酸素的代謝と無酸素的代謝	運動強度・時間によるATP合成の過程の違いを学ぶ					
第 3 回	運動時における循環応答	運動時の心拍数，心拍出量の変化を学ぶ					
第 4 回	運動時における血流の再分配	運動時の脳，腎臓，消化器系の血流の変化を学ぶ					
第 5 回	運動時における換気応答	運動時の一回換気量，分時換気量の変化を学ぶ					
第 6 回	運動時における代謝応答	呼吸商や代謝当量を理解する					
第 7 回	肺機能検査	肺機能検査から運動時の換気応答を学ぶ					
第 8 回	まとめ	第1回～7回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を100点満点として評価する。							
講義方法							
オンラインで講義を行う可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」：医学書院							
実務経験							
病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる理論を講義する。							

科目名	運動学	単位	2 単位（60時間）	時期	1 年次 前後期	講師名	寺師順一
到達目標							
人間の正常な運動とそのメカニズムについて、解剖学に基づいて理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	運動学とは？	運動学の歴史、運動学とリハビリテーションについて理解する。					
第 2 回	生体力学 ①	身体力学の記述と解釈に必要な力学の基礎的知識を理解する。					
第 3 回	生体力学 ②	モーメント、てこの種類・作用を理解する。					
第 4 回	運動器の構造と機能 ①	関節構造と種類について理解する。					
第 5 回	運動器の構造と機能 ②	骨格筋の構造と機能について理解する。					
第 6 回	運動器の構造と機能 ③	神経系の仕組みについて理解する。					
第 7 回	運動器の構造と機能 ④	運動の中枢神経機構ついて理解する。					
第 8 回	上肢帯と上肢の運動 ①	肩甲帯の構造と関節運動を理解する。					
第 9 回	上肢帯と上肢の運動 ②	肩関節の構造と関節運動を理解する。					
第10回	上肢帯と上肢の運動 ③	肘関節、前腕の構造と関節運動を理解する。					
第11回	上肢帯と上肢の運動 ④	手関節、手指の構造と関節運動を理解する。					
第12回	下肢帯と下肢の運動 ①	股関節の構造と関節運動を理解する。					
第13回	下肢帯と下肢の運動 ②	膝関節の構造と関節運動を理解する。					
第14回	下肢帯と下肢の運動 ③	足関節の構造と関節運動を理解する。					
第15回	前半のまとめ（1）	第1回～14回の内容のまとめ・総括を行う。					
第16回	前半のまとめ（2）	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）					
第17回	脊柱・体幹の運動 ①	脊柱の構造と運動を理解する。					
第18回	脊柱・体幹の運動 ②	脊柱の構造と運動を理解する。					
第19回	顔面と頭部の運動	顎関節の構造と関節運動を理解する。					
第20回	姿勢	姿勢と姿勢制御および物体の力学的安定性を理解する。					
第21回	立位姿勢	立位姿勢保持ならびに立位保持制御の仕組みを理解する。					
第22回	歩行 ①	正常歩行の基本的特性を理解する。					
第23回	歩行 ②	正常歩行を運動学、運動力学的視点から理解する。					
第24回	歩行 ③	異常歩行とその原因となる疾患の基礎知識を理解する。					
第25回	歩行 ④	小児および高齢者および走行について					
第26回	歩行 ⑤	ランチョ・ロス・アミゴスによる歩行の定義を理解する。					
第27回	運動発達	運動発達の基本概念を理解する。					
第28回	運動学習	運動学習の基本概念を理解する。					
第29回	後半のまとめ（1）	第17回～28回の内容のまとめ・総括を行う。					
第30回	後半のまとめ（2）	第17回～28回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
中間試験(50%)、終講試験(50%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義（教科書・プリント・PowerPoint 等） 実技（姿勢・歩行 等） オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「基礎運動学 第6版 補訂」：医歯薬出版 参考書：「15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学」							
実務経験							
病院で各種疾患を有する対象者の理学療法業務に携わった経験を下に、理学療法において基礎かつ必要不可欠な運動学について講義する。							

科目名	運動学演習	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	寺師順一 吉田治正
到達目標							
1. 「運動学」で習得した知識を元に体表からの骨・筋の視診、触診ができる。 2. 正常な関節構成体の構成と機能を実際に調べ、説明することができる。 3. 様々な身体運動・動作について運動学的に分析することができる。 4. 様々な課題を通して、各分析機器を使用し、結果を分析できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	下肢帯および下肢の機能解剖	寺師	下肢の骨、筋の触診				
第2回	下肢帯および下肢の関節運動	寺師	関節運動の観察、関節可動域に影響を及ぼす因子、足アーチの観察				
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖	寺師	上肢の骨、筋の触診				
第4回	上肢帯および上肢の関節運動①	寺師	関節運動の観察、関節可動域に影響を及ぼす因子、ADLに必要な可動域				
第5回	上肢帯および上肢の関節運動②	寺師	手のアーチの観察、関節運動と可動域に及ぼす要因、把持の観察				
第6回	頸部・体幹の機能解剖	寺師	頸部、体幹の骨、筋の触診				
第7回	脊柱・体幹の関節運動	寺師	脊柱の運動と可動域計測、脊柱の側弯の観察				
第8回	筋活動	寺師	筋電図、計測方法、筋活動と筋収縮、身体動作時の計測				
第9回	姿勢①ー静止姿勢	寺師	身体重心の測定（直接法、関節法）、アライメント評価、支持基底面				
第10回	姿勢②ー姿勢制御	寺師	重心動揺の測定、計測方法、立ち直り、バランス反応				
第11回	生体力学	寺師	身体動作時の重心、重心加速度の算出				
第12回	動作分析	寺師	ビデオカメラによる身体分析				
第13回	歩行分析	寺師	歩行時間、歩行距離因子、下肢関節運動、床反力、関節モーメント				
第14回	運動負荷試験①	吉田	シャトルウォーキングテスト				
第15回	運動負荷試験②	吉田	6分間歩行試験				
第16回	まとめ	寺師・ 吉田	第1回～13回の内容の終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（80％）、レポート（20％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 レポートは第14、15回で提出が求められ、その内容をルーブリック評価で評定する。							
講義方法							
方法：講義、演習、ペア学習 オンラインによる講義になる可能性があります。							
教科書・参考書							
「レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習」：中山書店 「基礎運動学 第6版補訂」：医歯薬出版							
実務経験							
寺師順一：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる運動理論と実技を講義する。 吉田治正：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる運動理論と実技を講義する。							

科目名	人間発達学	単位	1 単位（30時間）	時期	1年次後期	講師名	竹田孝幸
到達目標							
人間を生涯にわたって発達する存在として捉え、胎生期から高齢期にいたる各ライフステージについて、身体的、認知的、情緒的、社会的側面から概観し、理学療法の対象となる人間について理解を深める							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	人間発達学総論	15回で行う内容について概略を説明し、成績評価についても説明する。 また、人間発達学で用いる用語の定義などについても説明する。					
第 2 回	発達概念	発達の過程で共通にみられる一般的特徴や傾向について説明する。					
第 3 回	発達理論	主だった発達理論について説明する。					
第 4 回	発達検査	主だった発達検査について説明する。					
第 5 回	姿勢反射/反応	姿勢反射・反応：運動発達の背景・基盤となる姿勢反射・反応について、その出現時期・統合時期と意義について説明する					
第 6 回	胎児の発達	胎児期の正常発達について説明する。					
第 7 回	乳幼児期の運動発達 ①	乳幼児期の正常発達について（0～4カ月） 特に運動面の発達について説明する。					
第 8 回	乳幼児期の運動発達 ②	乳幼児期の正常発達について（5～8カ月） 特に運動面の発達について説明する。					
第 9 回	乳幼児期の運動発達 ③	乳幼児期の正常発達について（9～12カ月） 特に運動面の発達について説明する。					
第10回	乳幼児期の運動発達 ④	乳幼児期の正常発達について（13～18カ月） 特に運動面の発達について説明する。					
第11回	上肢機能の発達	物の把持・把握、目と手の協調性					
第12回	ADLの発達	遊びの発達、食事・排泄・更衣の発達					
第13回	感覚・知覚・認知・社会性の発達	乳幼児期の感覚・知覚・認知・社会性の発達について説明する					
第14回	学童・青年・成人・老年期の発達	第二性徴、老化、超高齢社会					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
講義・スライド・ビデオ							
教科書・参考書							
教科書：「イラストでわかる人間発達学」：医歯薬出版 参考書：「人間発達学」：Crosslink basic リハビリテーションテキスト							
実務経験							
病院で小児分野の理学療法に関わった経験がある。							

科目名	バイオメカニクス論	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	津村裕光
到達目標							
1. てこ、モーメント、重心、床反力、加速度、力等の概念を理解し説明することができる。 2. ヒトの姿勢・歩行動作を運動力学的に理解し説明することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	姿勢の制御-その 1	基本的肢位と基本的運動方向					
第 2 回	姿勢の制御-その 2	人体の重心と立位姿勢保持機能					
第 3 回	テコの原理	テコの種類と人体での作用					
第 4 回	力のモーメント-その 1	モーメントの基礎					
第 5 回	力のモーメント-その 2	三角関数を用いた力のモーメントの計算					
第 6 回	力のモーメント-その 3	杖補助片足立ち時の床反力，股外転筋力の計算					
第 7 回	力のモーメント-その 4	多様なモーメントの計算					
第 8 回	力学の基礎-その 1	基本単位と組立単位，基礎力学で用いられる用語の定義					
第 9 回	力学の基礎-その 2	運動力学の計算，運動分析，計測機器					
第10回	歩行-その 1	正常歩行の歩行周期，小児の歩行，高齢者の歩行					
第11回	歩行-その 2	歩行時の関節角度の変化と重心移動					
第12回	歩行-その 3	歩行時の筋活動					
第13回	歩行-その 4	歩行時の床反力と力のモーメント					
第14回	車椅子	車椅子の基本構造，車椅子動作と床反力					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
プリント・板書での講義，演習オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
なし							
実務経験							
中枢神経疾患の理学療法に携わった経験を下に、ヒトの運動・動作について教授する。							

科目名	病理学	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	高崎隆志
到達目標							
1. 疾病発現のメカニズムを学び、各種疾患に対する理解を求める。 2. 様々な専門用語について、正しい知識を習得する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	序論（病理学について）	基礎病理と臨床病理 医療現場における病理学の役割					
第 2 回	病因論、外因	疾病の原因となる科学的、物理的、生物学的要因					
第 3 回	病因論、内因	性別、年齢、免疫の異常などにより起こる疾患					
第 4 回	先天異常、奇型	遺伝子異常、染色体異常などの内因と内因に関する疾患					
第 5 回	進行性病変	組織の変性、萎縮、壊死と転帰					
第 6 回	退行性病変	組織の肥大、過形成、化生の生理学的意義					
第 7 回	代謝異常	物質の代謝と、代謝障害により発生する疾患					
第 8 回	循環障害 ①	体液循環のシステムと循環障害によるうっ血や充血					
第 9 回	循環障害 ②	循環障害による血栓症や塞栓症、梗塞について					
第10回	免疫	免疫のメカニズムと免疫不全による疾患、アレルギー					
第11回	炎症	炎症のメカニズム、炎症の経時的変化と症状					
第12回	感染症	感染症と炎症の関連、結核、梅毒、STDなどの感染症各論					
第13回	腫瘍 ①	良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、腫瘍の増殖、進展形式					
第14回	腫瘍 ②	腫瘍発生のメカニズム、治療、公衆衛生的事項					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（80％），課題レポート（20％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 課題レポートは授業中に課題について説明し、提出されたレポートを評価する。							
講義方法							
講義（教科書・プリント） オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「標準理学療法学・作業療法学 病理学 第5版」：医学書院							
実務経験							
病院や大学等で、病理業務に携わった経験を持ち、臨床と病理について講義する。							

科目名	臨床心理学	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次後期	講師名	大島英世
到達目標							
人間の心理的・行動的問題を解消するための、心理療法・心理アセスメントの基礎を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	臨床心理学を学ぶ	こころとからだ、ストレス対処法					
第 2 回	臨床心理学とは	心理学と臨床心理学					
第 3 回	防衛機制	こころと行動					
第 4 回	心理アセスメント ①	心理アセスメントの目的・方法					
第 5 回	心理アセスメント ②	人格検査・知能検査					
第 6 回	発達理論	エリクソンの発達理論					
第 7 回	ライフサイクルと発達 ①	乳児期・幼児期・児童期					
第 8 回	ライフサイクルと発達 ②	青年期・成人期・老年期					
第 9 回	記憶のしくみ	記憶のしくみ・分類と性質					
第10回	心理療法 ①	行動療法・認知行動療法					
第11回	心理療法 ②	精神分析療法・芸術療法・来談者中心療法					
第12回	臨床心理学の対象 ①	不安症・強迫症・心的外傷後ストレス障害・解離症・身体症状症					
第13回	臨床心理学の対象 ②	統合失調症スペクトラム障害・双極性障害・抑うつ障害					
第14回	臨床心理学の対象 ③	摂食障害・パーソナリティ障害・神経認知障害					
第15回	まとめ・総括	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（80％）、授業中の小レポート（20％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義（教科書・プリント・視覚教材） オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「リハベーシック 心理学・臨床心理学」：医歯薬出版 参考書：「臨床心理学概論」：鹿児島学術文化出版 参考書：「よくわかる臨床心理学 改訂新版」：ミネルヴァ書房							
実務経験							
公認心理師・臨床心理士資格を持ち、大学および大学院で臨床心理学の講義、臨床心理実習を担当。心理臨床の場では、発達相談、子育て支援、メンタルヘルスに関する臨床動作法を用いた支援者支援などを行っている。							

科目名	内科学	単位	2 単位（60時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	徳留京子
到達目標							
高齢化に伴う慢性疾患の増加や合併症などの全身状態管理能力や疾病の種類・病態・診断・治療などを理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	総論・概論		PT・OTと内科学のかかわり、内科学とは				
第 2 回	症候学（1）		症候・診断・治療 ①				
第 3 回	症候学（2）		症候・診断・治療 ②				
第 4 回	循環器疾患（1）		循環器の概略				
第 5 回	循環器疾患（2）		虚血性心疾患				
第 6 回	循環器疾患（3）		その他の心疾患				
第 7 回	心電図（1）		心電図の基本				
第 8 回	心電図（2）		不整脈など				
第 9 回	呼吸器疾患（1）		呼吸器の概略				
第10回	呼吸器疾患（2）		閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患について				
第11回	呼吸器疾患（3）		感染性肺疾患について				
第12回	消化管疾患（1）		消化管の概略				
第13回	消化管疾患（2）		各種消化管疾患について				
第14回	前半のまとめ（1）		既習の内容の学習				
第15回	前半のまとめ（2）		第1回～13回の内容に関する中間試験（筆記）				
第16回	肝・胆・膵疾患（1）		肝胆膵の概略				
第17回	肝・胆・膵疾患（2）		肝炎・肝硬変・胆膵疾患について				
第18回	血液・造血器疾患（1）		造血器の概略				
第19回	血液・造血器疾患（2）		貧血について				
第20回	血液・造血器疾患（3）		白血病・血友病				
第21回	代謝性疾患		糖尿病・メタボリックシンドロームについて				
第22回	内分泌疾患（1）		内分泌系の概略				
第23回	内分泌疾患（2）		ホルモン分泌異常について				
第24回	腎・泌尿器疾患（1）		腎・泌尿器の概略				
第25回	腎・泌尿器疾患（2）		ネフローゼ症候群、腎不全について				
第26回	膠原病・アレルギー疾患・免疫不全（1）		免疫系の概略				
第27回	膠原病・アレルギー疾患・免疫不全（2）		自己免疫疾患について				
第28回	感染性疾患		ウイルス・細菌感染症、寄生虫について				
第29回	後半のまとめ（1）		既習の内容の学習				
第30回	後半のまとめ（2）		第16回～第28回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
中間試験（50％）、終講試験（50％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義（プリント） オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「標準理学療法学・作業療法学 内科学」：医学書院							
実務経験							
国立大学医学部神経解剖学講座の元助教。 病院での臨床経験を下に、鹿児島県内の専門学校で非常勤講師として講義を行う。							

科目名	整形外科学	単位	2 単位（60時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	白尾麻美 用皆正文
到達目標							
1. リハビリテーション治療の対象として重要な整形外科的疾患の病態を理解することができる。 2. リハビリテーション治療の対象として重要な整形外科的疾患の診断を理解することができる。 3. リハビリテーション治療の対象として重要な整形外科的疾患の治療法を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	運動器の基礎知識	白尾	安定性と運動性				
第 2 回	組織修復・治癒過程総論	白尾	骨格筋組織～皮膚				
第 3 回	骨折・脱臼総論	白尾	症状・治療				
第 4 回	上肢骨折	白尾	疾患の概要・診断				
第 5 回	大腿骨骨折	白尾	疾患の概要・診断				
第 6 回	膝・下腿骨骨折	白尾	疾患の概要・診断				
第 7 回	肩関節疾患	白尾	肩関節周囲炎、腱板断裂				
第 8 回	肘関節疾患	用皆	野球肘, 上腕骨外側上顆炎（テニス肘）				
第 9 回	手関節・手指疾患	用皆	槌指, 腱鞘炎				
第10回	股関節疾患	用皆	発育性股関節形成不全, ペルテス病				
第11回	変形性関節症	白尾	疾患の概要・診断				
第12回	足部・足趾疾患	用皆	成人期扁平足, 外反母趾				
第13回	関節リウマチ	白尾	疾患の概要, 治療の種類と特徴				
第14回	前半のまとめ（1）	白尾・用皆	第1回～13回に教授した内容の復習				
第15回	前半のまとめ（2）	白尾・用皆	第1回～13回の内容に関連した中間試験（筆記）				
第16回	骨軟部腫瘍	用皆	骨・軟骨腫, 骨・軟骨肉腫, ユーイング肉腫, 脂肪腫				
第17回	末梢神経障害	用皆	腕神経叢損傷, 橈骨・正中・尺骨神経損傷, 腓骨神経損傷				
第18回	代謝性骨疾患	用皆	骨粗鬆症, 甲状腺・副甲状腺機能亢進症, 先端肥大症, 巨人症				
第19回	膝半月板損傷, タナ障害	用皆	膝半月板損傷, 滑膜ひだ（タナ）障害				
第20回	膝靱帯損傷	用皆	膝内・外側側副靱帯損傷, 膝前・後十字靱帯損傷				
第21回	足靱帯損傷, アキレス腱損傷	用皆	足関節靱帯損傷, アキレス腱断裂				
第22回	末梢循環障害	用皆	閉塞性動脈硬化症, 深部静脈血栓症				
第23回	骨壊死、骨端症	用皆	大腿骨頭壊死症, シーヴァー病, ケーラー病, オスグッド・シュラッター病				
第24回	脊椎疾患 ①	用皆	頸椎疾患				
第25回	脊椎疾患 ②	用皆	腰椎疾患				
第26回	腰痛症	用皆	椎間関節性腰痛症				
第27回	脊椎側弯症	用皆	特発性側弯症				
第28回	スポーツ障害	用皆	スポーツ障害				
第29回	後半のまとめ（1）	用皆	第16回～28回に教授した内容の復習				
第30回	後半のまとめ（2）	用皆	第16回～28回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書							
「リハビリテーションのための整形外科学の歩き方」：南江堂 「Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」：MEDICAL VIEW							
実務経験							
白尾麻美：病院で整形外科疾患を有する対象者の業務に携わった経験を下に、整形外科疾患の診断、観血的療法、 保存的療法について教授する。 用皆正文：病院で整形外科疾患を有する対象者の業務に携わった経験を下に、整形外科疾患疾患の病態から治療法に ついて教授する。							

科目名	神経内科学		単位	2 単位 (60時間)	時期	2 年次 前後期	講師名	堂園浩一朗 松崎敏男
到達目標								
神経疾患・神経症状・神経検査・治療学を中心に神経疾患の理解を深めることができる。								
授業計画								
授業回数	主題		担当	授業内容				
第 1 回	ベッドサイドの神経の診かた		松崎	病歴のとり方、診察の順序、記録の仕方				
第 2 回	運動機能の診かた ①		松崎	1. 問診～10. 筋力の診かた				
第 3 回	運動機能の診かた ②		松崎	11. 受動運動による徴候～15. 矛盾運動				
第 4 回	反射の診かた		松崎	Ⅰ. 腱反射と表在反射、Ⅱ. 病的反射				
第 5 回	感覚の診かた		松崎	1. 感覚検査の進め方～4. 検査所見の記録法				
第 6 回	脳神経の診かた ①		松崎	1. 嗅神経～3. 動眼・滑車・外転神経				
第 7 回	脳神経の診かた ②		松崎	4. 三叉神経～9. 舌下神経				
第 8 回	精神状態の診かた		松崎	精神状態の診かた、意識障害の診かた、知能の診かた、情動反応の診かた、認知症				
第 9 回	小脳機能の診かた		松崎	運動失調とは、姿勢の観察、不随意運動を調べる、骨格筋と筋の協調運動を調べる、固有感覚を調べる				
第10回	運動麻痺の診かた		松崎	運動障害の部位とその原因、錐体路障害、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症				
第11回	不随意運動の診かた ①		松崎	不随意運動とは、振戦、ミオクローヌス、バリスム、舞踏運動、アテトーゼ、ジストニア、チック				
第12回	不随意運動の診かた ②		松崎	パーキンソン症候群とその関連疾患、L-Dopa投与の問題点、ウイelson病、プリオン病				
第13回	感覚障害の診かた		松崎	感覚障害の部位とその評価、各種の感覚検査、延髄外側症候群、前脊髄動脈症候群、ギラン・バレー症候群				
第14回	脳神経障害の診かた		松崎	12の脳神経での異常、ホルネル症候群				
第15回	前半のまとめ		松崎	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）				
第16回	小脳障害の診かた		堂園	1. 小脳障害と小脳徴候～6. 小脳変性疾患の分類				
第17回	失語症・失行症・失認症の診かた ①		堂園	Ⅰ：失語症				
第18回	失語症・失行症・失認症の診かた ②		堂園	Ⅱ：失行症・失認症				
第19回	ベッドサイドにおける補助的検査		堂園	1. 補助検査法の意義～6. 自律神経機能検査について				
第20回	意識障害患者の診かた		堂園	1. 診察の前に注意すること～18. 脳ヘルニアによる二次的脳幹障害の診かた				
第21回	総合診断の要領		堂園	1. 診断の進め方、2. 総合診断に関しての注意事項				
第22回	局在診断のすすめ方		堂園	1. 局在診断の要領～6. 脊髄診断の局在診断				
第23回	脳卒中の診かた		松崎	脳血管障害の分類・基礎				
第24回	脳卒中における診断のすすめかた		松崎	脳梗塞・脳出血・くも膜下出血等の検査・診断・治療・リハビリ(ロボット含む)				
第25回	頭痛・頸肩腕痛・腰痛患者の診かた		松崎	片頭痛、頸椎症含む整形外科疾患、腰椎症、CRPS含む				
第26回	頭部外傷と痙攣のみかた		松崎	硬膜外血腫・硬膜下血腫含む頭部外傷の診療・ケア、てんかんののみかたと治療				
第27回	中枢神経系の炎症・感染症について		松崎	髄膜炎、脳炎、脊髄炎、その他の神経感染症、多発性硬化症含む				
第28回	筋萎縮の診かた（神経原性筋萎縮）		松崎	筋萎縮性側索硬化症含む脊髄疾患、シャルコ・マリー・トゥス病含む末梢神経疾患、脊髄小脳変性症				
第29回	筋萎縮の診かた（筋原性筋萎縮）		堂園・松崎	進行性筋ジストロフィー含む筋疾患、重症筋無力症含む神経筋接合部				
第30回	後半のまとめ		堂園・松崎	第16回～29回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法								
中間試験（50％）、終講試験（50％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。								
講義方法								
講義（教科書・プリント使用）、実習（神経の診かた） オンラインによる講義の可能性があります。								
教科書・参考書								
教科書：「ベッドサイドの神経の診かた」：南山堂								
実務経験								
堂園浩一朗：大学卒業後リハビリテーション医学教室に入局。 現在、市内の総合病院で急性期から維持期までのリハビリテーション医療全般に携わる。 日本リハビリテーション医学会専門医ならびに指導医である。 松崎敏男：国立大学病院神経内科、市内の病院内科・健康管理科・神経内科等を歴任した後、他県（沖縄・宮崎）の神経内科、 県内の地域医療・離島診療所等で計31年間診療する。講師としては沖縄の専門学校・鹿児島県の専門学校等で神経内科 の講義を行う。								

科目名	精神保健学	単位	1 単位（45時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	築瀬 誠
到達目標							
1. 精神障害の分類および精神機能の障害と精神症状について理解できる。 2. 統合失調症、感情障害、神経症性障害などの精神障害の病態と治療・リハビリテーションについて理解できる。 3. 精神保健医療福祉の制度などについて理解できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	精神障害の成因と分類	精神障害の分類（成因による分類と操作的定義による分類）					
第 2 回	精神機能の障害と精神症状	意識、注意と検討識、知能、性格、記憶の障害					
第 3 回	精神機能の障害と精神症状	感情、欲動および意志、自我意識、知覚、思考の障害					
第 4 回	統合失調症およびその関連障害	統合失調症の特徴と疫学					
第 5 回	統合失調症およびその関連障害	統合失調症の症状					
第 6 回	統合失調症およびその関連障害	統合失調症の治療とリハビリテーション					
第 7 回	気分（感情）障害	気分（感情）障害の特徴、疫学、症状					
第 8 回	気分（感情）障害	気分（感情）障害の治療とリハビリテーション					
第 9 回	神経症性障害	神経症性障害の特徴、疫学、症状					
第10回	神経症性障害	神経症性障害の治療とリハビリテーション					
第11回	精神作用物質による精神および行動の障害	精神作用物質による障害の特徴、疫学、症状					
第12回	精神作用物質による精神および行動の障害	精神作用物質による障害の治療とリハビリテーション					
第13回	脳器質性精神障害	器質性精神障害の特徴、疫学、症状					
第14回	脳器質性精神障害	器質性精神障害の治療とリハビリテーション					
第15回	前半のまとめ	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）					
第16回	てんかん	特徴と症状、治療					
第17回	生理的障害および身体的要因に関連した障害	特徴と症状、治療					
第18回	成人のパーソナリティ・障害・性の障害	特徴と症状、治療					
第19回	精神遅滞	特徴と症状、治療					
第20回	心理的発達の障害	特徴と症状、治療					
第21回	精神障害の治療とリハビリテーション	生物学治療および心理社会的治療					
第22回	精神保健福祉法および関連法規	精神保健福祉法、障害者総合支援法					
第23回	後半のまとめ	第16回～22回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
中間試験（60％）、終講試験（40％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料、視聴覚メディア教材を用いた講義 オンラインによる講義の可能性がります。							
教科書							
「標準理理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版 増補版」：医学書院							
実務経験							
病院での臨床、大学での教育・研究に携わった経験を下に、精神障害者の医療・保健・福祉・リハビリテーションについて教授する。							

科目名	小児科学	単位	1 単位（20時間）	時期	2 年次 前期	講師名	要 千草
到達目標							
成長・発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	小児科学概論、診断と治療の概要	小児の発達 小児保健 予防接種 応急処置 事故					
第 2 回	感染症	感染症の症状 細菌感染 ウイルス感染					
第 3 回	先天異常・先天代謝異常Ⅰ	遺伝と先天異常					
第 4 回	先天異常・先天代謝異常Ⅱ	先天代謝異常と発生機序					
第 5 回	循環器疾患	先天性心疾患 川崎病					
第 6 回	呼吸器疾患、内分泌・代謝疾患	肺炎 結核 下垂体・甲状腺の内分泌疾患 糖尿病					
第 7 回	血液疾患、腎・泌尿器系	貧血 白血病 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群					
第 8 回	神経・筋疾患Ⅰ	中枢神経系の発生 中枢神経疾患					
第 9 回	神経・筋疾患Ⅱ、発達障害	てんかんの分類 発達障害を生じる疾患					
第 10 回	神経・筋疾患Ⅲ 骨・関節疾患 児童虐待・事故	末梢神経疾患 筋疾患 骨・関節疾患 児童虐待					
第 11 回	まとめ	これまでの内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
講義（プリント・OHP・DVD） オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書							
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」：医学書院							
実務経験							
病院等で小児科医の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる小児科学理論を講義する。							

科目名	栄養薬理学	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次後期	講師名	山田勝士 有村恵美
到達目標							
1. 臨床栄養の必要性・意義について理解することができる。 2. 代表的疾患とその成因について理解する。 3. それぞれの疾患に対する基本的治療薬について理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	栄養ケア	有村	臨床栄養学の意義, 医療における臨床栄養の役割				
第 2 回	食事摂取基準	有村	エネルギーおよび栄養素の食事摂取基準				
第 3 回	栄養評価	有村	栄養スクリーニング, 栄養状態の判定方法, 栄養障害				
第 4 回	栄養補給法	有村	経口栄養法, 経腸栄養法, 静脈栄養法				
第 5 回	循環器疾患の栄養療法	有村	循環器疾患の栄養療法（高血圧症, 虚血性心疾患など）				
第 6 回	代謝疾患の栄養療法	有村	代謝疾患の栄養療法（脂質異常症, 糖尿病など）				
第 7 回	腎疾患・他の栄養療法	有村	腎疾患の栄養療法（慢性腎臓病, 糖尿病腎症など）, リハ栄養				
第 8 回	前半のまとめ	有村	第1回～7回の内容に関連した中間試験（筆記）				
第 9 回	薬の基礎知識	山田	薬の作用点、投与経路、薬の体内動態について				
第10回	心と神経系に作用する薬	山田	統合失調症, てんかん, パーキンソン病, 疼痛について				
第11回	心臓・血管系及び呼吸器系に作用する薬	山田	虚血性心疾患, 高血圧, 心不全, 咳, 気管支喘息について				
第12回	消化器系並びに内分泌・代謝系に作用する薬	山田	嘔吐, 下痢, 消化性潰瘍, 脂質異常症, 糖尿病, 甲状腺機能障害について				
第13回	腎・泌尿器系並びに血液・造血管系に作用する薬	山田	腎不全, 畜尿障害, 排尿障害, 血栓塞栓症, 貧血について				
第14回	骨、炎症と免疫系並びに眼に作用する薬	山田	骨粗鬆症, 関節リウマチ, 緑内障, 白内障について				
第15回	感染症の治療薬並びに悪性腫瘍に作用する薬	山田	細菌感染症, 真菌感染症, ウイルス感染症, 悪性腫瘍について				
第16回	後半のまとめ	山田	第9回～15回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
資料を用いた講義・演習 オンラインによる講義の可能性がります。							
教科書・参考書							
教科書（山田）：「初めの一步は絵で学ぶー薬理学」：じほう社出版 参考書（有村）：「病態栄養ガイドブック」：南江堂							
実務経験							
山田勝士：病院での臨床経験と医学部、薬学部、並びに看護専門学校で薬理学教育に携わった経験を下に、 栄養薬理学について教授する。 有村恵美：病院や教育現場に携わった経験を下に、臨床栄養について教授する。							

科目名	画像読影学演習	単位	1 単位（45時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	徳留京子・吉田治正 用皆正文
到達目標							
1. レントゲン画像、CT・MRI画像、超音波エコー等のそれぞれの画像において見えている身体構造（脳、脊髄、内臓、骨、関節等）を説明できる。 2. 疾患別の画像に示される特徴的な所見を発見し、説明することができる。 3. 各画像所見から理学療法実施上の留意点について説明できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	脳血管障害の読影演習①	吉田	脳の構造、基底核、放線冠、半卵円中心、皮質、脳幹レベルの読影ポイント				
第2回	脳血管障害の読影演習②	吉田	高次脳機能障害（前頭葉、側頭葉、後頭葉、頭頂葉障害）、MRA画像、主要血管閉塞での神経症状				
第3回	脳血管障害の読影演習③	吉田	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、正常圧水頭症、頭部外傷における頭部CT読影のポイント				
第4回	脳血管障害の読影演習④	吉田	頭部MRIの特徴（T1、T2、FLAIR、DWI、T2*）、MRI（前額断、矢状断、冠状断）画像読影のポイント				
第5回	脳血管障害の読影演習⑤	吉田	演習：頭部画像から症状と理学療法プログラムを検討する課題				
第6回	脊椎疾患の読影演習①	吉田	脊椎圧迫骨折、頸椎椎間板ヘルニア、腰椎椎間板ヘルニア				
第7回	脊椎疾患の読影演習②	吉田	腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、頸椎後縦靱帯骨化症				
第8回	脊髄疾患の読影演習③	吉田	転移性脊椎・脊髄腫瘍、脊髄損傷				
第9回	前半のまとめ	吉田	第1回～8回までの内容に関連する中間試験（筆記）				
第10回	骨・関節疾患の読影演習①	用皆	上腕骨顆上骨折、橈骨遠位端骨折				
第11回	骨・関節疾患の読影演習②	用皆	骨盤骨折、大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術、骨接合術）				
第12回	骨・関節疾患の読影演習③	用皆	半月板損傷、前十字靱帯損傷				
第13回	骨・関節疾患の読影演習④	用皆	変形性膝関節症、変形性股関節症				
第14回	骨・関節疾患の読影演習⑤	用皆	投球肩、野球肘、発育性股関節形成不全				
第15回	胸部疾患の読影演習①	吉田	胸部レントゲン画像（肺・心臓）の見方、胸部CTの見方				
第16回	胸部疾患の読影演習②	吉田	COPD、間質性肺炎（肺線維症）、肺炎、無気肺、気管支拡張症				
第17回	胸部疾患の読影演習③	吉田	心不全、肺水腫、胸水貯留、気胸、原発性肺癌				
第18回	胸部疾患の読影演習④	吉田	超音波エコーの原理、読影ポイント、心エコー画像所見、運動器エコー画像所見				
第19回	腹部疾患の読影演習①	徳留	消化器疾患（腸閉塞、腹部大動脈瘤、胃癌、大腸癌）				
第20回	腹部疾患の読影演習②	徳留	泌尿器疾患（腎不全、尿路結石、子宮がん）				
第21回	摂食嚥下障害の読影演習①	吉田	嚥下のメカニズム、VF画像、VE画像、VF画像の読影ポイント				
第22回	摂食嚥下障害の読影演習②	吉田	嚥下摂食障害（脳血管障害、神経変性疾患、筋疾患、膠原病、頭頸部腫瘍）				
第23回	後半のまとめ	徳留・用皆 吉田	第10回～22回までの内容に関連する終講試験（筆記）				
評価方法							
中間試験（40％）、終講試験（60％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた演習							
教科書							
「PT・OTのための画像診断マニュアル」：医学教育出版社							
実務経験							
徳留京子：臨床において腹部疾患に携わり、鹿児島県内の専門学校で非常勤講師として内科学の講義を行った経験を下に、腹部の画像読影について教授する。 吉田治正：臨床において呼吸器疾患に携わった経験を下に、胸部画像の読影について教授する。 用皆正文：骨・関節疾患の理学療法に携わった経験を下に、四肢の骨・関節疾患の画像読影について教授する。							

科目名	基礎予防学	単位	1 単位（15時間）	時期	2 年次前期	講師名	安藤哲夫
到達目標							
1. 持続可能な社会（Sustainable Development）における人々の健康な生活に必要な予防（医）学の基礎を知る。 2. 新生児期（含妊娠期）から高齢期までの各ライフステージに応じた健康の獲得法・健康管理法を知る。 3. 非感染症、とくに生活習慣病の予防に関する知識を得る。 4. 感染症の予防に関する知識を得る－(1)感染症発生の三原則／病原体・感染経路・宿主の感受性とは何かを知る。 5. 感染症の予防に関する知識を得る－(2)病原体および宿主の感受性の対策・消毒と免疫獲得についての知識を得る。 6. 感染症の予防に関する知識を得る－(3)・感染経路対策・標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際。 7. 感染症の予防に関する知識を得る－(4) 院内感染・日和見感染をどう防ぐのかを考える。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	持続可能な社会とは	持続可能な社会（Sustainable Development）に人々の健康的な生活が関わっていることを考える。					
第 2 回	ライフステージの健康問題について	健康に関する問題は性別やライフステージによって異なる。とくに妊娠期、学童期、思春期、壮年期（40代；男・肥満、女・更年期）を通して、高齢期の生活習慣病の予防を栄養・休養を中心に考える					
第 3 回	非感染症、とくに生活習慣病の予防について	三大死因（がん・心疾患・脳血管疾患）の発生要因を知って、それらの予防法を考える。					
第 4 回	感染症の予防に関する知識を得る－(1)	感染症発生の三原則／病原体・感染経路・宿主の感受性とは何かを知って、その対策を考える。					
第 5 回	感染症の予防に関する知識を得る－(2)	病原体および宿主の感受性の対策・消毒と免疫獲得についての知識を得た上で、感染症の予防を考える。					
第 6 回	感染症の予防に関する知識を得る－(3)	感染経路対策・標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際に取り組む上で、必須の知識を得る。					
第 7 回	感染症の予防に関する知識を得る－(4)	免疫力の弱い人が集まる病院内での日和見感染・院内感染をどう防ぐのかを考える。					
第 8 回	まとめ	既習の内容の終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（80%），授業ノート（10%），提出物（10%）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
プリント資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性もあります。							
教科書							
「《系統看護学講座 専門基礎分野》健康支援と社会保障制度8[2]公衆衛生(第14版)」：医学書院							
実務経験							
鹿児島大学大学院・医歯学総合研究科・疫学/予防医学講座の教官として水俣病や生活習慣病に関する疫学研究に携わった経験を下に、疾病発生の要因を探り、その予防法を教授する。							

科目名	多職種連携論		単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	森川千江美・中野麻美 堂園浩一朗・早坂滋樹 児島邦幸・徳永弘樹 中森美恵子・金谷親好
到達目標								
1. リハビリテーションチームを構成する職務内容について理解する。 2. リハビリテーションチームを構成する職種と理学療法士との連携について理解する。								
授業計画								
授業回数	主題		担当	授業内容				
第 1 回	医療を構成する職種とその役割 医師からみた多職種連携の実例		堂園	医療にかかわる職種にはどのようなものがあり、多職種が具体的にどのようなに関わるかについて学ぶ				
第 2 回	BLS（一次救命処置）と大規模災害時における リハビリテーション支援		堂園	医療者としての一時救命処置の考え方や具体的な処置と大規模災害時におけるリハビリテーションチームの支援をJRATの活動を通して知る				
第 3 回	医療現場での多職種連携の意義		森川	医療福祉現場でのチーム医療と多職種連携の必要性				
第 4 回	多職種連携の実例と実例		森川	事例を通して多職種連携の実例を知る				
第 5 回	歯科衛生士とは		中野	歯科衛生士の仕事を通して予防の重要性と予防方法について学ぶ				
第 6 回	口腔（歯）の役割		中野	噛みあわせとスポーツの関係、健康への影響について学ぶ				
第 7 回	作業療法士とは		児島	作業療法士の役割、仕事の領域				
第 8 回	作業療法士と理学療法士の連携		児島	生活活動の視点から理学療法士との連携を考える				
第 9 回	言語聴覚士とは		徳永	言語聴覚士の役割、仕事の領域				
第10回	言語聴覚士と理学療法士の連携		徳永	摂食嚥下障害者に対する連携、理学療法				
第11回	介護福祉士の役割と専門性		中森	介護福祉士の役割と専門性及び理学療法士との関りについて学ぶ				
第12回	生活支援領域における多職種連携		中森	多職種連携のためのチーム作りに必要な視点と実践的思考について学ぶ				
第13回	在宅要介護高齢者とリハビリテーションの実例		早坂	事例をもとに、介護保険制度におけるリハビリテーションの実例、ICFに基づく考え方を講義する。				
第14回	チームアプローチによるリハビリテーション		早坂	ひとりの利用者の問題や課題に対し、異なる専門性をもつ多職種がひとつのチームでリハビリテーションする、その在り方と意義を考える。				
第15回	多職種連携における理学療法士の役割		金谷	リハビリテーションチームを構成する職種と理学療法士との連携について理解する。				
第16回	まとめ		各担当	第1回～15回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法								
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。								
講義方法								
参考書や事例を用いての講義 オンラインによる講義の可能性がります。								
教科書								
「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」：医学書院								
実務経験								
堂園浩一朗：大学卒業後リハビリテーション医学教室に入局。現在、市内の総合病院で急性期から維持期までのリハビリテーション医療全般に携わる。日本リハビリテーション医学会専門医ならびに指導医である。 森川千江美：地域連携室退院支援専従看護師として退院支援業務の経験の下に、多職種連携について教授する。 中野麻美：歯科医院で歯科衛生士として携わった経験を下に、歯科衛生の重要性について教授する。 児島邦幸：病院での臨床に携わった経験を下に、作業療法士と理学療法士の連携について教授する。 徳永弘樹：病院で多職種と協働してきた経験を下に、言語聴覚士と理学療法士の連携について教授する。 中森美恵子：介護福祉士として障害者支援施設での実務経験がある。生活支援領域における連携について教授する。 早坂滋樹：地域包括、居宅などの実践現場での経験と大学の現職非常勤講師としてケアマネジメントの理論と実際、在宅でのリハビリテーションの実例と今後の課題など、より新しく身近に感じる講義を心がけたい。 金谷親好：病院（回復期病棟、訪問など）や地域活動（地域ケア会議・介護予防事業）に携わった経験を下に、多職種連携における理学療法士の役割について学生に教授する。								

科目名	リハビリテーション医学	単位	2単位（30時間）	時期	1年次後期	講師名	堂園浩一郎
到達目標							
リハビリテーション医療における診断・評価・治療の基礎を理解し、疾患を通してリハビリテーション医療の役割について学習する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第1回	総論	リハビリテーションの定義・歴史、疾病と障がいの関係、障がいの考え方					
第2回	診察・診断	リハビリテーション医療に必要な症状の見方					
第3回	評価	リハビリテーション医療における評価					
第4回	治療（理学療法：運動療法・物理療法）	運動療法・物理療法の基本的な考え方					
第5回	治療（作業療法・言語療法）	作業療法・言語療法の基本的な考え方					
第6回	義肢・装具	義手・義足、上肢・下肢・体幹装具の構造や適応					
第7回	歩行補助具、看護等	杖・歩行器・車いすの構造や適応、リハビリテーション看護, 等					
第8回	脳卒中（脳血管疾患）	脳血管疾患の病態・障がい・リハビリテーション医療					
第9回	脊髄損傷（対麻痺）	脊髄損傷の障がい・リハビリテーション医療					
第10回	リウマチ・骨関節疾患	リウマチなどの骨関節疾患の病態・障がい・リハビリテーション医療					
第11回	小児疾患	脳性麻痺や筋ジストロフィーの病態・障がい・リハビリテーション医療					
第12回	神経変性疾患	パーキンソン病など神経筋疾患の病態・障がい・リハビリテーション医療					
第13回	切断	切断後のリハビリテーション医療（義肢など）					
第14回	内部疾患・その他	内部疾患の病態とそれに対するリハビリテーション医療（肺理学療法など）					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書：「リハビリテーション医学テキスト 第5版補訂」：南江堂							
実務経験							
大学卒業後リハビリテーション医学教室に入局。現在、市内の総合病院で急性期から維持期までのリハビリテーション医療全般に携わる。日本リハビリテーション医学会専門医ならびに指導医である。							

科目名	リハビリテーション理念・自立支援・就労支援論	単位	2単位（30時間）	時期	1年次前期	講師名	津村裕光
到達目標							
1. リハビリテーションの理念・定義や障害の階層構造と障害者心理を理解する。 2. ADLの自立と支援のあり方と、QOL向上への理学療法士の関わりについて理解する。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第1回	リハビリテーションの概念・理念		リハビリテーションの定義・概念・理念				
第2回	リハビリテーションのに影響を与えた思想・運動		ノーマライゼーション、IL運動				
第3回	リハビリテーションの領域と役割その1		医学的リハビリテーションに携わる専門職				
第4回	リハビリテーションの領域と役割その2		チームアプローチ，理学療法評価				
第5回	障害の分類その1		国際障害分類（ICIDH）				
第6回	障害の分類その2		国際生活機能分類（ICF）①ICFの概要				
第7回	障害の分類その3		国際生活機能分類（ICF）②ICFの評価点，その他				
第8回	廃用症候群		廃用症候群と誤用症候群，過用				
第9回	障害の受容		障害の受容と患者・障害者への共感的対応				
第10回	ADL その1		ADLの概要，種々のADL評価法				
第11回	ADL その2		Barthel Index，FIM				
第12回	QOL		QOLのとらえ方と評価法				
第13回	ユニバーサルデザイン		ユニバーサル・デザインの概要				
第14回	地域包括ケアシステム		地域包括ケアシステムの概要，地域包括支援センターの事業				
第15回	まとめ		第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
プリント・板書を用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
なし							
実務経験							
総合病院の回復期リハビリテーションに携わった経験を下に、リハビリテーションの理念と支援のあり方について教授する。							

專 門 分 野

科目名	理学療法概論	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	津村裕光 野方敏行
到達目標							
1. リハビリテーションの定義、役割、種類や障害について理解できる。 2. 理学療法を取り巻く保健・医療・福祉そして行政などの環境の変化を理解できる。 3. 理学療法士としての資質を養い、将来の医療・福祉の専門職としての自覚を養成することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	理学療法の概念と歴史 ①	津村	リハビリテーションの概念、 リハビリテーションに影響を与えた思想				
第 2 回	理学療法の概念と歴史 ②	津村	理学療法の概念、理学療法の歴史				
第 3 回	理学療法士の法律 ①	津村	理学療法士の法的位置づけ				
第 4 回	理学療法士の法律 ②	津村	理学療法士及び作業療法士法				
第 5 回	リハビリテーションと理学療法	野方	医学的リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する				
第 6 回	理学療法の目的	野方	医療保険、介護保険制度における理学療法士の役割を理解する				
第 7 回	理学療法における対象者の評価	野方	能力障害から機能障害を推測する				
第 8 回	理学療法における問題点の解決方法	野方	機能障害や能力障害に対する解決方法を理解する				
第 9 回	代表的な運動療法の種類	野方	代表的な運動療法（ROM-ex、筋力増強運動等）を体験する				
第10回	代表的な物理療法の種類	野方	代表的な物理療法（低周波、ホットパック等）を体験する				
第11回	症例に対する理学療法の流れ	野方	評価から理学療法プログラムの立案までを学ぶ				
第12回	理学療法の対象となる代表的な疾患	野方	脳血管障害や骨折など代表的な疾患の概要を学ぶ				
第13回	理学療法士の業務	野方	評価、治療、診療録、カンファレンスなどの業務を理解する				
第14回	研究の意義	野方	研究の必要性を理解する				
第15回	まとめ	津村・ 野方	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書							
「ビジュアルレクチャー 基礎理学療法学」：医歯薬出版株式会社							
実務経験							
津村裕光：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる理論を講義する。 野方敏行：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる理論を講義する。							

科目名	動作分析学	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	寺師順一
到達目標							
1. 正常な姿勢と運動について理解する。 2. 正常歩行と異常歩行の種類と歩容について理解する。							
授業計画							
授業回数	主題			授業内容			
第 1 回	動作観察とは			動作分析の基本的概念を理解する。			
第 2 回	姿勢について			ヒトの姿勢について理解を深める。			
第 3 回	正常動作の観察と分析（序論）			ヒトの基本動作について理解を深める。			
第 4 回	正常動作の観察と分析 ①			椅子からの立ち上がり動作について理解を深める。			
第 5 回	正常動作の観察と分析 ②			起き上がり動作について理解を深める。			
第 6 回	正常動作の観察と分析 ③			寝返り動作について理解を深める。			
第 7 回	正常動作の観察と分析 ④			バランス反応について理解を深める。			
第 8 回	代表的疾患の日常基本動作の動作分析 ①			脳血管障害の動作について理解を深める。			
第 9 回	代表的疾患の日常基本動作の動作分析 ②			パーキンソン病、失調症の動作について理解を深める。			
第10回	代表的疾患の日常基本動作の動作分析 ③			整形疾患の動作について理解を深める。			
第11回	歩行 ①			正常歩行について理解を深める。			
第12回	歩行 ②			脳血管障害の異常歩行について理解を深める。			
第13回	歩行 ③			パーキンソン病、失調症の異常歩行について理解を深める。			
第14回	歩行 ④			整形疾患の異常歩行について理解を深める。			
第15回	まとめ			既習の内容に関連した終講試験（筆記）			
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義							
教科書・参考書							
「基礎運動学 第 6 版 補訂」：医歯薬出版 「理学療法評価学 改訂 第 6 版」：金原出版							
実務経験							
病院で各種疾患を有する対象者の理学療法業務に携わった経験を下に、基本動作、代表的な疾患の動作について講義する。							

科目名	理学療法研究特論	単位	2 単位（30時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	吉田 治正
到達目標							
1. EBMを実践し、興味深い研究テーマをあげることができる。 2. 研究デザインの特徴を理解することができる。 3. 統計手法の特徴を理解することができる。 4. 事前に先行研究を読み、研究テーマとその検証についての方法を研究計画書として作成できる。 5. 基本的な論文の構成と書き方に沿った研究論文を作成することができる。 6. 研究課題の要約、および解決のための思考に基づいた論文を指導教員のもとで作成できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第1回	理学療法研究の概説，研究デザイン	①理学療法研究の目的，②理学療法とEBM、③研究デザイン、④リサーチ・クエスチョンとは何か？⑤研究計画書					
第2回	研究課題の立案と文献レビューの方法	①研究テーマの決定、②研究計画の立案、③データ収集の方法、④テーマ分析の方法，⑤ワーク：役割分担・課題の共有					
第3回	研究方法	研究方法の実際					
第4回	研究における統計的検定方法①	統計手法の基礎					
第5回	研究における統計的検定方法②	統計手法の実際					
第6回	研究における倫理的配慮	プレゼンテーション資料の作成					
第7回	中間試験	既習の内容の学習					
第8回	中間発表会	研究内容の発表とディスカッション					
第9回	プレ実験①	プレ実験					
第10回	プレ実験②	プレ実験，計画修正					
第11回	データ収集①	データの収集、整理					
第12回	データ収集②	データの収集、整理					
第13回	データ解析，まとめ①	データの整理、統計処理、論文・スライド作成					
第14回	データ解析，まとめ②	データの整理、統計処理、論文・スライド作成					
第15回	卒業研究発表会	卒業研究発表会					
評価方法							
中間試験（30％），研究計画書（30％）、研究論文（40％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 研究計画書は第8回の講義前までに提出を課し、提出された計画書をルーブリック評価で評価する。 研究論文は第15回の講義前までに提出を課し、提出された研究論文をルーブリック評価で評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義、グループワーク オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書							
「標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法」：医学書院							
実務経験							
病院や教育現場で行ってきた研究経験を下に、研究の醍醐味を学生に教授する。							

科目名	理学療法基礎特論	単位	1 単位（15時間）	時期	1 年次 後期	講師名	理学療法学科教員
到達目標							
理学療法専門基礎分野について理解する							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	解剖学（1）	中枢神経（脳・脊髄），脳神経，脳血管					
第 2 回	解剖学（2）	循環器系，呼吸器系，消化器系，泌尿器系					
第 3 回	解剖学（3）	骨・関節，神経筋支配					
第 4 回	解剖学（4）	筋・靱帯，発生と組織					
第 5 回	生理学（1）	代謝，血液，免疫，循環，呼吸，消化と吸収					
第 6 回	生理学（2）	排泄，内分泌，女性の生理・妊娠・出産					
第 7 回	生理学（3）	筋，神経系，感覚と受容器					
第 8 回	まとめ	第1回～7回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義およびグループ学習 学習内容ごとに確認テストを実施する。							
教科書・参考書							
「PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎医学 基礎医学」：医歯薬出版							
実務経験							
理学療法教育に携わった経験を下に、専門基礎分野について教授する。							

科目名	理学療法臨床特論	単位	1 単位（15時間）	時期	2 年次 後期	講師名	理学療法学科教員
到達目標							
臨床医学分野の内容に関する理解を深め、必要最低限の知識を修得する。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	骨関節障害及び末梢神経・筋障害	・オリエンテーション ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 2 回	中枢神経障害	・第 1 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 3 回	内部障害①	・第 2 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 4 回	内部障害②	・第 3 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 5 回	臨床心理学	・第 4 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 6 回	精神障害と臨床医学	・第 5 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 7 回	老年期・小児の障害 リハビリテーション医学・概論	・第 6 回の確認試験 ・学習ポイントの解説、グループワーク					
第 8 回	まとめ	第1回～7回の内容に関連した終講試験					
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
①講義では理学療法士国家試験の過去問題と教科書、参考書を主に使用し、そのポイントについて教授する。 ②その次のコマで前回の内容の確認試験を行い、学習内容を積み上げていく。							
教科書							
「PT・OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学」：医歯薬出版							
実務経験							
理学療法教育に携わった経験を下に、臨床医学分野について教授する。							

科目名	理学療法管理学	単位	2単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	津村裕光 田中 潤
到達目標							
1. 病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 2. 医療及び理学療法に関する規範・原則を理解し、倫理問題を認識できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	管理・マネジメントの概観	津村	理学療法管理学とは何か？理学療法士の職業倫理				
第 2 回	リスク管理	津村	リスク管理、標準予防策				
第 3 回	理学療法士の職場管理	津村	職場管理の概要、個人情報保護法、 インフォームドコンセント、クリニカル・パス				
第 4 回	医療・福祉を取り巻く諸制度	津村	介護保険制度				
第 5 回	疾患別リスクマネジメントその 1	津村	脳血管障害のリスク管理 （意識障害の評価、脳血管障害のリハ中止基準）				
第 6 回	疾患別リスクマネジメントその 2	津村	虚血性心疾患のリスク管理				
第 7 回	疾患別リスクマネジメントその 3	津村	糖尿病のリスク管理、慢性閉塞性肺疾患のリスク管理				
第 8 回	倫理学総論	田中	理学療法士における職場管理とは？職場・医療倫理とは				
第 9 回	各論①	田中	理学療法士の組織と活動				
第10回	各論②	田中	理学療法士の教育理念と目的				
第11回	各論③	田中	医療事故とリスクマネジメント				
第12回	各論④	田中	個人情報の管理と対象者の権利				
第13回	各論⑤	田中	臨床教育の実践				
第14回	各論⑥	田中	理学療法士と研究				
第15回	まとめ	田中・ 津村	第1回～14回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性もあります。							
教科書							
「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学」：中山書店							
実務経験							
津村裕光：病院現場と教育現場で長年携わった経験を下に、管理学について教授する。 田中 潤：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる倫理学の理論と実践を講義する。							

科目名	基礎理学療法評価学Ⅰ	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 前期	講師名	坂元美幸
到達目標							
1. 評価の意義・目的が理解できる。 2. 形態測定の意義を理解し、実際に測定できる。 3. 関節可動域測定の意義を理解し、実際に測定できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	評価学総論	評価の位置づけ、評価の進め方					
第 2 回	形態測定 ①	四肢長を測る意義、四肢長の実際の測定方法					
第 3 回	形態測定 ②	四肢長の実際の測定方法					
第 4 回	形態測定 ③	四肢周径を測る意義、四肢周径の実際の測定方法					
第 5 回	形態測定 ④	切断患者の測定方法や国試問題の演習					
第 6 回	関節可動域測定 ①	関節可動域測定の意義と目的。肩甲帯の可動域測定					
第 7 回	関節可動域測定 ②	肩甲帯の可動域測定の続き、肩関節の可動域測定					
第 8 回	関節可動域測定 ③	肩関節の可動域測定の続き。手関節、手指の可動域測定					
第 9 回	関節可動域測定 ④	股関節の可動域測定、膝関節の可動域測定					
第10回	関節可動域測定 ⑤	足関節の可動域測定、頸部の可動域測定					
第11回	関節可動域測定 ⑥	体幹の可動域測定					
第12回	関節可動域測定 ⑦	エンドフィールとは？関節可動域の国試問題					
第13回	エンドフィール、国試問題	形態測定、可動域測定の総復習					
第14回	まとめ（1）	形態測定、可動域測定の実技試験					
第15回	まとめ（2）	第1回～14回の内容に関連した終講試験					
評価方法							
小テスト（10%），筆記試験（40%），実技試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、パワーポイント、骨標本を用いた講義							
教科書・参考書							
「理学療法評価学 第6版補訂版」：金原出版							
実務経験							
病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる理学療法評価学に関する理論と実技を講義する。							

科目名	基礎理学療法評価学Ⅱ	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	田中 潤
到達目標							
1. 徒手による筋力検査（MMT）の定義や原理、目的と分類、実技も含めて筋力検査法を理解できる。 2. 評価実習、総合実に向けての知識と技術を理解し習得できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	総論・筋力とは何か？	筋力検査の目的と分類 筋力検査の実際 器具による筋力検査					
第 2 回	上肢帯の筋力測定 ①	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上					
第 3 回	上肢帯の筋力測定 ②	肩甲骨内転、肩甲骨下制、肩甲骨下制と内転					
第 4 回	上肢帯の筋力測定 ③	肩甲骨内転と下方回旋、肩関節屈曲					
第 5 回	上肢の筋力測定 ①	肩関節伸展、肩甲骨面挙上					
第 6 回	上肢の筋力測定 ②	肩関節外転、肩関節水平外転					
第 7 回	上肢の筋力測定 ③	肩関節水平内転、肩甲骨外旋					
第 8 回	上肢の筋力測定 ④	肩関節内旋、肘関節屈曲					
第 9 回	復習（実技と筋の触察）	実技復習及び筋肉の触察復習					
第10回	前腕の筋力測定 ①	肘関節伸展、前腕回外					
第11回	前腕の筋力測定 ②	前腕回内、手関節屈曲					
第12回	手・手指の筋力測定 ①	手関節屈曲伸展、指のMP関節屈曲					
第13回	手・手指の筋力測定 ②	指のPIP・DIP関節屈曲、指のMP関節伸展、指外転、指内転					
第14回	手・手指の筋力測定 ③	母指MP・IP関節屈曲、母指MP・IP関節伸展、母指外転、母指内転、対立運動					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した実技試験、終講試験					
評価方法							
実技試験（50%），終講試験（筆記）（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義・演習							
教科書・参考書							
「新・徒手筋力検査法 第10版」：協同医書							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる筋力測定の理論と実技を講義する。							

科目名	基礎理学療法評価学Ⅲ	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	田中 潤
到達目標							
1. 徒手による筋力検査（MMT）の定義や原理、目的と分類、実技も含めて筋力検査法を理解できる。 2. 評価実習、総合実習に向けての知識と技術を理解し習得できる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	筋力とは何か？		筋力検査の目的と分類 1年次の復習				
第 2 回	股関節の筋力測定 ①		股関節の屈曲、股関節の外転および外旋を伴う屈曲				
第 3 回	股関節の筋力測定 ②		股関節伸展、股関節屈曲位からの外転				
第 4 回	股関節の筋力測定 ③		股関節外転、股関節内転				
第 5 回	股関節の筋力測定 ④		股関節の内旋、股関節の外旋				
第 6 回	膝関節の筋力測定		膝の屈曲、膝の伸展				
第 7 回	足関節の筋力測定 ①		足関節の背屈を伴う内返し、足関節の底屈を伴う外返し				
第 8 回	足関節の筋力測定 ②		足関節底屈、足関節内返し				
第 9 回	足指の筋力測定		母趾屈曲、母趾伸展、足趾屈曲、足趾伸展				
第10回	頭頸部の筋力測定 ①		頭・頸部の伸展				
第11回	頭頸部の筋力測定 ②		頭・頸部の屈曲				
第12回	体幹部の筋力測定 ①		体幹の屈曲、体幹の伸展				
第13回	体幹部の筋力測定 ②		体幹の回旋、骨盤挙上				
第14回	外眼筋・顔面筋・咀嚼筋の筋力測定		眼球運動・眼瞼・顔面運動・咀嚼				
第15回	まとめ		既習の内容の終講試験と実技試験				
評価方法							
実技試験（50％），終講試験（筆記）（50％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義・演習							
教科書・参考書							
「新・徒手筋力検査法 第10版」：協同医書							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる筋力測定の理論と実技を講義する。							

科目名	臨床理学療法評価学Ⅰ	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次後期	講師名	吉田治正 用皆正文 寺師順一
到達目標							
1. 各領域における理学療法評価を行うことができる。 2. 各領域における理学療法評価の結果を分析・解釈することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	意識レベルの評価	用皆	JCS, GCS				
第2回	バイタルの評価	用皆	脈拍, 血圧測定				
第3回	疼痛検査①	用皆	概要				
第4回	疼痛検査②	用皆	実技				
第5回	バランス検査①	用皆	ロンベルグ試験, マン試験, 片足立ち試験				
第6回	バランス検査②	用皆	Functional balance scale, Timed up and go test, Functional reach test				
第7回	整形外科的テスト①	寺師	頸部疾患検査, 胸椎疾患検査, 仙腸関節疾患検査				
第8回	整形外科的テスト②	寺師	肩関節疾患検査, 肘関節疾患検査, 手関節疾患検査				
第9回	整形外科的テスト③	寺師	股関節疾患検査, 膝関節疾患検査, 足関節疾患検査				
第10回	フィジカル・アセスメント① 問診	吉田	問診、主訴、要望、ニーズ、共感的態度、傾聴、質問法、聴取ポイント				
第11回	フィジカル・アセスメント② 視診	吉田	顔面の視診、四肢体幹の視診、腹部の視診				
第12回	フィジカル・アセスメント① 触診	吉田	脈拍、肋骨、胸郭の可動性、音声振盪、筋硬結、浮腫、終末感、炎症				
第13回	フィジカル・アセスメント① 打診	吉田	胸部打診、腹部打診				
第14回	フィジカル・アセスメント① 聴診	吉田	聴診器、正常呼吸音、副雑音、腸蠕動運動、嚥下音の聴診				
第15回	まとめ	寺師・用皆・吉田	第1回～14回の内容に関連した筆記試験				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
教科書1（用皆・寺師）「理学療法評価学 第6版補訂版」：金原出版 教科書2（用皆）「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝」：中山書店 教科書3（吉田）「動画で分かる 呼吸リハビリテーション 第5版」：中山書店							
実務経験							
用皆正文：病院で脳血管や整形外科疾患を有する対象者の理学療法業務に携わった経験を下に、脳血管や整形外科疾患の理学療法評価について教授する。 寺師順一：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる運動理論と実技を講義する。 吉田治正：臨床において3学会合同呼吸療法認定士として内部障害の症例のリハビリテーションに携わった経験を下に、内部障害の理学療法について教授する。							

科目名	臨床理学療法評価学Ⅱ	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	津村裕光
到達目標							
1. 神経障害領域における理学療法評価を行うことができる。 2. 神経障害領域における理学療法評価の結果を分析・解釈することができる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 1		共同運動, 連合反応				
第 2 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 2		原始姿勢反射①：局在性姿勢反射・体節性姿勢反射				
第 3 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 3		原始姿勢反射②：汎在性姿勢反射				
第 4 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 4		筋緊張異常と筋トーヌス検査				
第 5 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 5		筋トーヌス検査(実技演習)				
第 6 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 6		病的反射				
第 7 回	脳卒中片麻痺の陽性徴候 その 7		深部反射・表在反射				
第 8 回	脳卒中片麻痺の陰性徴候 その 1		立ち直り反応				
第 9 回	脳卒中片麻痺の陰性徴候 その 2		平衡反応① ：固有受容器刺激で起こる反射、保護伸展反応				
第10回	脳卒中片麻痺の陰性徴候 その 3		平衡反応② ：回転加速度に対する反応=傾斜反応)				
第11回	片麻痺機能検査 その 1		Brunnstrom stage test① ：回復段階と上肢テスト、手指テスト				
第12回	片麻痺機能検査 その 2		Brunnstrom stage test ② ：下肢テスト				
第13回	片麻痺機能検査 その 3		12段階片麻痺機能検査、SIAS				
第14回	感覚検査		表在感覚、深部感覚、複合感覚				
第15回	まとめ		第1回～14回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、プリントを用いた講義および実技オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
「理学療法評価学 第6版補訂版」：金原出版「ベッドサイドの神経の診かた」：南山堂							
実務経験							
脳血管障害の回復期理学療法に携わった経験を下に、片麻痺の機能障害と検査について教授する。							

科目名	臨床理学療法評価学Ⅲ	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	大重勝裕
到達目標							
1. 各部位について画像評価に用いる画像解剖を説明できる 2. 国家試験・臨床で出会う疾患について画像から得られる特徴的な所見を説明できる。 3. 各モダリティ（X線・CT・MR・US等）について画像形成の概要を説明ができる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	第1部 画像検査法 ①	各モダリティによる画像形成の過程、画像の特徴を解説する。 放射線被ばくに関する知識を解説する。					
第 2 回	第1部 画像検査法 ②						
第 3 回	第2部 頭部 ①	頭部（生理・病理を含む）の画像解剖と実際の画像の対比を学び、国家試験・臨床で出会う疾患について読影ポイント解説する。					
第 4 回	第2部 頭部 ②						
第 5 回	第2部 頭部 ③						
第 6 回	第2部 頭部 ④						
第 7 回	第3部 脊椎・脊髄 ①	脊椎・脊髄（生理・病理を含む）の画像解剖と実際の画像の対比を学び、国家試験・臨床で出会う疾患について読影ポイント解説する。					
第 8 回	第3部 脊椎・脊髄 ②						
第 9 回	第3部 脊椎・脊髄 ③						
第10回	第4部 四肢 ①	四肢（生理・病理を含む）の画像解剖と実際の画像の対比を学び、国家試験・臨床で出会う疾患について読影ポイント解説する。					
第11回	第4部 四肢 ②						
第12回	第4部 四肢 ③						
第13回	第5部 胸腹部・その他 ①	胸部・腹部・骨盤（生理・病理を含む）の画像解剖と実際の画像の対比を学び、典型的な疾患について読影ポイント解説する。					
第14回	第5部 胸腹部・その他 ②						
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
終講試験（90％）、授業態度（10％）の配点で合計100点満点として評価する。							
講義方法							
配布資料を主に使用し「PT・OTのための画像診断マニュアル」を副教材として行う							
教科書・参考書							
教科書：「PT・OTのための画像診断マニュアル」：医学教育出版社 参考書：「PT・OTビジュアルテキスト解剖学」：羊土社							
実務経験							
診療放射線技師として教育・業務に携わった経験を下に、画像解剖、読影ポイントについて教授する。							

科目名	総合理学療法評価学	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 後期	講師名	角 幸治・ 寺師順一・ 野方敏行
到達目標							
1. 理学療法評価を行うことができる。 2. 理学療法評価の結果を分析・解釈することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	思考過程 ①	野方	視聴教材から各基本動作の自立度と問題点を列挙する				
第 2 回	思考過程 ②	野方	視聴教材から各基本動作の特徴とその原因を推察する				
第 3 回	思考過程 ③	野方	機能障害・基本動作の最終的な到達度を推察する				
第 4 回	A D L 評価	角	F I M、B I を使用し判定する。				
第 5 回	脳神経検査 ①	寺師	嗅神経、視神経、動眼、滑車、外転神経、三叉神経				
第 6 回	脳神経検査 ②	寺師	顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経				
第 7 回	脳神経検査 ③	寺師	脳神経検査まとめ				
第 8 回	協調性検査 ①	寺師	指指試験、指鼻試験、鼻指鼻試験、膝打ち試験、足指手指試験				
第 9 回	協調性検査 ②	寺師	踵膝試験、測定障害の試験、その他、協調性検査まとめ				
第10回	疾患別総合評価 ①	寺師	脳血管障害評価①				
第11回	疾患別総合評価 ②	寺師	脳血管障害評価②				
第12回	疾患別総合評価 ③	寺師	神経筋疾患評価				
第13回	疾患別総合評価 ④	寺師	整形外科疾患評価①				
第14回	疾患別総合評価 ⑤	寺師	整形外科疾患評価②				
第15回	まとめ	野方 角 寺師	第1回～14回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、プリントを用いた講義および実技 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
「理学療法評価学 第6版補訂版」：金原出版 「ベッドサイドの神経の診かた」：南山堂							
実務経験							
野方敏行：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる理論を講義する。 寺師順一：急性期総合病院の理学療法に携わった経験を下に、主に神経疾患の評価について教授する。							

科目名	運動療法学総論	単位	1 単位（30時間）	時期	1 年次 後期	講師名	野方敏行
到達目標							
1. 理学療法における運動療法の概念や位置付けを理解できる。 2. 運動療法にかかわる基礎知識やリスクを理解できる。 3. 基本的な運動療法の方法を理解し、実施できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	運動療法の歴史・概念(定義)・位置付け	歴史, 概念(定義), 位置付けを理解する					
第 2 回	関節可動域運動の基礎	拘縮のメカニズムを理解する。ストレッチングの方法を理解する					
第 3 回	他動的関節運動の実際	四肢の他動的関節運動を実施する					
第 4 回	伸張運動の実際	筋の伸張運動を実施する					
第 5 回	筋力増強運動の基礎	筋力増加のメカニズムとトレーニングの設定を理解する					
第 6 回	器具を利用した筋力増強運動の実際	器具を利用した筋力増強運動を実施する					
第 7 回	徒手抵抗による筋力増強運動の実際	徒手抵抗による筋力増強運動を実施する					
第 8 回	全身持久力運動の基礎	有酸素運動の生理学的効果を理解する					
第 9 回	全身持久力の評価	全身持久力の評価を理解する					
第10回	全身持久力運動の処方	全身持久力運動のプログラムの決定の仕方を理解する					
第11回	全身持久力運動の実際	全身持久力運動のプログラムを実施する					
第12回	運動強度の表し方	代謝当量を理解する					
第13回	実技確認	筋力増強運動, 関節可動域運動					
第14回	運動療法のリスク管理	運動療法を実施するにあたってのリスク管理を理解する					
第15回	まとめ	第1回～14回の内容に関連した終講試験					
評価方法							
終講試験（80%）、実技確認（20%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、プリントを用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
「運動療法学 第2版」：文光堂							
実務経験							
野方敏行：病院での勤務経験に基づき、基本的運動療法の理論と実技を指導する。							

科目名	理学療法治療学Ⅰ	単位	2 単位（60時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	石堂晃洋 用皆正文 白尾麻美
到達目標							
1. 整形外科疾患の評価法を理解することができる。 2. 整形外科疾患の理学療法を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	整形外科理学療法の基礎 ①	用皆	骨・関節の仕組みと役割				
第 2 回	整形外科理学療法の基礎 ②	用皆	筋の仕組みと役割				
第 3 回	整形外科理学療法の基礎 ③	用皆	神経の仕組みと役割				
第 4 回	股関節疾患の理学療法 ①	石堂	股関節疾患の治療手技 ①				
第 5 回	股関節疾患の理学療法 ②	石堂	股関節疾患の治療手技 ②				
第 6 回	膝関節疾患の理学療法 ①	石堂	膝関節疾患の治療手技 ①				
第 7 回	膝関節疾患の理学療法 ②	石堂	膝関節疾患の治療手技 ②				
第 8 回	末梢循環障害の理学療法 ①	石堂	末梢循環障害の治療手技 ①				
第 9 回	末梢循環障害の理学療法 ②	石堂	末梢循環障害の治療手技 ②				
第10回	頸椎疾患の理学療法	石堂	頸椎疾患の治療手技				
第11回	腰椎疾患の理学療法	石堂	腰椎疾患の治療手技				
第12回	腰痛症の理学療法	石堂	腰痛症の治療手技				
第13回	脱臼の理学療法	用皆	主要な脱臼（肩関節脱臼）の評価・治療				
第14回	前半のまとめ（1）	石堂・用皆	第1回～13回に教授した内容の復習				
第15回	前半のまとめ（2）	石堂・用皆	第1回～13回の内容に関連した中間試験				
第16回	上肢骨折	白尾	評価・治療プログラム				
第17回	上肢のリハビリテーション	白尾	肩関節周囲炎，橈骨遠位端骨折				
第18回	大腿骨骨折	白尾	評価・治療プログラム				
第19回	下肢のリハビリテーション	白尾	大腿骨近位部骨折，変形性膝関節症				
第20回	膝・下腿骨骨折	白尾	評価・治療プログラム				
第21回	足関節疾患の理学療法	用皆	足関節靱帯損傷，アキレス腱断裂の評価・治療				
第22回	足趾疾患の理学療法	用皆	成人期扁平足，外反母趾の評価・治療				
第23回	整形外科的検査	白尾	上肢・下肢				
第24回	末梢神経疾患の理学療法 ①	用皆	腕神経叢損傷，橈骨神経麻痺の評価・治療				
第25回	末梢神経疾患の理学療法 ②	用皆	正中・尺骨神経麻痺，総腓骨神経麻痺の評価・治療				
第26回	関節リウマチの理学療法	用皆	関節リウマチの評価・治療				
第27回	変形性関節症の理学療法 ①	用皆	変形性股関節症の評価・治療				
第28回	変形性関節症の理学療法 ②	用皆	変形性膝関節症の評価・治療				
第29回	後半のまとめ（1）	用皆・白尾	第16回～28回に教授した内容の復習				
第30回	後半のまとめ（2）	用皆・白尾	第16回～28回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
中間試験（50％）、終講試験（50％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書							
「Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」：MEDICAL VIEW 「リハビリテーションのための整形外科の歩き方」：南江堂							
実務経験							
石堂晃洋：病院で整形外科疾患を有する対象者の理学療法業務に携わった経験を下に、整形外科疾患の評価、理学療法について教授する。 用皆正文：整形外科疾患を有する対象者の理学療法業務に携わった経験を下に、整形外科疾患の基礎・臨床理学療法について教授する。 白尾麻美：理学療法業務に携わった経験を活かし、臨床の観点から整形外科疾患の理学療法について教授する。							

科目名	理学療法治療学Ⅱ	単位	2単位（75時間）	時期	2年次前後期	講師名	坂元美幸・新保千尋 福田 晋・遠藤 翔
到達目標							
1. 中枢疾患についての基礎を学び、簡略な図を用いて説明することができる。 2. 中枢疾患の評価法について、教育者の監視下で実施することができる。 3. 中枢疾患の治療技術について理解し、実践することができる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	中枢神経の解剖生理	坂元	大脳・脳幹の解剖と機能、大脳皮質の機能局在				
第2回	中枢神経障害の症状	坂元	上位運動ニューロン障害、脳血管障害の分類と特徴				
第3回	脳血管障害の急性期治療	坂元	リスク管理(リハ開始基準と中止基準)、急性期の理学療法				
第4回	片麻痺の評価①	坂元	脳血管障害片麻痺の評価方法				
第5回	片麻痺の評価②	坂元	脳血管障害片麻痺の評価の実際				
第6回	重症片麻痺に対する回復期理学療法 ①	坂元	重症片麻痺とは？ 重症片麻痺の運動療法①(抗重力姿勢への変換)				
第7回	重症片麻痺に対する回復期理学療法 ②	坂元	重症片麻痺の運動療法②（基本動作練習）				
第8回	症例提示（評価項目、問題点抽出）	坂元	症例の全体像を掴みながら、評価項目、問題点の抽出を行う。				
第9回	症例提示（ゴール設定）	坂元	症例に妥当なゴール設定を実践する。				
第10回	症例提示（治療プログラム立案）	坂元	症例に適した治療計画をグループで討論する				
第11回	症例提示（治療プログラム立案）	坂元	症例に適した治療計画をグループで討論する				
第12回	脳血管障害の治療プログラム実践 ①	坂元	グループ発表 ①				
第13回	脳血管障害の治療プログラム実践 ②	坂元	グループ発表 ②				
第14回	片麻痺の合併症と対策	坂元	肩関節痛・肩手症候群、内反尖足・反張膝				
第15回	脊髄損傷 ①	遠藤	脊髄損傷の原因、分類				
第16回	脊髄損傷 ②	福田	不全損傷 ①				
第17回	脊髄損傷 ③	新保	不全損傷 ②				
第18回	脊髄損傷 ④	遠藤	脊髄損傷の症状 ①				
第19回	脊髄損傷 ⑤	福田	脊髄損傷の症状 ②				
第20回	脊髄損傷 ⑥	新保	脊髄損傷の症状 ③				
第21回	脊髄損傷 ⑦	遠藤	脊髄損傷の症状 ④				
第22回	脊髄損傷 ⑧	福田	脊髄損傷の症状 ⑤				
第23回	前半のまとめ	坂元・新保	第1回～22回の内容に関連する中間試験				
第24回	高次脳機能障害 ①	坂元	失認（症状と評価）失行（症状と評価）				
第25回	高次脳機能障害 ②	坂元	失語（症状と評価）				
第26回	摂食・嚥下障害	坂元	症状と評価、球麻痺、仮性球麻痺				
第27回	パーキンソン病 ①	坂元	症状と評価				
第28回	パーキンソン病 ②	坂元	病態、障害の理解				
第29回	パーキンソン病 ③	坂元	治療、国試問題				
第30回	運動失調症 ①	坂元	症状と評価				
第31回	運動失調症 ②	坂元	病態、障害の理解				
第32回	運動失調症 ③	坂元	治療、国試問題				
第33回	頭部外傷	坂元	訓練、治療				
第34回	運動神経疾患①（ALS、重症筋無力症）	坂元	病態、障害の理解				
第35回	運動神経疾患②（筋ジストロフィー）	坂元	疾患の理解				
第36回	多発性硬化症、ギラン・バレー症候群	坂元	病態、障害の理解				
第37回	総復習	坂元	総復習				
第38回	後半のまとめ	坂元	第24回～37回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義							
教科書							
「神経筋障害理学療法学テキスト」：南江堂							
実務経験							
坂元美幸：臨床で中枢疾患全般に携わった経験を下に、神経障害系理学療法について教授する。 新保千尋：病院で脊椎・脊髄疾患に携わった経験を下に、脊髄損傷について教授する。 福田 晋：病院で脊椎・脊髄疾患に携わった経験を下に、脊髄損傷について教授する。 遠藤 翔：病院で脊椎・脊髄疾患に携わった経験を下に、脊髄損傷について教授する。							

科目名	理学療法治療学Ⅲ	単位	2単位（60時間）	時期	2年次前後期	講師名	野方敏行 吉田治正
到達目標							
1. 内部障害疾患（呼吸・循環・糖尿病）の病態、症状、治療方法を説明できる。 2. 内部障害リハビリテーションに必要な理学療法手技を行うことができる。 3. 得られた理学療法評価の結果を解釈・分析し、理学療法プログラムも実施できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	循環器の解剖生理復習	野方	循環器の解剖生理				
第2回	心電図の基礎	野方	心電図モニターと波形から得られる基本情報、正常洞調律				
第3回	心電図の実際	野方	知っておくべき心電図波形とその意義				
第4回	代表的な心疾患	野方	心不全、虚血性心疾患、弁膜症、心音の聴診				
第5回	運動耐容能評価	野方	運動負荷試験の種類				
第6回	運動耐容能評価の実際	野方	自転車エルゴメーターによる運動負荷試験				
第7回	心臓リハビリテーション総論	野方	心臓リハビリテーションの定義と理学療法の位置づけ				
第8回	虚血性心疾患	野方	虚血性心疾患の病態・検査と治療				
第9回	慢性心不全	野方	慢性心不全の病態・検査と治療				
第10回	病期に応じた介入方法	野方	病期における理学療法				
第11回	心大血管疾患リハビリテーション①	野方	リハビリテーションプログラムの立案、実施				
第12回	心大血管疾患リハビリテーション②	野方	演習）リハビリテーションプログラムの立案、実施				
第13回	糖尿病	野方	疫学、病態、検査、治療				
第14回	糖尿病のリハビリテーション	野方	評価、理学療法プログラム				
第15回	前半のまとめ	野方	第1回～14回の内容に関連した中間試験				
第16回	呼吸リハビリテーション	吉田	呼吸リハの現状、目的、介入方法、				
第17回	呼吸器の解剖	吉田	肺、気管、気管支、気管粘膜、肺胞の構造と機能				
第18回	呼吸の運動学	吉田	換気、安静呼吸筋、努力吸気筋、努力呼気筋				
第19回	動脈血ガス検査①	吉田	動脈血酸素分圧、動脈血二酸化炭素分圧、呼吸不全				
第20回	動脈血ガス検査②	吉田	呼吸の神経調節、酸塩基平衡障害				
第21回	呼吸機能検査	吉田	閉塞性換気障害、拘束性換気障害				
第22回	呼吸器疾患の理学療法評価	吉田	呼吸困難感、呼吸筋力測定、ADL評価、QOL評価				
第23回	コンディショニング手技①	吉田	リラクゼーション（マッサージ、ストレッチ、PNF）				
第24回	コンディショニング手技②	吉田	呼吸練習、胸郭可動域練習、呼吸筋トレーニング				
第25回	コンディショニング手技③	吉田	体位排痰法、排痰手技				
第26回	運動療法、ADL練習	吉田	全身持久力トレーニング、筋力トレーニング、ADL練習				
第27回	慢性呼吸不全の呼吸理学療法	吉田	COPD・間質性肺炎の評価と解釈、理学療法プログラム				
第28回	急性呼吸不全の呼吸理学療法	吉田	術後症例の評価と解釈、理学療法プログラム				
第29回	人工呼吸器管理の理学療法	吉田	人工呼吸管理症例の評価と解釈、理学療法プログラム				
第30回	後半のまとめ	吉田	第16回～29回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性もあります。							
教科書・参考書							
教科書（野方）：「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法学 循環・代謝」：中山書店 教科書（吉田）：「動画で分かる呼吸リハビリテーション 第5版」：中山書店							
実務経験							
野方敏行：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる循環器に関する理論と実技を講義する。 吉田治正：臨床において3学会合同呼吸療法認定士として内部障害の症例のリハビリテーションに携わった経験を下に、内部障害の理学療法について教授する。							

科目名	理学療法治療学Ⅳ		単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	津村裕光 寺師順一 吉田治正
到達目標								
1. 正常発達の基礎知識を習得する。 2. 脳性麻痺の概論と乳児の発達障害、機能障害を呈する疾病の基礎知識を習得する。								
授業計画								
授業回数	主題		担当	授業内容				
第1回	正常姿勢反射と運動の発達		津村	中枢神経系の発達と原始反射の統合、誘発手技と反応を理解する。				
第2回	姿勢・運動の発達、 遠城寺式乳幼児分析的発達検査		津村	乳児期からの姿勢・運動の月齢に応じた発達を理解する。				
第3回	発達と月齢、発達順序、JDDST-R、PEDI		津村	粗大運動と微細運動の発達順序をJDDST-R等に基づき理解する。				
第4回	総論：脳性麻痺の病態とその特徴		吉田	脳性麻痺、脳性麻痺の分類、各痙直型の特徴、各アテトーゼ型の特徴				
第5回	痙直型両麻痺児の理学療法		吉田	その運動発達の特徴、理学療法評価、理学療法プログラム				
第6回	痙直型四肢麻痺/片麻痺児の理学療法		吉田	その運動発達の特徴、理学療法評価、理学療法プログラム				
第7回	アテトーゼ型脳性麻痺児の理学療法		吉田	特徴、特徴的な運動発達、異常姿勢の特徴、理学療法プログラム				
第8回	二分脊椎の理学療法		寺師	二分脊椎の病態・症状および評価について理解する。				
第9回	重症心身障害児の理学療法		寺師	重症心身障害児について、概念、臨床像および理学療法について理解する。				
第10回	進行性筋ジストロフィーの理学療法		寺師	筋ジストロフィーの概要および理学療法について理解する。				
第11回	ダウン症候群の理学療法		寺師	ダウン症候群の概要および理学療法について理解する。				
第12回	低出生体重児・ハイリスク児の理学療法		寺師	低出生体重児・ハイリスク児の概要および理学療法について理解する。				
第13回	精神発達遅滞児の理学療法		寺師	精神発達遅滞児の概要および理学療法について理解する。				
第14回	社会的療育		寺師	社会的療育の背景の概要について理解する。				
第15回	まとめ		津村・ 寺師・ 吉田	既習の内容に関連した終講試験				
評価方法								
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。								
講義方法								
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。								
教科書・参考書								
「こどもの理学療法 第2版」：神陵文庫								
実務経験								
津村裕光：総合病院で神経疾患、反射異常を呈する症例の治療に携わった経験に基づき教授する。 寺師順一：長年、急性期総合病院の理学療法に携わった経験を下に、主に小児疾患の理学療法について教授する。 吉田治正：臨床で脳性麻痺の理学療法に携わった経験を下に、主に脳性麻痺児の理学療法について教授する。								

科目名	理学療法治療学Ⅴ	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 前期	講師名	用皆正文・白尾麻美 富岡一俊・磯脇まゆみ
到達目標							
1. がん・腎不全・めまい・ウィメンズ・老年分野の病態を理解する。 2. がん・腎不全・めまい・ウィメンズ・老年分野の理学療法について理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	がん関連障害に関する概論	富岡	がんの基礎的知識、がんリハビリテーションの概要、がんの病態や治療戦略を考慮した評価等				
第 2 回	乳がんの基礎知識と 周術期リハビリテーション	富岡	乳がんの基礎知識、周術期リハビリテーションの評価と介入、リスク管理				
第 3 回	リンパ浮腫の基礎知識と リハビリテーションの実際	富岡	リンパ浮腫の基礎知識、リハビリテーションの評価と介入、リスク管理				
第 4 回	骨転移患者に対するリスク管理と リハビリテーションの実際	富岡	骨転移患者に関する基礎知識、リハビリテーションの評価と介入、リスク管理				
第 5 回	腎不全に関する概論	富岡	腎不全に関する疫学、予後、病因、症候				
第 6 回	腎不全に関するリハビリテーション医療	富岡	保存的慢性腎不全患者や透析患者に対するリハビリテーション医療の現状とレビュー				
第 7 回	慢性腎臓病に対する運動療法の実際	富岡	慢性腎臓病患者における身体機能との関連、運動療法の意義、エビデンス、運動処方、リスク管理				
第 8 回	女性のからだを知る	白尾	ライフステージ各期におけるからだの特徴				
第 9 回	ウィメンズヘルスケア ①	磯脇	尿失禁、骨盤底筋訓練、正しい姿勢、運動				
第 1 0 回	ウィメンズヘルスケア ②	磯脇	骨盤底筋訓練（演習）、骨盤のモビリゼーション				
第 1 1 回	ウィメンズヘルスケア ③	磯脇	骨盤底筋訓練（演習）、骨盤のモビリゼーション				
第 1 2 回	めまい	用皆	めまいの鑑別・代表的疾患・リスク管理				
第 1 3 回	高齢者の理解	用皆	加齢による変化(筋骨格系・神経系・内分泌系・精神機能)				
第 1 4 回	高齢者の評価	用皆	包括的高齢者評価 他				
第 1 5 回	老年症候群における理学療法	用皆	転倒予防やロコモティブシンドロームの理学療法 他				
第 1 6 回	まとめ	富岡 用皆 白尾	既習の内容に関連した終講試験				
評価方法							
終講試験（100%）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
プリントを用いた講義オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
参考書：「がんのリハビリテーションガイドライン2013」：日本リハビリテーション医学会 「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018」：日本腎臓学会							
実務経験							
用皆正文：病院で理学療法業務に携わった経験を下に、臨床に必要な理論や理学療法の具体例を教授する。 富岡一俊：病院で理学療法業務に携わった経験を下に、臨床に必要な理論や理学療法の具体例を教授する。 磯脇まゆみ：病院で理学療法業務に携わった経験を下に、ウィメンズヘルスについて教授する。 白尾麻美：病院で理学療法業務に携わった経験を下に、臨床に必要な理論や理学療法の具体例を教授する。							

科目名	スポーツリハビリテーション学	単位	1 単位（30時間）	時期	2 年次 後期	講師名	古田 仁
到達目標							
一般整形とスポーツ整形との相違点や、スポーツ疾患の理解とその評価方法、実技を取り入れた理学療法技術を理解することができる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	スポーツ現場の実際・概論		職場とスポーツとの関わり方、スポーツに関わる上で必要なものを知る				
第 2 回	スポーツ外傷と障害の違い		外傷と障害の違いから特徴と受傷機転を理解する				
第 3 回	アライメントについて		スタティックアライメント、ダイナミックアライメント理論・実技				
第 4 回	スポーツ外傷の診断と治療のポイント		メカニカルストレス、評価、診断へと結び付ける				
第 5 回	急性期外傷の評価・治療		急性期の特徴を知り、評価、治療、予防策を知る				
第 6 回	慢性障害の評価治療		慢性期の特徴を知り、評価、治療、予防策を知る				
第 7 回	ストレッチングについて		理論・実技				
第 8 回	正常な運動機構について		理論・実技				
第 9 回	専門的なスキルについて		スポーツ競技の特徴によるスキル獲得について				
第10回	運動療法（OKC・CKC）		理論、実技				
第11回	スポーツ疾患における運動療法実技		症例に応じた理論・評価・実技				
第12回	足底板について		理論・実技				
第13回	テーピング概論		理論・実技				
第14回	テーピング実技		実技				
第15回	まとめ		既習の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100%）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
講義（教科書・他プリント・スライド）							
参考書							
「運動器疾患とリハビリテーション」：医歯薬出版 「スポーツ理学療法学」：MEDICAL VIEW							
実務経験							
病院や施設での理学療法士の経験を活かし、高校でのトレーナー活動、大会サポートを行なっている。 スポーツ現場での急性期対応からスポーツ障害の対応などの経験を持ち、理論や実技を講義する。							

科目名	日常生活活動学	単位	2 単位（60時間）	時期	1 年次 前後期	講師名	角 幸治
到達目標							
1. ADL の概念、代表的なADL 評価法、ADL に関連する道具の使用法について理解できる。 2. 代表的な疾患や障害の特徴、疾患別及び障害別のADL 評価、ADL 指導方法について理解できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	ADL とは	リハビリテーションにおけるADL の位置づけ、ADL の概念・範囲					
第 2 回	QOL とは	生活の質（QOL）の概念、IL 運動の概念、一般的日常生活の現状					
第 3 回	ADL 指導	障害の概念、ADL 指導の基本、できるADL としているADL					
第 4 回	ADL の評価	ADL 評価の目的、時期、留意点					
第 5 回	代表的な評価法 ①	バーセルインデックスについて					
第 6 回	代表的な評価法 ②	FIM について①					
第 7 回	その他の評価法	FIM について②、様々なADL 評価法について					
第 8 回	ADL 評価の実際	ADL 評価の実際（片麻痺患者の身の回り動作を考える）					
第 9 回	基本動作 ①	動作の分類、臥位～座位					
第10回	基本動作 ②	四つ這い位～立位・歩行					
第11回	起居移動動作	杖歩行応用動作、車椅子移乗・移動動作					
第12回	身の回り動作	食事、排泄（トイレ）、入浴、整容、更衣					
第13回	リハ支援機器 ①	移動補助具、移乗関連機器					
第14回	リハ支援機器 ②	車イス、自助具、総復習および試験対策					
第15回	前半のまとめ	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）					
第16回	脳卒中片麻痺患者のADL ①	ADL 障害の原因について、ADL 指導上の留意事項について					
第17回	脳卒中片麻痺患者のADL ②	具体的なADL 指導方法について①（起居、移乗、移動）					
第18回	脳卒中片麻痺患者のADL ③	具体的なADL 指導方法について②（食事、更衣、整容）					
第19回	脳卒中片麻痺患者のADL ④	具体的なADL 指導方法について③（トイレ、入浴、IADL）					
第20回	パーキンソン病患者のADL ①	病態、重症度分類、治療について					
第21回	パーキンソン病患者のADL ②	ADL 評価について、基本動作の指導（起居・移動動作）					
第22回	パーキンソン病患者のADL ③	ADL 指導（食事、排泄、更衣、入浴、APDL・QOL 対策）					
第23回	関節リウマチ患者のADL ①	疾患の特徴とADL 障害の概要、ADL 能力の捉え方					
第24回	関節リウマチ患者のADL ②	ADL 指導の方法、指導の具体的内容（起居移動、セルフケア）					
第25回	関節リウマチ患者のADL ③	IADL とQOL、自助具と装具、生活指導					
第26回	脊髄損傷患者のADL ①	疾患の特性、障害の把握、合併症への対処法、残存機能とADL					
第27回	脊髄損傷患者のADL ②	起居・移動動作の実際（寝返り～移動）					
第28回	脊髄損傷患者のADL ③	身のまわり動作の実際、社会参加					
第29回	後半のまとめ（1）	第16回～29回の総復習および試験対策					
第30回	後半のまとめ（2）	第16回～29回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（50%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
「日常生活活動（ADL）第2版」：神陵文庫							
実務経験							
病院や老人保健施設等での理学療法士業務、また専門学校での理学療法士養成に20年以上携わった経験を活かしてリハビリテーションにおける日常生活活動の重要性を講義する。							

科目名	運動器障害系運動療法特論	単位	1 単位（30時間）	時期	3 年次 前期	講師名	用皆正文 白尾泰宏 牛ノ濱政喜
到達目標							
1. 整形外科疾患の運動療法について理解し、実践できる。 2. 基本的な徒手の理学療法について、解剖学・運動学の知識を応用させながら臨床に即した評価・治療について理解し、実施できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	骨折	用皆	上肢骨折，下肢骨折，脊椎圧迫骨折				
第2回	脊椎疾患	用皆	頸椎症性脊髄症，頸椎症性神経根症，腰痛症，脊柱側弯症				
第3回	関節リウマチ	用皆	関節リウマチ				
第4回	手関節疾患，手指疾患	用皆	手根管症候群				
第5回	肘関節疾患	牛ノ濱	肘関節疾患の基本的アプローチ法、症例紹介				
第6回	肩関節疾患	牛ノ濱	肩関節疾患の基本的アプローチ法、症例紹介				
第7回	股関節疾患	牛ノ濱	股関節疾患の基本的アプローチ法、症例紹介				
第8回	膝関節疾患	牛ノ濱	膝関節疾患の基本的アプローチ法、症例紹介				
第9回	足関節疾患	牛ノ濱	足関節疾患の基本的アプローチ法、症例紹介				
第10回	臨床推論	白尾	臨床推論実践に必要な基礎的知識				
第11回	運動機能障害症候群概論	白尾	運動機能障害の要因と症候群分類				
第12回	上肢の触診とモビライゼーション	白尾	上肢の触診と基本的モビライゼーション				
第13回	下肢の触診とモビライゼーション	白尾	下肢の触診と基本的モビライゼーション				
第14回	下肢の触診とモビライゼーション	白尾	下肢の触診と基本的モビライゼーション				
第15回	まとめ	用皆・白尾 牛ノ濱	既習の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義。 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書							
「Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」：MEDICAL VIEW							
参考書							
「系統別・治療手技の展開 改訂第3版」：協同医書 「系統別理学療法」：協同医書 「運動機能障害症候群のマネジメント」：医歯薬出版							
実務経験							
用皆正文：整形外科疾患の理学療法に携わった臨床経験を下に、整形外科疾患の運動療法について教授する。 白尾泰宏：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる徒手療法学理論と実技を講義する。 運動器専門理学療法士・日本筋骨格系徒手理学療法研究会評議員 牛ノ濱政喜：臨床経験20年を超え、保健学修士、運動器専門・認定理学療法士を取得。							

科目名	神経障害系運動療法特論	単位	1 単位（30時間）	時期	3 年次 前期	講師名	福田 晋・田中 潤 白尾 麻美・石堂晃洋
到達目標							
1. 脳血管障害や脊髄損傷の運動療法を理解できる。 2. 脳血管障害や脊髄損傷の運動療法を実践できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	脳血管障害 ①	田中	検査，評価				
第 2 回	脳血管障害 ①	田中	文献検索，考察				
第 3 回	脳血管障害 ①	田中	プログラム立案，実施				
第 4 回	パーキンソン病 ①	石堂	検査，評価				
第 5 回	パーキンソン病 ②	石堂	文献検索，考察				
第 6 回	パーキンソン病 ③	石堂	プログラム立案，実施				
第 7 回	運動失調症 ①	白尾	検査，評価				
第 8 回	運動失調症 ②	白尾	文献検索，考察				
第 9 回	運動失調症 ③	白尾	プログラム立案，実施				
第10回	運動神経疾患 ①	白尾	検査，評価				
第11回	運動神経疾患 ②	白尾	文献検索，考察				
第12回	運動神経疾患 ③	白尾	プログラム立案，実施				
第13回	脊髄損傷	福田	ポジショニング，呼吸機能向上，関節可動域拡大，筋力増強				
第14回	脊髄損傷 ②	福田	移乗動作，移動動作，床上動作				
第15回	まとめ	白尾・ 田中・ 石堂	既習の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義							
教科書・参考書							
「神経筋障害理学療法学テキスト」：南江堂							
実務経験							
福田 晋：脊髄損傷の理学療法に携わった経験を下に、脊髄損傷の運動療法について教授する。 田中 潤：理学療法業務に携わった経験を活かし、臨床の観点から中枢疾患の理学療法について教授する。 白尾 麻美：脳血管障害の理学療法業務に携わった経験を活かし、脳血管障害の理学療法について教授する。 石堂晃洋：理学療法業務に携わった経験を活かし、臨床の観点から中枢疾患の理学療法について教授する。							

科目名	内部障害系運動療法特論	単位	1 単位（30時間）	時期	3 年次 前期	講師名	吉田治正
到達目標							
1. 呼吸理学療法の手技を実施できる。 2. 内部障害系疾患の病態と症状を理解し、必要な評価を実施し、主要な問題点の解釈を行うことができ、理学療法プログラム立案、ゴール設定を行った上で、実際に理学療法プログラムを実施できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	血液データの解釈方法	血液検査の概要、貧血、炎症、出血傾向、栄養不良、腎機能障害					
第 2 回	COPDの理学療法 ①	C O P Dに対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第 3 回	COPDの理学療法 ②	症例検討：問題点の抽出、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案					
第 3 回	呼吸理学療法テクニック①	横隔膜呼吸、呼吸介助法（演習）					
第 4 回	呼吸理学療法テクニック②	スクイーミング（演習）					
第 5 回	心筋梗塞の理学療法 ①	心筋梗塞に対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第 6 回	心筋梗塞の理学療法 ②	症例検討：問題点の抽出、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案					
第 7 回	慢性腎臓病（C K D）の理学療法 ①	慢性腎臓病に対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第 8 回	慢性腎臓病（C K D）の理学療法 ②	症例検討：問題点の抽出、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案					
第 9 回	糖尿病の理学療法 ①	糖尿病に対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第10回	糖尿病の理学療法 ②	症例検討：問題点の抽出、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案					
第11回	がんの理学療法 ①	がんに対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第13回	がんの理学療法 ②	症例検討：問題点の抽出、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案					
第14回	末梢血管疾患の理学療法	閉塞性動脈硬化症に対する理学療法評価と理学療法プログラム					
第15回	まとめ・総括	第1回～14回の内容に関連した終講試験					
評価方法							
終講試験（70%）、課題（30%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 課題は各演習における成果物を提出する。成果物はルーブリック評価にて評定する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義とペーパーペイシェントを用いた I C F 表、記録物作成と発表、実技修得 オンラインによる講義の可能性があります。							
教科書・参考書							
「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版」：中山書店							
実務経験							
吉田治正：臨床において3学会合同呼吸療法認定士として内部障害の症例のリハビリテーションに携わった経験を 下に、呼吸器疾患に対する理学療法について教授する。							

科目名	義肢装具学	単位	2 単位（60時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	北 義也 榎田 和則 大渡 昭彦
到達目標							
1. 装具療法の位置づけをとらえ、義肢・装具の種類と特徴を理解し、各疾患に対する義肢装具療法の実際を理解できる。 2. 各種装具の種類と特徴、基本的な設定等、装具に関する基礎知識を習得することができる。 また、各疾患に対する装具療法の実際を説明できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	装具学総論	榎田	装具名称と分類・製作過程・力学的基礎・支給体系				
第 2 回	下肢装具の分類	大渡	下肢装具の種類と基本構造、継手軸				
第 3 回	継ぎ手の種類とその機能	大渡	各種継ぎ手が身体に与える作用と適応症状				
第 4 回	長下肢装具と膝装具	大渡	長下肢装具・膝装具の種類と適応疾患				
第 5 回	短下肢装具と靴型装具	大渡	短下肢装具の種類と適応疾患・靴型装具と足底板				
第 6 回	生体力学の基礎	大渡	動作時にみられる筋活動と生体力学				
第 7 回	装具と生体力学	大渡	床反力の基礎と装具の影響による生体力学				
第 8 回	脳血管障害に対する短下肢装	大渡	脳卒中片麻痺患者の歩行に対する短下肢装具の役割				
第 9 回	車椅子と座位保持装置	大渡	車椅子と座位保持装置の基本構造、椅子からの立ち上がり動作				
第10回	体幹装具	榎田	種類と適応（外傷に対する装具・疾患に対する装具）				
第11回	上肢装具 ①	榎田	種類と適応（外傷に対する装具・疾患に対する装具）				
第12回	上肢装具 ②	榎田	手のスプリント（関節リウマチ・末梢神経損傷用スプリント）				
第13回	疾患別の装具	大渡	脳性麻痺・脊髄損傷・関節リウマチに対する装具				
第14回	その他の補装具	大渡	各種の杖と歩行器、福祉用具				
第15回	前半のまとめ	榎田・大渡	第1回～14回の内容に関連した中間試験（筆記）				
第16回	採型、採型について	北	下腿義足の採型体験				
第17回	モデル修正・樹脂流し・下腿義足ソケット	北	義肢の製作工程と下腿義足の分類				
第18回	下腿義足	北	ベンチアライメント、スタティックアライメント				
第19回	下腿義足ダイナミックアライメント	北	異常歩行				
第20回	大腿義足 ①	北	大腿周囲の筋、大腿義足の分類				
第21回	大腿義足 ②	北	ベンチアライメント、スタティックアライメント				
第22回	大腿義足ダイナミックアライメント	北	異常歩行				
第23回	膝継手、足部	北	義足に用いられているパーツと機能				
第24回	膝義足	北	ソケットの分類				
第25回	股義足	北	ソケットの分類				
第26回	特殊義足	北	足根中足義足、禁忌等				
第27回	切断者に対するリハビリテーション ①	北	リハビリテーション中の禁忌等				
第28回	切断者に対するリハビリテーション ②	北	リハビリテーション中の禁忌等				
第29回	筋電義手	北	義手体験、ソケット分類				
第30回	後半のまとめ	北	第16回～29回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
中間試験（50%）、終講試験（40%）、第16～29回の小テスト（10%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義（教科書、プリント使用） 採型等実習							
教科書・参考書							
教科書：「義肢装具のチェックポイント第9版」：医学書院 参考書：「装具学」：医歯薬出版							
実務経験							
北 義也：病院等で義肢装具士として業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる義肢学理論と実技を講義する。 榎田和則：病院等で義肢装具士として業務に携わった経験を下に、臨床に繋がる装具理論について教授する。 大渡昭彦：病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験から臨床における治療用装具の理論と実際を講義する。							

科目名	介護介助喀痰吸引方法論	単位	1 単位（15時間）	時期	1 年次 前期	講師名	上水樽敏子 谷口立子 寺師順一
到達目標							
1. 介助者の身体を守り、被介助者にも安全でやさしい動作介助の方法を学ぶ。 2. 安全な喀痰吸引の方法を理解する。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	動作介助総論	寺師	動作介助の原則について学ぶ A D Lにおける動作介助の位置付けについて学ぶ				
第 2 回	トランスファーについて 1	寺師	トランスファーが要介助となる原因について学ぶ 下肢に支持性があるタイプへのトランスファーについて学ぶ				
第 3 回	トランスファーについて 2	寺師	下肢の支持性がないタイプへのトランスファーのついて学ぶ 1 人で行う全介助パターン 2 人で行う全介助パターン				
第 4 回	基本動作について	寺師	寝返り、起き上がり、立ち上がりの介助法について学ぶ				
第 5 回	歩行について	寺師	歩行における介助法について学ぶ				
第 6 回	喀痰吸引概論	上水樽 谷口	呼吸の仕組みについて理解する 喀痰吸引の必要な状態について理解する 理学療法士が行う喀痰吸引の範囲について理解する				
第 7 回	喀痰吸引の実際	上水樽 谷口	シュミレーター人形を使用して、喀痰吸引の実際を学ぶ				
第 8 回	まとめ	寺師・ 上水樽・ 谷口	第1回～7回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（100%）で配点得点を合計100点満点として評価する。							
講義方法							
教科書、資料を用いた講義・演習 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書・参考書							
「新イラストによる安全な動作介助のてびき 第3版」：医歯薬出版 「動画で分かる呼吸リハビリテーション 第5版」：中山書店							
実務経験							
上水樽敏子：看護師として病院での看護に携わった経験を下に、喀痰吸引について教授する。 谷口立子：看護師として病院・施設での看護に携わった経験を下に、喀痰吸引について教授する。 寺師順一：長年急性期病院の理学療法に携わった経験を下に、主に動作介助について教授する。							

科目名	物理療法学総論	単位	1 単位（45時間）	時期	2 年次 前後期	講師名	鯉崎誠二
到達目標							
1. 各物理療法（温熱・寒冷・光線・牽引・水治療・電気刺激）の特性とその原理について説明できる。 2. 各物理療法（温熱・寒冷・光線・牽引・水治療・電気刺激）の適応と禁忌について説明できる。 3. 各物理療法（温熱・寒冷・光線・牽引・水治療・電気刺激）の実施方法について説明できる。 4. 各物理療法器具を実際に使用できる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	導入 物理療法総論 ①		本講義について説明 物理療法の定義、分類				
第 2 回	物理療法総論 ②		温熱、水治、寒冷、光線、電気、機械刺激療法の生理学的作用と目的				
第 3 回	物理療の適応の多い病態の理解 ①		炎症の定義と概念				
第 4 回	物理療の適応の多い病態の理解 ②		痛みの定義と概念				
第 5 回	温熱療法 ①		温熱療法概論、生理学的作用、目的と効果				
第 6 回	温熱療法 ②		ホットパック、パラフィン浴の特性、使用方法、適応と禁忌				
第 7 回	温熱療法 ③		超短波、極超短波、超音波の特性、使用方法、適応と禁忌				
第 8 回	寒冷療法 ①		寒冷療法概論、生理学的作用、目的と効果				
第 9 回	寒冷療法 ②		クリッカー、コールドパックの特性、使用方法、適応と禁忌				
第10回	光線療法 ①		光線療法概論、光線療法の生理学的作用とその効果				
第11回	光線療法 ②		赤外線、紫外線、レーザー光線療法の特性、使用方法、適応と禁忌				
第12回	前期まとめ ①		前期講義内容の総復習				
第13回	前期まとめ ②		第1回～12回の内容に関連した中間試験				
第14回	水治療法 ①		水治療法概論、水の物理特性と生理学的作用、適応と禁忌				
第15回	水治療法 ②		渦流浴・ハーバードタンク・プール浴の実際				
第16回	電気刺激療法 ①		電気刺激療法概論、目的・効果、適応と禁忌				
第17回	電気刺激療法 ②		治療的電気刺激療法の概論、経皮的末梢神経電気刺激療法の実際				
第18回	電気刺激療法 ③		干渉波電気刺激療法、機能的電気刺激療法の実際				
第19回	牽引療法		牽引療法概論、頸椎・腰椎牽引療法の実際				
第20回	持続的他動運動療法		持続的他動運動療法概論、生理学的作用、CPMの実際				
第21回	振動刺激療法		振動刺激療法概論、生理学的作用、進藤刺激療法の実際				
第22回	後期まとめ ①		後期講義内容の総復習				
第23回	後期まとめ ②		第14回～22回の内容に関連した終講試験				
評価方法							
中間試験（45％），終講試験（45％），授業態度（10％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
講義・演習 オンラインによる講義の可能性がります。							
教科書・参考書							
教科書：「物理療法 第2版」：神陵文庫							
実務経験							
理学療法業務に携わった経験を下に、物理療法について教授する。							

科目名	総合実習演習	単位	1 単位（45時間）	時期	3 年次 前期	講師名	理学療法学科教員
到達目標							
1. 理学療法評価を行うことができる。 2. 理学療法評価の結果を分析・解釈することができる。							
授業計画							
授業回数	主題		授業内容				
第 1 回	OSCE概論、標準的予防法		OSCEの目的、標準的予防のポイント				
第 2 回	三角巾装着介助		三角巾装着のポイント				
第 3 回	バイタルチェック（脈拍血圧測定）		血圧測定方法				
第 4 回	ROM測定		ROM測定（基本軸、移動軸、参考可動域）				
第 5 回	筋力測定		徒手筋力測定（MMT）が実施できる				
第 6 回	形態測定		形態測定（四肢長、周径）時のポイント				
第 7 回	筋の触診		筋の触診のポイント				
第 8 回	痛みの評価		痛みの評価（問診）時のポイント				
第 9 回	反射検査		反射検査（深部、病的）時のポイント				
第10回	片麻痺機能検査		Brunnstromテストのポイント				
第11回	感覚検査		感覚検査（表在、深部）のポイント				
第12回	整形外科的検査		検査（ラセーグ、ドロップアーム）時のポイント				
第13回	脳神経検査		検査（特に対座試験）時のポイント				
第14回	運動失調検査		運動失調検査時のポイント				
第15回	バランス検査		検査（Romberg試験）時のポイント				
第16回	高次脳機能検査		検査（線分末梢試験）時のポイント				
第17回	観察分析：起き上がり動作		動作の観察のポイントとその解釈について				
第18回	観察分析：起立、着座動作		動作の観察のポイントとその解釈について				
第19回	観察分析：歩行		動作の観察のポイントとその解釈について				
第20回	関節可動域練習 上肢		理学療法実施のポイント				
第21回	関節可動域練習 下肢		理学療法実施のポイント				
第22回	筋力増強運動		理学療法実施のポイント				
第23回	まとめ		OSCE				
評価方法							
終講試験（100％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
教科書、プリントを用いた講義および実技 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書							
「PT・OTのための臨床技能とOSCE-コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」：金原出版 「PT・OTのための臨床技能とOSCE-機能障害・能力低下への介入編 第2版」：金原出版							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、免許取得から5年以上業務に従事しているものを臨床実習指導の責任者として学生の受入体勢を整えている。病院で理学療法士として勤務した経験を下に、臨床に繋がる運動理論と実技を講義する。							

科目名	理学療法総合特論	単位	5単位（150時間）	時期	3 年次 後期	講師名	理学療法学科教員
到達目標							
理学療法基礎専門分野、理学療法専門分野について理解する							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	解剖学 ①	中枢神経（脳・脊髄）脳神経					
第 2 回	解剖学 ②	末梢神経					
第 3 回	解剖学 ③	骨・関節 他					
第 4 回	生理学・病理学 ①	代謝、血液、免疫、循環					
第 5 回	生理学・病理学 ②	呼吸、消化と吸収、排泄、神経系					
第 6 回	生理学・病理学 ③	感覚と受容器他、病理学					
第 7 回	運動学 ①	顔面・頸部・体幹、上肢、下肢					
第 8 回	運動学 ②	バイオメカニクス、姿勢、歩行、立ち上がり					
第 9 回	運動学 ③	筋の収縮様式、運動学習					
第10回	まとめ（基礎医学分野） ①	基礎医学分野の小テスト					
第11回	まとめ（基礎医学分野） ②	基礎医学分野の小テスト					
第12回	人間発達学・小児科学 ①	小児疾患					
第13回	人間発達学・小児科学 ②	運動発達					
第14回	人間発達学・小児科学 ③	高齢者の特徴					
第15回	内科学 ①	膠原病、呼吸器疾患					
第16回	内科学 ②	循環器疾患、消化器疾患					
第17回	内科学 ③	代謝・内分泌疾患他					
第18回	臨床神経医学 ①	脳・神経の病態生理、脳血管障害					
第19回	臨床神経医学 ②	神経疾患総論					
第20回	臨床神経医学 ③	自己免疫疾患、筋疾患他					
第21回	臨床心理学 ①	防衛機制、障害受容、転移、記憶、発達心理					
第22回	臨床心理学 ②	心理テスト					
第23回	臨床心理学 ③	心理療法					
第24回	精神医学 ①	症候学、統合失調症、気分障害					
第25回	精神医学 ②	薬物療法、神経症性障害、小児期の精神医学					
第26回	精神医学 ③	てんかん、睡眠障害、パーソナリティ障害、摂食障害 他					
第27回	整形外科学 ①	骨折、脱臼					
第28回	整形外科学 ②	末梢神経障害					
第29回	整形外科学 ③	脊髄・脊椎疾患および損傷					
第30回	整形外科学 ④	変形性関節症					
第31回	整形外科学 ⑤	小児整形疾患					
第32回	整形外科学 ⑥	切断、その他					
第33回	リハビリテーション概論 ①	医学概論					
第34回	リハビリテーション概論 ②	リスク管理、感染症					
第35回	リハビリテーション概論 ③	予防、ICF					
第36回	まとめ（臨床医学分野） ①	臨床医学分野の小テスト					
第37回	まとめ（臨床医学分野） ②	臨床医学分野の小テスト					
第38回	PT－生体力学 ①	運動学習、身体とてこ					
第39回	PT－生体力学 ②	神経伝導速度					
第40回	PT－生体力学 ③	動作と筋					

第41回	PT－運動療法・物理療法 ①	関節可動域拡大
第42回	PT－運動療法・物理療法 ②	伸張運動、筋力増強
第43回	PT－運動療法・物理療法 ③	各種物理療法の適応と禁忌
第44回	PT－理学療法評価法 ①	ROM測定（基本軸、移動軸、参考可動域）
第45回	PT－理学療法評価法 ②	ブルストロム法、形態測定
第46回	PT－理学療法評価法 ③	疾患別評価法、徒手筋力テスト
第47回	まとめ（基礎理学療法分野） ①	基礎理学療法分野の小テスト
第48回	まとめ（基礎理学療法分野） ②	基礎理学療法分野の小テスト
第49回	PT－内科疾患 ①	運動負荷、エネルギー消費、血圧、心疾患
第50回	PT－内科疾患 ②	糖尿病、呼吸機能検査、呼吸機能評価
第51回	PT－内科疾患 ③	がん、慢性腎不全 他
第52回	PT－小児科学 ①	運動発達、小児の反射・反応
第53回	PT－小児科学 ②	脳性麻痺、先天性疾患 他
第54回	PT－整形外科学 ①	関節リウマチ、熱傷、腰痛症、頸部・脊椎障害
第55回	PT－整形外科学 ②	二分脊椎、小児疾患、膝関節障害
第56回	PT－整形外科学 ③	OA、大腿骨頸部骨折 他
第57回	PT－脳血管障害 ①	脳出血、高次脳機能障害
第58回	PT－脳血管障害 ②	画像所見
第59回	PT－脳血管障害 ③	リハビリプログラム、肩手症候群 他
第60回	PT－神経・筋障害 ①	自己免疫疾患
第61回	PT－神経・筋障害 ②	筋疾患
第62回	PT－神経・筋障害 ③	パーキンソン病 他
第63回	PT－脊髄損傷 ①	各髄節機能残存レベルと運動
第64回	PT－脊髄損傷 ②	装具
第65回	PT－脊髄損傷 ③	合併症 他
第66回	PT－補装具療法 ①	上・下肢装具や義肢
第67回	PT－補装具療法 ②	各関節継手、義足の異常歩行
第68回	PT－補装具療法 ③	車椅子 他
第69回	PT－日常生活活動／理学療法概論 ①	概念と分類、各評価法
第70回	PT－日常生活活動／理学療法概論 ②	医療・福祉関連法規、医療面接
第71回	PT－日常生活活動／理学療法概論 ③	研究法 他
第72回	まとめ（理学療法治療学分野） ①	理学療法治療学分野の小テスト
第73回	まとめ（理学療法治療学分野） ②	理学療法治療学分野の小テスト
第74回	まとめ⑤	まとめ
第75回	まとめ⑥	まとめ
第75回	まとめ⑥、⑦	第1回～71回の内容に関連した終講試験（筆記）
評価方法		
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。		
講義方法		
教科書、資料を用いた講義		
教科書・参考書		
教科書：「理学療法士・作業療法士国家試験問題解説(クエスチョンバンク) 共通・専門：MEDIC MEDIA		
実務経験		
理学療法教育に携わった経験を下に、理学療法分野全般について教授する。		

科目名	生活環境論	単位	1 単位（15時間）	時期	2 年次 前期	講師名	金谷親好 上妻龍一
到達目標							
1. 生活環境支援における理学療法の領域を理解する。 2. 臨床での活用法など講義・実技も含め理解を深める。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	生活環境の概念 障害支援について	金谷	定義、障害者と生活環境、ICFと生活環境 障害支援とは				
第 2 回	生活環境支援における制度の利用 支援機器による生活支援	金谷	保険制度について 生活支援工学の基礎としての機器の現状				
第 3 回	心身機能と生活環境 代表的な疾患・障害における生活環境	金谷	生活期に必要な視点、住環境整備、福祉用具（自助具含む） 各種疾患について				
第 4 回	まとめ（1）	金谷	第1回～3回の内容に関連した小テスト（筆記）				
第 5 回	当事者講義	上妻	「自立生活について」　＜★レポート提出＞				
第 6 回	介助技術①	金谷	講義及び演習				
第 7 回	介助技術②	金谷	講義及び演習				
第 8 回	まとめ（2）	金谷	第6回、7回の内容に関連した実技試験				
評価方法							
小テスト（60％）、実技試験（30％）、レポート（10％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 小テストは、第4回の講義時に実施する。 レポートは、第5回の講義終了後に提出し、その内容を評価する。							
講義方法							
教科書、配布資料、動画を用いた講義、実技							
教科書							
「Crosslink リハビリテーションテキスト 生活環境学」： MEDICAL VIEW							
参考書（講師教材資料の参考）							
「高齢者理学療法学」： 医歯薬出版株式会社 「生活支援工学概論」： コロナ社 「OT・PTのための住環境整備論 第3版」： 三輪書店 「地域リハビリテーション学テキスト」： 南江堂 「新イラストによる安全な動作介助のてびき 第3版」： 医歯薬出版							
実務経験							
病院（腰痛予防研修、訪問業務含む）や地域活動（介助教室など）に携わった経験、及び修士課程にて生活支援補完学を専攻し学びを深めた知識を下に障害支援工学の醍醐味を学生に教授する。							

科目名	地域・在宅理学療法学	単位	2単位（30時間）	時期	1年次後期	講師名	坂元美幸 迫田亜弥香
到達目標							
1. 地域の中で理学療法の役割が理解できる。 2. 介護保険制度を理解し、訪問サービスや通所サービス、施設サービス内容が理解できる。 3. レクリエーション療法を通して、対象疾患へのアプローチ方法を学び実践できる。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第1回	地域理学療法総論	坂元	急性期～維持期までの流れや医療機関以外で活躍する理学療法士を紹介する				
第2回	介護保険制度	坂元	介護保険の認定方法、要介護度、各種サービス				
第3回	在宅理学療法 ①	坂元	訪問リハビリテーションの流れと方法				
第4回	在宅理学療法 ②	坂元	在宅酸素療法、栄養管理、褥瘡予防				
第5回	災害リハビリテーション	坂元	災害が起こった時の理学療法士の役割について				
第6回	障害児を対象とした支援	坂元	パワーリハの役割、レクリエーション療法のグループワーク				
第7回	終末期のリハビリテーション	坂元	終末期や緩和期における理学療法の役割について				
第8回	介護予防事業、レクリエーション療法導入①	坂元	特別支援教育における理学療法士の役割について				
第9回	介護予防事業、レクリエーション療法導入② レポート①	坂元	介護予防&レクリエーション療法の計画				
第10回	レクリエーション療法 実演 ①	坂元	介護予防&レクリエーション療法の計画				
第11回	レクリエーション療法 実演 ②	坂元	生活習慣病予防教室、骨粗鬆症予防教室				
第12回	レクリエーション療法 実演 ③	坂元	転倒予防教室、認知症予防教室				
第13回	地域活動について	迫田	地域における実際の地域活動				
第14回	症例検討 レポート②	坂元	症例を通して実践力を身につける				
第15回	まとめ	坂元	第1回～14回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（70%）、レクリエーション内容評価（20%）、レポート（10%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。 レクリエーション内容評価は第10回～12回のレクリエーション演習の発表内容を20点満点で採点する。 レポートは第9回、第14回のレポートの内容を10点満点で採点する。							
講義方法							
教科書、パワーポイントを用いた講義 オンラインによる講義の可能性あります。							
教科書							
なし							
実務経験							
坂元美幸：病院で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、臨床に繋がる地域理学療法学に関する理論と実技を講義する。 迫田亜弥香：地域の介護予防事業に理学療法士として積極的に携わり、その経験を下に講義する。							

科目名	予防理学療法学	単位	2 単位（30時間）	時期	1 年次後期	講師名	金谷親好 福元愛, 他
到達目標							
1. 予防領域における理学療法の領域を理解する。 2. 臨床での活用法など講義・実技も含め理解を深める。							
授業計画							
授業回数	主題	担当	授業内容				
第 1 回	予防理学療法について ①	金谷	予防理学療法の定義と目的を理解する				
第 2 回	予防理学療法について ②	金谷	一次・二次・三次予防の概念、疾病予防と介護予防				
第 3 回	老年医学と予防理学療法 ①	金谷	社会的背景、高齢者評価の基本と老年症候群の理解、				
第 4 回	老年医学と予防理学療法 ②	金谷	高齢者の身体的・心理的特徴を学ぶ				
第 5 回	老年医学と予防理学療法 ③	金谷	予防理学療法士の役割を整理する①				
第 6 回	老年医学と予防理学療法 ④	金谷	予防理学療法士の役割を整理する②				
第 7 回	当事者	福元 他	障害について考える　＜★レポート提出＞				
第 8 回	予防理学療法の展開①	金谷	病気や障害が起こる前に予防的に介入する				
第 9 回	予防理学療法の展開②	金谷	健康寿命の延伸と社会参加の維持に貢献 生活習慣病予防（運動習慣の定着、肥満・糖尿病予防など）				
第10回	予防理学療法の展開③	金谷	転倒予防（高齢者への運動指導、住宅環境調整）				
第11回	車椅子	金谷	演習　＜★レポート提出＞				
第12回	予防理学療法の展開④	金谷	職場復帰支援（リハビリ後の再発予防、就労継続支援） 不活動への対策（運動習慣、集団での関わりなど）				
第13回	予防理学療法の展開⑤	金谷	介助方法の指導 QOL向上（身体機能・心理面・社会参加の維持）				
第14回	まとめ（1）	金谷	第1回～13回の内容のまとめ				
第15回	まとめ（2）	金谷	第1回～13回の内容に関連した終講試験（筆記）				
評価方法							
終講試験（80％）、レポート（20％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
配布資料、動画を用いた講義、演習							
教科書							
「PT・OTリハビリテーションビジュアルテキスト　地域リハビリテーション学」南江堂							
参考書							
「予防と産業の理学療法」：南江堂 「介護予防と介護期・終末期リハビリテーション」：荘道社							
実務経験							
病院（腰痛予防研修、訪問業務含む）や地域活動（健康体操・介助教室など）に携わった経験、及び修士課程にて生活支援補完学を専攻し学びを深めた知識を下に、健康増進から介護予防までを学生に教授する。							

科目名	見学実習	単位	1 単位 (45時間)	時期	1 年次 前期	講師名	実習調整者 臨床実習指導者
到達目標							
新入生にとって理学療法士が実際に働く臨床の現場を見る最初の実習である。 実習では将来働くべく臨床現場を早期に見学し、リハビリテーション医学の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念に理解を深め、これからの専門職としての態度を養成する。 また、入学後の講義などで得た知識を確認し、今後の学習活動への向学心に繋がりをもたせ、具体的な目標を立てる。							
1. 一般的到達目標							
1. 入学前、入学後で、これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 2. 理学療法士になることへの自己動機を確認する。 3. 社会人及び医療従事者としての責任のある行動がとれる。 4. 病院・施設における理学療法部門の位置づけを理解する。 5. 理学療法士の臨床業務（評価・治療）の内容を把握する。 6. 主な理学療法対象疾患の具体的なイメージを持てる。							
2. 学生の行動目標							
① 職員、対象者に対して社会人として相応しいコミュニケーション（適切な挨拶、言葉使い等）ができる。 ② 職場のスケジュールに従って行動することができる。 ③ 病院・施設の規則を遵守できる。 ④ 対象者との不用意な会話は慎み、必要な場合に指導を受けることができる。 ⑤ 対象者について知り得た情報については秘密を厳守（守秘義務）できる。 ⑥ 指導者が実施している評価・治療の見学を通して、その意義に理解しようと試み、理解できないものは積極的なコミュニケーションを図りながら、臨床的な実施方法を学ぶことができる。 ⑦ 実習した内容について、日誌を書くことができる。 ⑧ 疑問点を解消し、さらに理解を深めるために積極的に質問できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第1回	オリエンテーション ①	見学実習について（概要、目的、内容、成績、注意等）					
第2回	オリエンテーション ②	見学実習について（目的、学生配置、実習移動手段等）					
学外実習 (1日8時間、5日間 40時間)		各グループを編成（3～4名）し、承諾を受けた各実習病院・施設に5日間の見学実習を行う。 見学実習の内容は上記の学習の「到達目標」を参考にする。 詳細は別紙「臨床実習録」に記載。					
第3回	オリエンテーション ③	実習後の提出物提出、実習の振り返り、お礼状の作成と送付					
評価方法							
実習の行動目標に対する取り組みについて、実習指導者が学生評定表に基づいて評価を行う。 さらに、学生が作成した実習ノート等の記録物に対して学校が評定を行う。 実習指導者の学生評定（80％）、記録物の評定（20％）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。							
講義方法							
実習指導者の指導のもとで実習を行う。 実習開始・後の学内でのオリエンテーション・振り返りの会を実施。							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、免許取得から5年以上業務に従事しているものを実習指導の責任者として学生の受入体勢を整えている。							

科目名	地域リハビリテーション 見学実習	単位	1 単位 (45時間)	時期	2年次 前期	講師名	実習調整者 臨床実習指導者
到達目標							
1. 地域リハビリテーション見学実習 は、地域を基盤として行われる理学療法士による専門的知識を学ぶ。 2. 地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害者の生活機能の維持・向上への理学療法士としての役割を学ぶ。							
1. 一般的到達目標							
1. 介護保険法や障害者総合支援法における理学療法士の役割を理解する。 2. 他職種との連携・協働の重要性を理解する。 3. 社会人及び医療従事者としての責任的行動がとれる。 4. 地域理学療法の概要を理解する。							
2. 学生の行動目標							
① 職員、対象者に対し社会人として相応しいコミュニケーション（適切な挨拶、言葉使い等）がとれる。 ② 職場のスケジュールに従って行動できる。 ③ 支援の対象者を生活者として捉え、障害の有無にかかわらず地域で豊かに生活する事の意味を学ぶ。 ④ 対象者について知り得た情報については秘密を厳守（守秘義務）できる。 ⑤ 指導者と積極的なコミュニケーションを図りながら、臨床的な実施方法を学ぶことができる。 ⑥ 地域で暮らす人の支援を通し、今後、理学療法士として、地域にどのように貢献できるかを学ぶ。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	オリエンテーション ①	見学実習について（概要、目的、内容、成績、注意等）					
第 2 回	オリエンテーション ②	見学実習について（書類配布、注意事項の確認 等）					
学外実習 (1日8時間、1週間 40時間)		各グループを編成（5～6名）し、承諾を受けた各実習病院・施設に5日間の見学実習を行う。見学実習の内容は上記の学習の「到達目標」を参考にする。 詳細は別紙「臨床実習録」に記載。					
第 3 回	オリエンテーション ③	実習後の提出物提出、実習の振り返り、お礼状					
評価方法							
実習の行動目標に対する取り組みについて、実習指導者が学生評価表に基づいて評価を行う。 さらに、学生が作成した実習ノート等の記録物に対して学校が評価を行う。 実習指導者の評価を80%、記録物に対する学校の評価を20%として学校で総合評価を行う。							
講義方法							
実習指導者の指導の下で実習を行う。 実習開始・後の学内でのオリエンテーション・実習発表会を実施。							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、免許取得から5年以上業務に従事しているものを臨床実習指導の責任者として学生の受入体制を整えている。							

科目名	評価実習	単位	4 単位 (180時間)	時期	2 年次 後期	講師名	実習調整者 臨床実習指導者
到達目標							
本実習では、診療記録等から間接的情報収集や対象者への検査・評価等による情報収集を通じて、問題点を抽出し、対象者の障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶことを目的とする。							
1. 一般的到達目標							
1. 社会人として問題のない態度がとれる。 2. リハスタッフとしての役割を認識する。 3. 病院、施設の目的、システムを理解する。 4. スタッフ、対象者に対し学生としての対応ができる。 5. 総合実習に臨む上での態度や技術を学ぶ。							
2. 学生の行動目標							
① 問診、カルテ等により患者様の全身状態が理解できる。 ② 関連部門からの情報収集ができる。 ③ 実習指導者の協力・助言の下、水準 1 の検査・測定を理解し実施できる。 ④ 実際の対象者の障害に応じた検査・測定項目を選択して行える。 ⑤ 実際の対象者の負担や危険に対応した検査・測定が行える。 ⑥ 検査結果と対象者の要望、その他の情報等を総合的に分析し、問題点を把握できる。 ⑦ 実習指導者の指導・助言のもとで、問題点の統合と解釈、仮説立案等を行える。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	オリエンテーション ①	評価実習について（概要、目的、内容、成績、注意等）					
第 2 回	オリエンテーション ②	評価実習について（目的、学生配置、実習移動手段、宿舎等）					
第 3 回	オリエンテーション ③	評価実習について（必要書類の配布、確認）					
学外実習 (4週間160時間)		各学生が実習病院に赴き、4 週間の評価実習を行う。 「検査・評価項目」については上記目標（3）を参照。					
第 4 回	オリエンテーション ④	実習後の提出物提出、実習の振り返り、お礼状					
評価方法							
①学生評定表成績（60%）＋②診療記録（20%）＋③実習ノート（10%）＋④チェックリスト（10%） ※①は実習指導者による評定、②③④は学校での担当者による評定							
講義方法							
11月～12月にかけて各実習施設に 1～3 名で 4 週間の実習を行う。 実習指導者の指導監督の下で連続的に患者1名の検査測定や必要な情報収集を行い、問題点を抽出し、問題点に関するアセスメント（統合と解釈、仮説立案）を行う。 実習開始・後の学内でのオリエンテーション等を実施し、理解を深める。							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、免許取得から5年以上業務に従事しているものを責任者として学生の受入体勢を整えている。							

科目名	総合実習	単位	14単位 (630時間)	時期	3 年次 前期	講師名	実習調整者 臨床実習指導者
到達目標							
本実習では、診療記録等から間接的情報収集や対象者への検査・評価等による情報収集を通じて、問題点を抽出し、目標設定や基本的な治療プログラムを作成、協同参加で理学療法介入を行い、理学療法を実践できる基礎的知識・技術・態度を修得する。							
1. 一般的到達目標							
1. 社会人として問題のない態度がとれる。 2. リハスタッフとしての役割を認識する。 3. 病院、施設の目的、システムを理解する。 4. スタッフ、対象者に対し学生としての対応ができる。 5. 理学療法士として臨床に臨む上で必要な態度や技術を学ぶ。							
2. 学生の行動目標							
① 問診、カルテ等により患者様の全身状態が理解できる。 ② 関連部門からの情報収集ができる。 ③ 実習指導者の協力・助言の下、水準 1 の検査・測定を理解し実施できる。 ④ 実際の対象者の障害に応じた検査・測定項目を選択して行える。 ⑤ 実際の対象者の負担や危険に対応した検査・測定が行える。 ⑥ 検査結果と対象者の要望、その他の情報等を総合的に分析し、問題点を把握できる。 ⑦ 実習指導者の指導を受ければ対象者の予後を推定できる。 ⑧ 対象者の短期目標ならびに長期目標を立てることができる。 ⑨ 基本的な治療プログラムの立案が行える。 ⑩ 実習指導者の指導・助言のもとで、問題点の分析、目標設定、治療プログラム等を簡潔に記述できる。 ⑪ 実習指導者の指導・助言のもとで、理学療法プログラムを協同参加で実施できる。							
授業計画							
授業回数	主題	授業内容					
第 1 回	オリエンテーション ①	評価実習について（概要、目的、内容、成績、注意等）					
第 2 回	オリエンテーション ②	評価実習について（目的、学生配置、実習移動手段、宿舎等					
第 3 回	オリエンテーション ③	評価実習について（必要書類の配布、確認）					
	学外実習 （Ⅰ期：7週間 315時間） （Ⅱ期：7週間 315時間）	各学生が実習病院に赴き、7週間の臨床実習を 2 か所で行う。 情報収集、面接、観察・分析、検査・測定、問題点の抽出 ゴール設定、基本的 P T プログラム作成と実施					
第 4 回	オリエンテーション ④	実習後の提出物提出、実習の振り返り、お礼状					
評価方法							
①学生評定表成績（60%）＋②診療記録（20%）＋③実習ノート（10%）＋④チェックリスト（10%） ※①は実習指導者による評定、②③④は学校での担当者による評定							
講義方法							
5 月～9 月にかけて各実習施設に 1～3 名で 7 週間をⅠ期、Ⅱ期に分け、実習を行う。 実習指導者の指導監督の下で連続的に患者 1 名の検査測定や必要な情報収集を行い、アセスメントし、理学療法計画を立案し、実際の理学療法プログラムを協同参加で実施する。 実習開始・後の学内でのオリエンテーション等を実施し、理解を深める。							
実務経験							
病院や施設等で理学療法士の業務に携わった経験を持ち、免許取得から 5 年以上業務に従事しているものを責任者として学生の受入体勢を整えている。							

選 択 科 目

科目名	トレーニング指導学		単位	1 単位（34時間）	時期	夏季休業 集中講義	講師名	新納幸喜 藤田 勉
到達目標								
1. 将来医療人をめざしている学生に教養豊かな幅広い社会に貢献できるような道徳的、社会的人柄の育成を目指す。 2. トレーニングの基礎を学ぶとともに、様々なトレーニングの方法、理論を理解し、目的にあったプログラム作成ができるようにする。 3. 各トレーニング方法を実習を通して学び、その基礎と正しい動作を理解するとともに、様々な目的に対応した効果的トレーニングを習得する。 4. 運動と心理に関する基礎を理解し、競技力向上・健康増進といった様々な目的に対応した心理的活用法を学ぶ。								
授業計画								
授業回数	主題	担当	授業内容					
第1回	各種トレーニング法の理論とプログラム ①	新納	トレーニング計画の立案（総論）					
第2回	各種トレーニング法の理論とプログラム ②	新納	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成					
第3回	各種トレーニング法の理論とプログラム ③	新納	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成					
第4回	各種トレーニング法の理論とプログラム ④	新納	特別な対象のためのトレーニングとプログラム					
第5回	トレーニングの運営	新納	トレーニング施設の管理・運営、リスクマネジメントについて					
第6回	運動指導のための情報収集と活用	新納	運動指導のための情報収集と活用					
第7回	運動と心理（1）	藤田	基礎理論					
第8回	運動と心理（2）	藤田	スポーツ選手の競技力向上への活用					
第9回	運動と心理（3）	藤田	一般人の健康増進への活用					
第10回	バイオメカニクス	新納	スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス					
第11回	各種トレーニング法の実際 ①	新納	筋力トレーニングの実際 その1					
第12回	各種トレーニング法の実際 ②	新納	筋力トレーニングの実際 その2					
第13回	各種トレーニング法の実際 ③	新納	パワー向上トレーニングの実際					
第14回	各種トレーニング法の実際 ④	新納	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際					
第15回	各種トレーニング法の実際 ⑤	新納	スピード向上トレーニングの実際					
第16回	各種トレーニング法の実際 ⑥	新納	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際					
第17回	まとめ	新納・藤田	第1回～16回の内容に関連した終講試験（筆記）					
評価方法								
終講試験（100％）で配点得点を合計100点満点として評価する。 講義及び協力トレーニング施設STRENGTH34による実習								
教科書・参考書								
トレーニング指導者テキスト(理論編)（実践編）								
実務経験								
新納幸喜：JATI-SATI(2013年)、CSCS(2004年)／鹿屋体育大学カヌー一部ストレングスコーチ、 加治木工業高校ラグビー部S&Cコーチ他 藤田 勉：鹿児島大学准教授13年 日本スポーツ心理学会所属15年								

シラバス索引

あ 行

運動学	30
運動学演習	31
運動器障害系運動療法特論	68
運動生理学	29
運動療法総論	60
栄養薬理学	41

か 行

介護介助喀痰吸引方法論	72
解剖学	26
画像読影学演習	42
義肢装具学	71
基礎生物学	20
基礎物理学	21
基礎予防学	43
基礎理学療法評価学Ⅰ	53
基礎理学療法評価学Ⅱ	54
基礎理学療法評価学Ⅲ	55
機能解剖学	27
見学実習	80
コミュニケーション論	18

さ 行

小児科学	40
情報処理学	19
神経障害系運動療法特論	69
神経内科学	38
スポーツリハビリテーション学	66
生活環境論	77
整形外科学	37
精神保健学	39
生理学	28
総合実習	83
総合実習演習	74
総合理学療法評価学	59

た 行

多職種連携論	44
地域・在宅理学療法	78
地域リハビリテーション見学実習	81
統計学	25

動作分析学	48
トレーニング指導学	84

な 行

内部障害系運動療法特論	70
内科学	36
日常生活活動学	67
人間関係論	17
人間発達学	32

は 行

バイオメカニクス論	33
評価実習	82
病理学	34
物理療法学総論	73
文章表現論	22
保健体育学	24

や 行

予防理学療法学	79
---------	----

ら 行

理学療法概論	47
理学療法管理学	52
理学療法基礎特論	50
理学療法研究特論	49
理学療法総合特論	75
理学療法治療学Ⅰ	61
理学療法治療学Ⅱ	62
理学療法治療学Ⅲ	63
理学療法治療学Ⅳ	64
理学療法治療学Ⅴ	65
理学療法臨床特論	51
リハビリテーション医学	45
リハビリテーション英語	23
リハビリテーション理念・自立支援・就労支援論	46
臨床心理学	35
臨床理学療法評価学Ⅰ	56
臨床理学療法評価学Ⅱ	57
臨床理学療法評価学Ⅲ	58

学 校 法 人 南 学 園
鹿 児 島 医 療 福 祉 専 門 学 校
理 学 療 法 学 科
〒890-0034
鹿 児 島 市 田 上 八 丁 目 21 番 3 号
TEL 099-281-9947 (直通)
FAX 099-281-9965 (直通)